

シラバス（授業概要） 看護学部看護学科 2023 Syllabus

2022 年度以降の入学生

<教養基礎領域>		<看護専門領域>		<教養基礎領域>	
自然・人間・社会		基礎看護学		自然・人間・社会	
医療法学	2	看護学原論 I	62	キャリアデザイン	130
教育原理	4	看護学原論 II	64		
教育心理学	6	基礎看護技術 I	66	<専門基礎領域>	
教育制度論	8	基礎看護技術 II	68	社会と環境	
物理学	10	基礎看護技術 III	70	疫学	132
化学	12	基礎看護技術 IV	72		
生命科学	14	地域在宅看護学		<看護専門領域>	
基礎演習	16	地域在宅看護学概論 I	74	成人看護学	
キャリアデザイン	18	地域在宅看護学概論 II	76	成人看護援助論 II	134
国際・地域		地域包括ケア看護論	78	成人看護援助論 III	136
英語III（看護英語）	20	成人看護学		成人看護援助論演習	138
		成人看護学概論	80	老年看護学	
		老年看護学	82	老年看護援助論 II	140
<専門基礎領域>		老年看護学概論		母性看護学	
社会と環境		母性看護学		母性看護援助論 II	142
保健統計学	22	母性看護学		小児看護学	
疫学	24	母性看護学概論	84	小児看護学	
公衆衛生学	26	小児看護学		小児看護援助論 II	144
保健医療行政論	28	小児看護学概論	86	精神看護学	
社会福祉概論	30	精神看護学		精神看護援助論 II	146
家族関係論	32	精神看護学概論	88	在宅看護学	
養護概説	34	看護の統合		在宅看護援助論	148
こころと発達		家族看護論	90	看護の統合	
生涯発達心理学	36	国際看護論	92	看護倫理	150
臨床心理学	38	看護研究	94	看護管理論 I	152
カウンセリング	40	国際看護研修	96	看護管理論 II	154
体の仕組みと働き		臨地実習		災害看護論	156
解剖学 I	42	基礎看護学実習 I	98	看護研究 I	158
解剖学 II	44	基礎看護学実習 II	100	看護研究 II	160
生理学 I	46	聖隸看護基盤実習	102	看護統合セミナー	162
生理学 II	48	公衆衛生看護学		国際看護実習	164
栄養生化学	50	公衆衛生看護学概論	104	臨地実習	
疾病の成り立ちと回復		公衆衛生看護技術論	106	急性期看護学実習	166
微生物・感染	52	公衆衛生看護技術論演習	108	慢性看護学実習	168
病理・病態	54	公衆衛生看護推論	110	老年看護学実習 II	170
疾病・治療学 I	56	公衆衛生情報処理演習	112	母性看護学実習	172
疾病・治療学 II	58	公衆衛生看護活動論	114	小児看護学実習	174
薬理	60	公衆衛生看護学実習 I	116	精神看護学実習	176
				在宅看護学実習	178
				統合実習	180
<教職に関する科目>				公衆衛生学	
		教職概論	118	公衆衛生看護活動論	182
		学校保健	120	公衆衛生看護活動論演習	184
		特別支援教育概論	122	公衆衛生看護総合演習	186
		教育課程・方法論	124	公衆衛生看護管理論	188
		教育相談の理論と方法	126	公衆衛生看護学実習	190
		学校体験活動	128		

<教職に関する科目>	
健康相談活動	192
道徳・特別活動・	
総合的な学習の時間	194
生徒指導の理論と方法	196
養護実習事前事後指導	198
養護実習 I	200
養護実習 II	202
教職実践演習（養護教諭）	204

科目名	医療法学	
科目責任者	熊澤 武志	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP1 教養基礎	
科目の 位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけています。	
科目概要	社会の中で人と人が物事を円滑に遂行するためには法という一定のルールを守る必要がある。医療従事者もその責務を果たす上で法を遵守することは重要であり、医療従事者が法に違反することは、社会における医療への信用・信頼を失墜させる要因になりかねない。本科目では、種々の事例を踏まえ、将来、医療従事者として働くために必要な法的知識を身につけることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法の基本的原理と裁判のしくみについて説明できる。 2. 医療従事者の民事責任、刑事責任、行政処分について理解できる。 3. 犯罪被害者や犯罪者に対する医療について理解できる。 4. 医療安全を学ぶことの重要性について理解できる。 5. 医療従事者の裁判事例から医療事故の問題点を述べることができる。 6. 医療従事者を取り巻く法的知識について関心を高めることができる。 	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第 1 回 : 法のしくみと裁判のしくみ	熊澤 武志
	第 2 回 : 医療従事者と民事責任	長谷川 智華
	第 3 回 : 医療従事者と刑事責任・行政処分	長谷川 智華
	第 4 回 : 犯罪被害者及び犯罪者に対する法律と医療	長谷川 智華
	第 5 回 : 医療安全	佐久間 由美
	第 6 回 : 医療関連死	長谷川 弘太郎
	第 7 回 : 医事紛争	藤井 輝
	第 8 回 : 医療従事者と裁判・まとめ	熊澤 武志

アクティブ ラーニング	授業ではリアクションペーパーの作成のほか、学生同士のディスカッションを取り入れながら進めます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成・提出、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	平常点 (50%) とレポート (50%) を総合的に評価します。平常点にはリフレクション課題の提出と記述内容が含まれます。なお、レポートの評価法にはループリックは用いません。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では、リアクションペーパー作成事前学修 40 分程度、事後学修 40 分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志（看護学部 1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は看護師、医師、弁護士、法医鑑定や医療訴訟の実務経験を有する講師陣が実務の観点を踏まえて教授します。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育原理
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP1 教養基礎
科目の 位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	「教育」と聞いて、最初に思い浮かぶのは学校ではないだろうか。しかし、学校教育が成立したのは、人類の長い歴史に照らせば比較的最近のことである。この講義では、教育の基礎的な概念や教育の歴史と思想を理解することで、今、私たちが当たり前と思っている「教育」を問い直し、現代教育の意義と課題を考察することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国と欧米諸国における教育の歴史・思想を理解する。 2. 教育とは何か、その意義と目的を理解し、説明できるようになる。 3. 現代の学校教育の長所・短所について、自分の考えを述べられるようになる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教育学の基礎① 教育学の基礎概念</p> <p>第3回：教育学の基礎② 子どもたちの育ちの現状</p> <p>第4回：発達と教育① 前思春期における家庭環境と発達・教育</p> <p>第5回：発達と教育② 思春期における友達関係と発達・教育</p> <p>第6回：発達と教育③ 思春期における人格再統合</p> <p>第7回：教育の歴史① 形成と教育</p> <p>第8回：教育の歴史② 近代学校の誕生</p> <p>第9回：教育の歴史③ 日本における公教育制度の成立と展開</p> <p>第10回：教育の思想① 宗教と教育</p> <p>第11回：教育の思想② 子どもの発見</p> <p>第12回：教育の思想③ 新教育と公教育制度</p> <p>第13回：現代教育の意義と課題① 戦後日本の教育改革の理想と展開</p> <p>第14回：現代教育の意義と課題② 情報化社会における学校への期待と課題</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク
授業内のICT活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対するフィードバック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	木村元・汐見稔幸『アクティベート教育学 01 教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。
参考図書	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理 第三版』有斐閣アルマ、2016年。
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：テキストの該当箇所に目を通しておく。(2回～15回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連文献・資料を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) <p>※毎回の事前・事後学修の目安時間は40分です。</p>
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	太田知実(1210研究室) tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業で提示する。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP1 教養基礎
科目の 位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	学校における児童生徒の主体的な学習を支えるために知っておくべき学習過程、動機づけ、対人関係、適応・不適応などに関する基本的事項を説明し、児童生徒の発達を踏まえた指導や関わりの基礎となる考え方を修得できるようにする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒の学習の形態や概念及びその過程についての基本的な知識・理論を理解する。 児童生徒の主体的な学習を支える動機づけ、集団（対人関係）、教育評価等の基本的事項とその意義について理解する。 児童生徒の主体的な学習活動を支えるために、学校における適応・不適応の基本的事項について理解し、児童生徒に対する指導と関わりについて考える。
授業計画	<p>第 1 回： 教育心理学を学ぶことの意義</p> <p>第 2 回： 動機づけ・やる気を高める 1 (内発的／外発的動機づけ)</p> <p>第 3 回： 動機づけ・やる気を高める 2 (原因帰属、学習性無力感)</p> <p>第 4 回： 動機づけ・やる気を高める 2 (自己効力、目標設定)</p> <p>第 5 回： 記憶について 1 (短期記憶、長期記憶)</p> <p>第 6 回： 記憶について 2 (再生・再認、忘却)</p> <p>第 7 回： 学習理論について 1 (古典的／道具的条件づけ)</p> <p>第 8 回： 学習理論について 2 (観察学習、代理強化)</p> <p>第 9 回： 学習の形態・教授方法について</p> <p>第 10 回： 教育評価 (児童生徒をどう評価するのか)</p> <p>第 11 回： 児童生徒－教師関係(ピグマリオン効果)</p> <p>第 12 回： 学級という集団(集団規範、集団圧力、凝集性)</p> <p>第 13 回： 学校における適応と不適応 1 (総論)</p> <p>第 14 回： 学校における適応と不適応 2 (いじめ)</p> <p>第 15 回： 学校における適応と不適応 3 (不登校)</p>

アクティブ ラーニング	授業で扱うトピックの関する問い合わせについてグループで議論して、全体で共有する。
授業内の ICT 活用	WebClass のクリックカーモードを使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験 70 %, 授業への取り組み状況 30 % (リアクションペーパー等)
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回 40 分程度行うこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治（看護学部）1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけた場合、確実に時間をとて対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育制度論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP1 教養基礎
科目の 位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理觀を身につけている。
科目概要	<p>本講義は、教育制度の導入背景や概要を理解し、教員として諸制度にどう向き合うかを考えることを目的とする。</p> <p>制度という言葉からは固い印象を受けるが、子どもたちが公平に安定して教育を受けるために必要かつ重要である。またそれは、私たちが受け身で従うべきものというより、知恵や工夫を凝らして能動的に向き合うことで初めて高い効果を發揮するものである。</p> <p>本講義では、今の教育課題も踏まえながら、教育の制度に関する知識の習得を目指すとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教員としての力量を培うことを目指す。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 教職に必要な教育制度に関する基礎概念、諸学説、基本的論点、課題に関する理解を深める。 子どもや青年の学び・アイデンティティ形成と、それをめぐる教育制度との関係について、積極的・能動的に探究する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：現代教育の制度① 公教育の原理と理念</p> <p>第3回：現代教育の制度② 教育法制の概要</p> <p>第4回：現代教育の制度③ 教育行政と教育政策</p> <p>第5回：地方教育政策の展開① 学校と地域の連携をめぐる論点</p> <p>第6回：地方教育政策の展開② 教育委員会制度の理念</p> <p>第7回：地方教育政策の展開③ 教育委員会制度の仕組み</p> <p>第8回：学校経営の原理と展開① 学校経営の基本理念・組織と過程</p> <p>第9回：学校経営の原理と展開② 「学力」「生きる力」と教育経営</p> <p>第10回：学校経営の原理と展開③ 日米における教員評価</p> <p>第11回：開かれた学校づくり① 学校を基盤とした地域連携の展開と課題</p> <p>第12回：開かれた学校づくり② コミュニティ・スクールと地域学校協働本部</p> <p>第13回：教育制度の現代的課題① 安心・安全の学校づくり</p> <p>第14回：教育制度の現代的課題② 格差社会と教育</p> <p>第15回：講義のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	古田薰・山下晃一編著『よくわかる教職エクササイズ 法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、2020年。
参考図書	授業中に適宜指示します
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：テキストの該当箇所に目を通しておく。(2回～15回) ・事後学修：テキストを再度読んだり、追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める(2～15回) <p>※毎回の事後学修の目安時間は40分です。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	太田知実(1210研究室) tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業で提示する。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	物理学
科目責任者	津森 伸一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 教養基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	人間は物理法則に従って動いているため、人体や人間の運動を深く理解するためには物理学に関する知識が不可欠である。本科目は、特にバイオメカニクス分野の前提となる力学の基礎を習得することを目的とする。高等学校において「基礎物理」「物理」を履修していないあるいは内容の理解に自信のない学生向けの内容とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図やグラフなどを用いて物理現象を視覚的に表現できる。 2. 法則の数式的意味を理解し、物理現象を数式として表現できる。 3. 物理法則や数式の持つ意味を言語や図等を用いて分かり易く説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p><担当教員名> 津森 伸一</p> <p>第 1 回：ガイダンス、物理学とは何か、物理量とその表し方</p> <p>第 2 回：変位・速度・加速度、等速直線運動、等加速度直線運動</p> <p>第 3 回：力の合成と分解、ニュートンの第 1 法則（慣性の法則）</p> <p>第 4 回：ニュートンの第 2 法則（運動の法則）</p> <p>第 5 回：問題演習(1)</p> <p>第 6 回：力のつり合い、ニュートンの第 3 法則（作用反作用の法則）</p> <p>第 7 回：重力、垂直抗力</p> <p>第 8 回：問題演習(2)</p> <p>第 9 回：摩擦力</p> <p>第 10 回：仕事、エネルギー（位置エネルギー、運動エネルギー、食物エネルギー）</p> <p>第 11 回：問題演習(3)</p> <p>第 12 回：重心、力のモーメント</p> <p>第 13 回：重心の合成</p> <p>第 14 回：問題演習(4)</p> <p>第 15 回：総まとめ</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、反転授業、グループワークを取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	パソコンと WebClass を用いて、授業用コンテンツの閲覧、小テストの実施、及びリアクションペーパーの作成や返信を行います。
評価方法	筆記試験 60%、小テスト 30%、リアクションペーパー 10%、計 100%で評価します。ループリックを用いた評価は行いません。
課題に対する フィード バック	小テストは WebClass を用いて行い、解答後即座にテストの点数や解説が表示されます。リアクションペーパーは WebClass を用いて提出を行い、教員より個別に質問の回答やコメントを返信します。
指定図書	なし
参考図書	高等学校「基礎物理」「物理」教科書
事前・ 事後学修	授業前に指定された動画教材を閲覧し WebClass の小テストを行うこと（40 分）。 授業後に指定図書の演習問題を解いてみること（40 分）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	NHK 高校講座「物理基礎」が公開するライブラリ (https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/butsurikiso/) を用いた反転学習を行います。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3517 研究室 時間：木曜日 9 時～12 時 上記以外でもメール (shinichi-t@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取って下さい。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	化学
科目責任者	有信 哲哉
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 教養基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生命現象を分子レベルで理解するための基盤となる有機立体化学・反応有機化学の基本を学び、生体分子の機能などを分子レベルで理解できることを学ぶ。また、今後も発展する看護学・医学・生命科学に対して生涯に渡って自律的に学び続けるための学力的な基盤をつくる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化合物の立体構造を表記できる。 2. 重要な有機化合物の性質・反応性を説明できる。 3. 生体を構成する分子の構造的特徴について述べることができ、その役割を説明できる。
授業内容・テーマ等	<授業内容・テーマ等>
	<p>第1回：原子の構造、安定同位体、放射性同位体、第一周期・第二周期の元素の電子式</p> <p>第2回：第三周期の元素の電子式、周期律、共有結合</p> <p>第3回：結合角、VSEPA 理論</p> <p>第4回：結合角と分子の形、非共有電子対を持つ分子の結合角</p> <p>第5回：極性結合、分子全体の極性</p> <p>第6回：ファンデルワールス力、双極子・双極子相互作用、水素結合</p> <p>第7回：イオン結合、金属結合</p> <p>第8回：官能基の種類、骨格構造式</p> <p>第9回：構造異性体、シストラランス異性体、鏡像異性体、RS 配置 (CIP 順位則)</p> <p>第10回：RS 配置の演習、化合物の命名法</p> <p>第11回：五員環（デオキシリボース、リボース）、六員環（イス形、舟形）、立体配座と安定性</p> <p>第12回：グルコースの立体配座、アルケン、アルキン</p> <p>第13回：アルコール、カルボン酸の反応</p> <p>第14回：单糖類・二糖類</p> <p>第15回：多糖類、デンプン、アミノ酸</p>

アクティブラーニング	その他（分子模型を用いたアクティブラーニング） 基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中に学生自身が分子模型を組み立てることで、分子の構造や安定性について考えてもらう。
授業内のICT活用	特になし
評価方法	筆記試験（90%）、課題提出物（確認テスト）（10%）、計100%で総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	講義中に行う確認テストに関しては、授業において詳細な解説を行う。
指定図書	橋爪健作著 橋爪のゼロから劇的！にわかる 無機・有機化学の授業（旺文社） HGS 分子構造模型 A型セット 有機化学入門用（丸善出版） ISBN : 978-4-621-30126-5
参考図書	なし
事前・事後学修	事前学習では、授業計画の該当項目について、教科書を読むこと（40分）。 事後学習では、講義ノート、教科書等を読み返し、さらに関連する演習問題を解き、理解を深めること（40分以上）。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	生命科学																														
科目責任者	熊澤 武志																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 2 セメスター																														
DP 番号と 科目領域	DP2 教養基礎																														
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																														
科目概要	生命科学は、生命的営みを細胞や分子レベルで研究し、生物学や化学だけでなく、あらゆる分野から総合的に研究しようとする学問です。本科目では、生命の基本単位である細胞や生命体の複製を中心とした生命基礎現象のしくみを学び、生殖、がん、ストレス、依存症、性、老化、死などの生命のメカニズムを理解しつつ、看護学を学ぶ上で必要となる生命科学の発展的知識を身につけることを目的とします。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体のリズムについて説明できる。 2. 細胞の基本機能と細胞周期について説明できる。 3. 遺伝子と遺伝子操作技術について理解できる。 4. 遺伝子多型と個人差の関係について説明できる。 5. 生命活動に影響を及ぼす諸因子について説明できる。 6. 生命科学を基礎とする医療の進歩について具体的に述べることができる。 7. 生命への関心を深め、問題意識を高めることができる。 																														
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">第 1 回：生体のリズム</td> <td style="width: 50%;">熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：細胞と細胞周期</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：がんの生物学</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：フリーラジカルとストレス</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：放射線生物学</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：薬物依存</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：血液型の科学</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：中間のまとめとテスト</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：遺伝子の発現とその制御</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：DNA 鑑定と個人識別</td> <td>黒崎 久仁彦</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：性の科学～LGBTs について</td> <td>津田 聰子</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：出生前診断</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：生命科学の倫理</td> <td>長谷川 智華</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：生命と死・まとめ</td> <td>熊澤 武志</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><担当教員名></p>	第 1 回：生体のリズム	熊澤 武志	第 2 回：細胞と細胞周期	熊澤 武志	第 3 回：がんの生物学	熊澤 武志	第 4 回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志	第 5 回：放射線生物学	熊澤 武志	第 6 回：薬物依存	熊澤 武志	第 7 回：血液型の科学	熊澤 武志	第 8 回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志	第 9 回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志	第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志	第 11 回：DNA 鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦	第 12 回：性の科学～LGBTs について	津田 聰子	第 13 回：出生前診断	熊澤 武志	第 14 回：生命科学の倫理	長谷川 智華	第 15 回：生命と死・まとめ	熊澤 武志
第 1 回：生体のリズム	熊澤 武志																														
第 2 回：細胞と細胞周期	熊澤 武志																														
第 3 回：がんの生物学	熊澤 武志																														
第 4 回：フリーラジカルとストレス	熊澤 武志																														
第 5 回：放射線生物学	熊澤 武志																														
第 6 回：薬物依存	熊澤 武志																														
第 7 回：血液型の科学	熊澤 武志																														
第 8 回：中間のまとめとテスト	熊澤 武志																														
第 9 回：遺伝子の発現とその制御	熊澤 武志																														
第 10 回：遺伝子操作技術と遺伝子治療	熊澤 武志																														
第 11 回：DNA 鑑定と個人識別	黒崎 久仁彦																														
第 12 回：性の科学～LGBTs について	津田 聰子																														
第 13 回：出生前診断	熊澤 武志																														
第 14 回：生命科学の倫理	長谷川 智華																														
第 15 回：生命と死・まとめ	熊澤 武志																														

アクティブ ラーニング	授業では小テストやリフレクション課題などに取り組んでもらいます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリアクションペーパーの作成、レポートの提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	中間テスト（30%）、定期試験（40%）、平常点（30%）を総合的に評価します。平常点には小テストの成績、レポートの提出、リフレクション課題への記述内容などが含まれます。なお、レポートの評価法にはループリックは用いません。また、レポート未提出の場合は単位を修得できないことがあります。
課題に対する フィード バック	小テストは試験実施後、模範解答を配付し、必要に応じて解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。また、2～7回目の授業で前回の授業範囲の中から簡単な小テストを実施しますので、理解度の評価に役立ててください。なお、この授業では、事前学修40分程度、事後学修40分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	基礎演習
科目責任者	隆 朋也
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP3 教養基礎
科目の 位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学生活や学修習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけ、主体的に学ぶ姿勢とそのための技能を修得することは、大学在学中はもとより、生涯のさまざまな場面で学び・成長するために欠かせないスタディ・スキルである。本科目では、大学での学修に必要な基礎技能を修得し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学修方法を確立することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 隆朋也、安田智洋、熊澤武志、長峰伸治、小平朋江、神崎江利子 吉里心希、河野貴大、有村優範、兼子夏奈子、山本智子、早川ゆかり、太田知実 山崎淑恵、寺田康祐、岩瀬美保、松本有希、長山ひかる</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 ガイダンス／大学で学ぶ意義</p> <p>第 2 回 大学での学修方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的学修、事前・事後学修の必要性、学修資源の活用など <p>第 3 回 図書館の活用、資料の探し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用方法を学ぶ <p>第 4 回 PC の活用法と情報倫理(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や演習における PC の活用法や留意事項について <p>第 5 回 PC の活用法と情報倫理(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・プレゼンテーション作成やグループワークにおける PC の活用法や留意事項について <p>第 6 回 文章を要約する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる <p>第 7 回 レポートの組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトライン・パラグラフ・トピックセンテンスについて <p>第 8 回 プrezentationのポイント、グループワークオリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いた口頭発表の方法、注意点など ・グループワークの課題提示と今後の進め方について <p>第 9・10 回 グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについての情報収集・ディスカッション ・グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り <p>第 11・12 回 グループ発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを用いた口頭発表 ・ルーブリックを活用した他者評価、教員からのフィードバック <p>第 13 回 文献・資料の使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引用・参考文献の扱い方、文献・資料の探し方を理解する <p>第 14 回 伝えるための文章の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成の仕方の基本を理解する <p>第 15 回 学生相互のレポート添削</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したレポートを学生間で相互評価しフィードバックを得る

アクティブ ラーニング	演習科目です。講義形式の授業・演習の他に、グループワークを行います。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用して授業ごとのリアクションペーパー、レポート提出、グループワークの進捗・成果報告等を行います。 授業では必要に応じて PC を活用した演習を行います。グループワークでは PC を活用して情報収集や資料作成を行います。
評価方法	リアクションペーパー (30%)、レポート (40%)、グループ発表資料と発表内容 (30%) を総合的に評価します。 なお、レポート・グループ発表は、ループリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは WebClass を利用して提出し、質問等は必要に応じて全体にフィードバックします。その他の提出物についても、担当教員が確認した後に WebClass 上で対応します。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。
指定図書	小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
参考図書	前原澄子・遠藤俊子 監修『看護学生のための よくわかる大学での学び方』金芳堂 世界思想社編集部 編『大学生 学びのハンドブック 5訂版』世界思想社
事前・ 事後学修	事前学修：各講義に事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりして授業に臨む（30 分程度）。 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する（30 分程度）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者（看護学部：隆）の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	講義形式の授業においては 2 教室間での同時双方向型メディア授業を行う。講義担当教員が 1 教室で対面授業を行い、その様子を別教室に TV 会議システムで配信する形で行う。メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教員を 1 名以上配置し、教育の質を維持する。また授業時間に講義担当教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる機会も設ける。グループワーク等の演習が中心となる授業では、それぞれの教室に担当教員を配置した対面形式の授業を行う。

科目名	キャリアデザイン (2022年度入学生)	
科目責任者	藤浪 千種	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP4 教養基礎	
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。	
科目概要	看護専門職の多様なキャリアコースを理解するとともに、看護専門職として活躍するために必要な社会人基礎力を身に着ける。また、キャリアデザインの考え方を広げながら、社会人基礎力とキャリアデザインとの関連性を踏まえ、自分のキャリアデザインを描く。	
到達目標	1. キャリアデザインとは何かについて多様な考え方を理解することができる。 2. 社会人として必要なマナー・コミュニケーション能力・ストレスコーピング方法を理解することができる。 3. 看護専門職を目指す自身のキャリアデザインを描くことができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員>
	第1回：オリエンテーション、キャリアデザインとは	藤浪千種
	第2回：自分を知る	小出扶美子
	第3回：社会人として必要なマナーとコミュニケーション力	特別講師、藤浪千種
	第4回：先輩看護専門職のキャリアデザイン①	特別講師①、特別講師② 藤浪千種・小出扶美子
	第5回：先輩看護専門職者のキャリアデザイン②	特別講師①、特別講師② 藤浪千種・小出扶美子
	第6・7回：多様なキャリアコース、ストレスマネジメント	藤浪千種・小出扶美子
	第8回：自身のキャリアデザイン、まとめ	藤浪千種

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された事前課題に主体的に取り組み、授業に参加してください。 ・リアクションペーパーの質問や意見には、授業時またはWebClassなどで回答します。 ・第4・5・6・7回はグループワークを行います。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講師の講義で Zoom などの遠隔方式を取り入れます。 ・グループワークにおいて、複数教室間の意見交換などで Zoom などの遠隔方式を一部取り入れます。 ・授業の中でインターネットを用いた情報検索などを行います。
評価方法	<p>評価は、以下の視点で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組み状況・態度 20 点 ・リアクションペーパー (第1・2・3・4・5・6—7回 : 合計6回、5点×6回) 30 点 ・課題レポート 50 点
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題やリアクションペーパーでの質問や意見に対する回答は、授業時またはWebClass で行います。
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック」本学キャリア支援センター作成資料
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・勝原由美子：看護師のキャリア論、ライフサポート社、2007 ・岩上真珠 他：大学生のためのキャリアデザイン入門、有斐閣、2022. ・山崎京子 他：未来を拓く キャリアデザイン講座、中央経済社、2022.
事前・ 事後学修	<p>1コマあたりの事前事後学修時間の目安はそれぞれ 20 分（合計 40 分）を目安とします。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で提示された課題に取り組み授業に参加してください。また、授業テーマに関連する文献や資料等を探して目を通しておくことをお勧めします。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、わからなかつたこと、知りたいと思ったことを調べてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・聖隸クリストファー大学 キャリア支援センターHP : https://www.seirei.ac.jp/career/ ・日本看護協会 HP : https://www.nurse.or.jp/ ・日本看護系大学協議会 HP : https://www.janpu.or.jp/ ・日本看護協会 ナースストリート https://nurse-st.jp/ ・近くナビ https://chikaku-navi.com/
オフィス アワー	<p>事前にメールでアポイントを取った後に訪室してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤浪千種 (1208 研究室) : chigusa-f@seirei.ac.jp ・小出扶美子 (2713 研究室) : fumiko-k@seirei.ac.jp ・宮谷恵 (1713 研究室) : megumi-m@seirei.ac.jp ・村松美恵 (2711 研究室) : mie-m@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・助産師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	遠隔授業を行う際は、各教室に科目担当者等（藤浪、小出、宮谷、村松）を配置し質問・応答等に対応します。

科目名	英語III（看護英語）
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位（30 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP7 教養基礎
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	「グローバル看護」の概念を中心に、看護職者に求められる多言語・多文化への対応力を養う。本科目を通して対象者の多様性を理解し、英語での看護コミュニケーションに慣れる。前半は講義と視聴覚教材で「看護英語」の世界に親しみ、語彙力、およびロールプレイ等に必要な対話力の基礎を養う。後半は外国人保健医療の課題についてグループワークで学修し、英語でプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護の専門用語、ケアに関する語句を英語で300語以上覚える。 基本的な看護ケアに必要なコミュニケーションを英語で実践できる。 <ul style="list-style-type: none"> 患者さんへの問診、アセスメントが英語で実施できる。 バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。 与薬時の説明、安全確認ができる。 地域在住の外国人保健医療について考える機会を持ち、「グローバル看護」についてグループワークを通して理解を深める。
授業計画	<p><担当教員名> 渥美陽子、パターソン・ドナルド、クラモト・クリスティーン</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 : Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位</p> <p>第2回 : Meeting Patients 初診時の患者登録と生活習慣に関する質問の仕方</p> <p>第3回 : Taking a Medical History 病歴および健康状態の把握</p> <p>第4回 : Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状のアセスメント</p> <p>第5回 : Taking Vital Signs バイタルサインの測定</p> <p>第6回 : 発表会</p> <p>第7回 : まとめ、中間テスト</p> <p>第8回 : Assessing Pain 疾病・負傷による痛みのアセスメント</p> <p>第9回 : Advising about Medication 薬の服用方法、副作用、薬の種類など</p> <p>第10回 : Improving Patients' Mobility 運動機能の回復に向けた援助</p> <p>第11回 : Caring for Inpatients 入院患者のケア</p> <p>第12回 : グループワーク①</p> <p>第13回 : グループワーク②</p> <p>第14回 : グループ発表会</p> <p>第15回 : 期末テスト、まとめ</p>

アクティブ ラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は地域在住の外国人保健医療に関する課題を取り上げ、問題解決型プロジェクトをグループで行い、発表する。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機能を利用して、授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施する。 事前・事後学習、授業内で利用するマルチメディア教材を提供する。 Google 機能を用いてグループ発表の準備、発表を共同編集・同時参加型にする。
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業参加度）10%、小テスト 20%、中間テスト 20%、発表・課題 30%、期末テスト 20%
課題に対する フィード バック	小テスト・課題・中間／最終テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Caring for People』 M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder (著者) (Cengage センゲージ)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べて確認し（発音を含む）、不明な点・課題を明らかにする。 音声ファイルを活用したリスニング、音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）、暗唱練習を行う。表現の定着、内容の理解を深める。 学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	保健統計学
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	根拠に基づく看護の実践において、さまざまなデータを正しく理解し適切に活用するための統計学の知識は必要不可欠である。この科目では、看護専門職者に求められる統計学について、基礎的な理論と分析手法を系統的に学修することを目的とする。単なる暗記ではなく、論理的に考えて結論を導き出す過程に重点を置く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 4. 相関係数の意味および算出方法を説明し、検定および推定ができる。 5. クロス表を作成し、検定ができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： データの性質、母集団と標本</p> <p>第 2 回： 分布を描く、分布の代表値</p> <p>第 3 回： 分布の散布度</p> <p>第 4 回： 演習(1) 記述統計</p> <p>第 5 回： 確率分布・正規分布</p> <p>第 6 回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第 7 回： 割合に関する分布</p> <p>第 8 回： 検定（統計的仮説検定）</p> <p>第 9 回： 2 グループの母平均値の差の検定</p> <p>第 10 回： 演習(2) 1 変数についての解析</p> <p>第 11 回： 相関図と相関係数</p> <p>第 12 回： 相関係数の検定と推定、クロス集計</p> <p>第 13 回： クロス表の検定、関連係数</p> <p>第 14 回： 2x2 のクロス表について</p> <p>第 15 回： 演習(3) 2 変数についての解析</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行います。
授業内の ICT 活用	資料配布、演習問題の提示、リアクションペーパー提出等に WebClass を活用します。またパソコンと統計ソフト（EZR）を活用した演習を行います。
評価方法	定期試験 80%、演習課題 20%
課題に対する フィード バック	演習問題や演習課題の解説、リアクションペーパーに対するコメントなど、口頭や資料配布、WebClass への提示などによって行います。
指定図書	高木廣文『ナースのための統計学 第 2 版』医学書院
参考図書	必要に応じて随時紹介します。
事前・事後学修	事前学修：次の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（40 分）。 事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（40 分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時 WebClass に掲載します。事前・事後学修に活用してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	隆朋也：看護学部、1605 研究室（1 号館 6 階） 基本的に木曜日 15 時～17 時としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール（tomoya-t@seirei.ac.jp）で連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	疫学 (2022年度入学生)
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	集団における健康問題の現状を明らかにするために、問題としている健康問題の発生の程度であるリスクとそのリスクを変化させる要因を探し、両者の因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論、実際の場面における適用方法を習得する。具体的には疫学の歴史的背景、調査・研究方法、リスクの算出方法、因果関係立証の条件とその阻害要因、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学修する。
到達目標	人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を習得することを目標とする。 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 ガイダンス・疫学の概念と歴史 第2回 疫学の専門用語 第3回 疫学指標 指標の比較・年齢調整 第4回 疫学的因果論① 因果関係の立証 第5回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第6回 疫学研究法② コホート研究 第7回 疫学研究法③ 症例対照研究 第8回 関連の指標① 相対危険・寄与危険 第9回 関連の指標② オッズ比 第10回 疫学的因果論② バイアス・交絡要因 第11回 疫学研究法④ 介入研究、臨床試験 第12回 疫学の実例① 臨床疫学 第13回 疫学の実例② 感染症の疫学、社会疫学 第14回 スクリーニング検査① 原理と方法 第15回 スクリーニング検査② 検査精度の評価

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂
参考図書	中村好一 基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版 医学書院 2017 柳川 洋 疫学マニュアル 改訂7版 南山堂
事前・ 事後学修	公衆衛生学についての十分な学力を備えていることが受講の要件です。これについては各自復習(自己学習)してください。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望されます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約30分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約60分です。事前・事後学修では結果や方法を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生学
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	公衆衛生学は人間集団を対象とした健康を保持、増進、予防するための実践的科学であり、同時に社会集団や組織における人々の健康課題を総合的に把握するための学問でもある。そのような公衆衛生学の現状を理解し、健康問題解決のための手段を学修する。具体的には、予防の概念とその種類、地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、産業衛生、関係法規等、健康に影響する様々な社会環境要因とその対策についての理解を深める。
到達目標	集団における健康問題の実態と原因を明らかにし、保健・医療・福祉の現状を理解する。 1. 人間集団における健康問題とその予防策について理解する。 2. わが国における公衆衛生活動について学ぶ。 3. 社会問題化している健康問題について理解する。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 公衆衛生の概念</p> <p>第2回 疾病予防① (予防医学、健康増進、公衆衛生活動)</p> <p>第3回 疾病予防② (対象別アプローチ)</p> <p>第4回 人口統計① (人口静態統計、国勢調査、人口3区分)</p> <p>第5回 人口統計② (平均余命、人口ピラミッド)</p> <p>第6回 人口統計③ (人口動態統計)</p> <p>第7回 保健統計① (健康指標、死亡統計)</p> <p>第8回 保健統計② (疾病統計、衛生統計調査)</p> <p>第9回 生活習慣病の予防① (健康増進、健康づくり)</p> <p>第10回 生活習慣病の予防② (食生活、栄養)</p> <p>第11回 生活習慣病の予防③ (運動、休養、その他)</p> <p>第12回 感染症とその対策① (感染症予防法、検疫、その他)</p> <p>第13回 感染症とその対策② (予防接種、その他)</p> <p>第14回 食品衛生 (食中毒、食品汚染)</p> <p>第15回 産業保健・環境衛生</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	シンプル衛生公衆衛生学 2023 小山 洋 監修 辻一郎, 上島通浩 編集 南江堂 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会
参考図書	医療情報科学研究所 編 公衆衛生がみえる 2022-2023 メディックメディア 丸井英二 編著 わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学 弘文堂
事前・事後学修	前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では定義や法令、計算方法等を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	保健医療行政論
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康で文化的な最低限度の生活を営むことは憲法に保障された国民の権利である。そのために必要であり、用意されている保健医療行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みとその財源である国と地方自治体の財政と医療経済を学修する。また、保健医療政策の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。
到達目標	わが国における保健医療行財政および保健医療サービスの基礎的知識を学ぶ。また、地方公共団体における保健医療行政施策に関する基礎的知識を学ぶ。 1. 我が国における保健医療政策の現状を把握する。 2. 保健医療行政のしくみを学ぶ。 3. 社会保障制度のしくみを学ぶ。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 イントロダクション、保健医療行政の概念と仕組み (行政組織、地方自治体)</p> <p>第2回 保健医療財政の仕組み① 国と地方自治体における制度</p> <p>第3回 保健医療財政の仕組み② 財政基盤、医療費</p> <p>第4回 医療保険制度① 医療保険制度の概要</p> <p>第5回 医療保険制度② 国民健康保険</p> <p>第6回 医療保険制度③ 被用者保険、後期高齢者医療保険</p> <p>第7回 社会保険制度 雇用保険、労働者災害補償保険</p> <p>第8回 年金保険制度① 年金保険制度の概要</p> <p>第9回 年金保険制度② 国民年金、厚生年金、その他</p> <p>第10回 介護保険制度① 介護保険制度の概要</p> <p>第11回 介護保険制度② 介護認定の仕組み</p> <p>第12回 介護保険制度③ 介護サービス</p> <p>第13回 保健医療分野における政策と動向① 生活習慣病対策、感染症対策</p> <p>第13回 保健医療分野における政策と動向② がん対策、難病対策、災害対策、その他</p> <p>第13回 保健医療分野における政策と動向③ 國際保健、國際協力</p>

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	保健学講座 5 保健医療福祉行政論 野村陽子・加藤典子 編集 メジカルフレンド社
参考図書	国民の福祉と介護の動向 2022/2023 厚生統計協会 保険と年金の動向 2022/2023 厚生統計協会 国民衛生の動向 2022/2023 厚生統計協会
事前・事後学修	公衆衛生学の基礎知識と前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望まれます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	社会福祉概論
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	前半では、現代社会における社会福祉問題について社会情勢をふまえて解説していきます。また、社会福祉の理念と実際、歴史等を学びます。後半では、社会福祉の様々な領域の現状を、事例をはじめて学習していきます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎概念を説明できる。 2. 社会福祉に関連するサービスの現状や課題を説明できる。 3. 医療と社会福祉の協働の在り方を説明できる。
	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐々木正和、佐藤順子、福田俊子、川向雅弘
	<p>第1回：社会福祉の基礎概念 現代社会における社会福祉とは (佐々木)</p> <p>第2回：社会福祉をとりまく状況 貧困問題等 (佐々木)</p> <p>第3回 社会福祉の歴史と展開 戦前の社会福祉の歴史 (佐々木)</p> <p>第4回 社会福祉の仕組みと経営 法律・サービスについて (佐々木)</p> <p>第5回 社会福祉の機関と施設 各福祉機関について (佐々木)</p> <p>第6回 社会福祉と援助と方法 ソーシャルワーク・グループワーク (福田)</p> <p>第7回 社会保障制度 (健康保険、高齢者医療、労災等) (佐々木)</p> <p>第8回 公的扶助制度 (生活保護、手当等) (佐々木)</p> <p>第9回 子ども家庭福祉 子どもへの支援(事例紹介) (佐々木)</p> <p>第10回 高齢者福祉 高齢者への支援 (事例紹介) (佐々木)</p> <p>第11回 障がい者福祉 障がい者への支援 (事例紹介) (川向)</p> <p>第12回 地域福祉 地域連携・地域包括ケアシステム (佐藤)</p> <p>第13回 これからの社会福祉の課題 現在ある社会福祉の課題について (佐藤)</p> <p>第14回 社会福祉を支える人たち 様々な社会福祉職 (佐々木)</p> <p>第15回 まとめ (佐々木)</p>
授業計画	

アクティブ ラーニング	反転授業、グループワーク、ロールプレイを用いた講義を行います。課題提出などは、Webclass を活用し双方向の情報提供を行います。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用し、授業進度に応じた双方向授業を行います。 毎回の授業で Webclass を活用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> リアクションペーパー (10%)、テスト (90%)
課題に対する フィード バック	webclass にてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	よくわかる社会福祉士 第11版 ミネルヴァ書房
参考図書	なし
事前・事後学修	<p>事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に教科書の単元を読み込んでおくこと (1~15回) 講義前に前回資料の復習をしておくこと (2~14回) <p>事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業後に WebClass 内のリアクションペーパーに回答すること (1~15回) <p>(事前・事後学修 目安時間 40分)</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	社会福祉学部所属の佐々木正和研究室 (2605 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士・社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	家族関係論	
科目責任者	佐藤 弘明	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎	
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	現代家族の中の人間関係を社会学観点から理解し、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。	
到達目標	1. 自ら経験する現実の家族を社会学的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第 1 回 : 少子化を通してみる家族の中の人間関係	佐藤弘明
	(1) 家族とは何か?	
	(2) 日本の家族 (過去と現在)	
	第 2 回 : 少子化を通してみる家族の中の人間関係	佐藤弘明
	(3) 少子化とは何か	
	(4) 少子化を通してみる夫と妻・①	
	第 3 回 : 少子化を通してみる家族の中の人間関係	佐藤弘明
	(4) 少子化を通してみる夫と妻・②	
	(5) 少子化を通してみる親と子・①	
	第 4 回 : 少子化を通してみる家族の中の人間関係	佐藤弘明
	(5) 少子化を通してみる親と子・②	
	(6) 少子化を通してみる祖父母と孫	
	第 5 回 : 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達	柴田俊一
	第 6 回 : 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して	柴田俊一
	第 7 回 : 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族	柴田俊一
	第 8 回 : 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して	柴田俊一

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	(佐藤) 定期試験（100%）の結果で評価する。ただし、授業中の質疑応答を加点要素とする。 (柴田) レポート 100%で評価する。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	なし
参考図書	授業中、適宜提示します。
事前・ 事後学修	(佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノート の再読が必要です。少なくとも 40 分はかけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	新型コロナウイルス対策の特例として座席間隔を保つため 2 教室での授業を行う。 1 教室で対面授業を行い、もう 1 教室は同時双方向型メディア授業を実施とする。

科目名	養護概説																															
科目責任者	池永 理恵子																															
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎																															
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																															
科目概要	<p>学校における養護（看護）活動には、児童生徒等の保健管理・安全管理、保健教育・安全教育、学校保健に関する教職員との組織活動などがある。学校は、発達発育期にある児童生徒等を対象に、生涯にわたり健康な生活をするために必要な健康に関する基本的な知識・技術・態度の形成を図る教育の場である。学校組織及び児童生徒の特徴、保健室の役割と養護教諭の教育活動について学び、養護実践の基礎を養う。</p>																															
到達目標	<p>養護教諭の職務内容に関する基礎的な知識及び指導・支援の方法を修得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校保健の対象である児童生徒等の特性と発育発達課題を述べることができる。 児童生徒等の心身の健康と安全に関する実態と課題について理解を深めることができる。 学校における養護教諭の役割と校内組織との関連を考えることができる。 専門職の養護教諭として必要な知識・技術・態度を身に付けることができる。 学校内外の保健関係組織との連携及び協働活動の必要性と養護教諭の役割を説明できる。 																															
授業計画	<table> <tr> <td>第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第2回 児童生徒の健康実態の把握と課題</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第3回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第4回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第5回 保健管理－健康診断（健康診断と疾病管理）①</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第6回 保健管理－健康診断（健康診断と事後措置）②</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第7回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成①</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第8回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成②</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第9回 保健管理－学校安全と危機管理</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第10回 保健管理－学校救急処置</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第11回 保健管理－感染症の予防</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第12回 保健管理－学校環境衛生活動</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第13回 特別支援教育における養護活動</td> <td>ゲストスピーカー 津田聰子先生</td> </tr> <tr> <td>第14回 健康相談の進め方と実際</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第15回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、まとめ</td> <td>池永理恵子</td> </tr> </table>		第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性	池永理恵子	第2回 児童生徒の健康実態の把握と課題	池永理恵子	第3回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価	池永理恵子	第4回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動	池永理恵子	第5回 保健管理－健康診断（健康診断と疾病管理）①	池永理恵子	第6回 保健管理－健康診断（健康診断と事後措置）②	池永理恵子	第7回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成①	池永理恵子	第8回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成②	池永理恵子	第9回 保健管理－学校安全と危機管理	池永理恵子	第10回 保健管理－学校救急処置	池永理恵子	第11回 保健管理－感染症の予防	池永理恵子	第12回 保健管理－学校環境衛生活動	池永理恵子	第13回 特別支援教育における養護活動	ゲストスピーカー 津田聰子先生	第14回 健康相談の進め方と実際	池永理恵子	第15回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、まとめ	池永理恵子
第1回 オリエンテーション、養護教諭の職務と専門性	池永理恵子																															
第2回 児童生徒の健康実態の把握と課題	池永理恵子																															
第3回 保健室経営と学校経営、養護活動の評価	池永理恵子																															
第4回 学校保健計画・学校安全計画、組織活動	池永理恵子																															
第5回 保健管理－健康診断（健康診断と疾病管理）①	池永理恵子																															
第6回 保健管理－健康診断（健康診断と事後措置）②	池永理恵子																															
第7回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成①	池永理恵子																															
第8回 保健教育における養護教諭の役割・指導案と教材作成②	池永理恵子																															
第9回 保健管理－学校安全と危機管理	池永理恵子																															
第10回 保健管理－学校救急処置	池永理恵子																															
第11回 保健管理－感染症の予防	池永理恵子																															
第12回 保健管理－学校環境衛生活動	池永理恵子																															
第13回 特別支援教育における養護活動	ゲストスピーカー 津田聰子先生																															
第14回 健康相談の進め方と実際	池永理恵子																															
第15回 保健教育－保健教育指導案の発表と討議、まとめ	池永理恵子																															

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第6回では、健康診断の演習を行い、児童生徒の健康状態・発達発達の評価を行う。 ・第10回では、保健室等の場面における救急処置の事例についての実習・演習を行う。 ・第14回では、健康相談の演習を行う。 ・第15回では、作成した指導案に基づく模擬授業を行う。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においてはプレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 ・グループ発表のプレゼンテーションをプロジェクターを利用して行う。
評価方法	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20%、グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加、態度（演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。） 20%</p> <p>筆記試験 60% 計 100%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題はコメントを添えて返却する。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次の授業で回答したり紹介する。 ・毎回実施する小テストについては、講義の中で解説を行う。 ・個人課題（保健室経営計画の作成他）、グループ課題（保健指導案の作成、保健だよりの作成、）については、授業の中で解説を行い、各個人・グループの内容について共有する。
指定図書	津島ひろ江／編集代表 荒木田美香子／編著 池添志乃／編著 岡本啓子／編著/改訂第10版 養護教諭養成講座Ⅰ 学校における養護活動の展開/ふくろう出版/ISBN:978-4-86186-852-8
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全実務研究会編 「新訂版 学校保健実務必携」第一法規 <p>※その他、必要時応じて随時紹介する。</p>
事前・事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・指示する指導案・保健だよりを作成等をすること ・授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立てる。 ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。
オープンエデュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p>
オフィスアワー	<p>科目責任者：池永理恵子（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします）</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の基本的な特徴についても説明する。
到達目標	1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題や心理的特徴」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について理解する。 2. 1の知識を得ることで、これまでにどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達的観点から自分や他者を理解する。
授業計画	<p>第 1 回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第 2 回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第 3 回： 乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第 4 回： 幼児期前半の発達 1（第 1 次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第 5 回： 幼児期前半の発達 2（自律性、トイレットトレーニング）</p> <p>第 6 回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第 7 回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第 8 回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第 9 回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第 10 回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第 11 回： 中年期の発達 1（中年期危機）</p> <p>第 12 回： 中年期の発達 2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第 13 回： 高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第 14 回： 発達障害の理解と支援 1（学習障害、注意欠如多動性障害）</p> <p>第 15 回： 発達障害の理解と支援 2（自閉スペクトラム症）</p>

アクティブラーニング	アイデンティティ尺度を実際に回答・結果の整理をして、自らの状況の理解を通して青年期の発達課題を学ぶ。
授業内のICT活用	WebClass のクリッカー機能を使って理解度の確認などを行う双方向型授業を実施する。
評価方法	定期試験70%, 授業への取り組み状況30%(リアクションペーパー等)
課題に対するフィードバック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントなどをパワーポイントで映しながら口頭で行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをリアクションペーパーに書く。 授業中配布された資料・プリントに沿って毎回復習を行う。講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	長峰伸治（看護学部）1708研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけすると、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	臨床心理学
科目責任者	松瀬 留美子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は心の問題を抱えるクライエントの理解と心理的援助の方法について研究・実践する学問である。本講では、臨床心理学の概念と心理的援助の方法について学び、精神医学的な知見も取り入れ、発達障害や人格病理、精神障害、依存症などについて基礎的な知識と心理的支援の方法を理解する。また、学校教育現場で取り上げられることの多い課題から、いじめや不登校、虐待について現状を理解し、映像資料や絵本を用いて心の世界と支援方法を検討する。本科目で学ぶ臨床心理学の理論、アセスメントや関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談に活用できる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理臨床的なアセスメントについて理解する。 2. 学校におけるいじめ、不登校の現状の理解と心理支援、児童虐待の心理と対応、発達障害、性別違和、ゲーム依存などの心理問題と児童青年期を中心としたメンタルヘルスについて理解する。 3. 養護教諭が行う健康相談活動に必要な臨床心理学の理論、アセスメント・連携の方法について理解する。【養護教諭課程履修者】
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：生きる力と臨床心理学—臨床心理学の目的と方法</p> <p>第 2 回：心理療法の概観① 　　クライエント中心療法、精神分析、芸術療法</p> <p>第 3 回：心理療法の概観② 　　内観療法、森田療法、行動療法、支持的精神療法</p> <p>第 4 回：心理検査の概観と自己理解</p> <p>第 5 回：不登校の理解と学校における支援</p> <p>第 6 回：いじめ問題 いじめの構造と学校における支援</p> <p>第 7 回：発達障害①自閉スペクトラム症の診断基準と青年期の状態像</p> <p>第 8 回：発達障害②注意欠如多動症の状態像、発達障害生徒・学生への対応</p> <p>第 9 回：虐待と学校臨床、こどもの障害と虐待問題</p> <p>第 10 回：思春期に起こりやすい課題—摂食障害、リストカットと学校での対応</p> <p>第 11 回：性同一性の課題—性別違和、性的指向の理解と学校での対応</p> <p>第 12 回：神経症的問題と精神障害—恐怖症、うつ病、統合失調症、</p> <p>第 13 回：依存症、ゲーム障害、クレプトマニア</p> <p>第 14 回：認知症の理解と支援</p> <p>第 15 回：青年期の事例と心理臨床、授業のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	適応に困難をきたしているクライエントの理解と支援のために必要な面接の知識は、事例検討とディスカッションにより、臨床場面で生かせる確かな実践力を身につける。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 60%、授業内課題（リアクションペーパー）40%、 計 100%
課題に対する フィード バック	レポート・リアクションペーパーのフィードバックは授業で全体に総評することで対応する。期末試験は解答のポイントと採点基準を明示する。
指定図書	『心とかかわる臨床心理』 第3版 (2015) DSM 5 準拠 ナカニシヤ出版 川瀬正裕他編 テキストは I, II, V 章を中心に取り上げ、適宜、資料を配布する。この他、各自で読みやすい「臨床心理学」関連の入門書を選択して読むこと
参考図書	『絵本に学ぶ臨床心理学序説』第2版 (2013) ナカニシヤ出版 松瀬喜治編
事前・事後学修	① 予習として次回授業分の教科書の要約 (20 分) 2~15 回目 ② 復習として配布資料のまとめもしくは授業内容のミニレポートの作成 (20 分) 2~10 回目
オープンエ デュケーシ ョンの活用	衛星放送 BS 放送テレビ 放送大学 「心理学」「臨床心理学」「精神医学」関連の講義 東大テレビ https://todai.tv/ 「心」「精神医学」関連の講座
オフィス アワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「公認心理師」「臨床心理士」「学校心理士」の有資格者で実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	カウンセリング
科目責任者	柴田 俊一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP3 専門基礎
科目の 位置付	様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係能力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	日常生活における相談が個人の考え方や経験をもとに行われることが多いのに対して、カウンセリングは臨床心理学の考え方を基盤に「クライエント(相談に訪れた人)をどのように理解し、いかに関わるのか」を吟味しながら行われる。本講義の目的は、カウンセリングの基礎知識の学習を通して、看護における心理的援助のあり方を考えることである。また、本科目で学ぶカウンセリングの基本理論・技法は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。 2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。 3. カウンセリングのプロセスを理解する。 4. カウンセリングにおける心理アセスメントの意義と方法を理解する。 5. カウンセリングの基盤となる臨床心理学の理論の要点を理解する。 6. 健康相談活動を行う上で基礎となるカウンセリングの理論と技法を理解する。 <p>[養護教諭課程履修者]</p>
授業計画	<p>第 1 回： カウンセリングとは何か</p> <p>第 2 回： カウンセリングの基本姿勢</p> <p>第 3 回： カウンセリングの基本技法 聞き上手とは？</p> <p>第 4 回： クライエント中心療法</p> <p>第 5 回： 非言語的メッセージとカウンセリング</p> <p>第 6 回： カウンセリングの流れ</p> <p>第 7 回： 心理アセスメント(1)</p> <p>第 8 回： 心理アセスメント(2)</p> <p>第 9 回： 精神分析療法の視点から</p> <p>第 10 回： 自己理解を深める演習</p> <p>第 11 回： 家族療法の視点から(1)</p> <p>第 12 回： 家族療法の視点から(2)</p> <p>第 13 回： 遊戯療法・芸術療法の視点から</p> <p>第 14 回： 行動療法・認知行動療法の視点から</p> <p>第 15 回： 自己表現について学ぶ演習</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	レポート 100%で評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の後に、テキストの該当箇所に目を通すこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	解剖学 I
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学 I では下記の内容について要点を講義するが、授業を通して、人体の正常な構造の知識を身につけ、看護専門科目履修のための基礎を築く
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べることができる。 2. 消化器系の構造上の特徴を述べることができる。 3. 呼吸器系の構造上の特徴を述べることができる。 4. 心臓血管系の構造上の特徴を述べることができる。 5. 泌尿器系の構造上の特徴を述べることができる。 6. 内分泌に関与する臓器の構造上の特徴を述べることができる。 7. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成）、 第 2 回：組織学総論（細胞、組織）、 第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道） 第 4 回：消化器系（胃、小腸、大腸、肝臓） 第 5 回：消化器系（肝臓、胆嚢、脾臓、腹膜） 第 6 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔） 第 7 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管） 第 8 回：脈管系（刺激伝導系、血管の構造、循環路） 第 9 回：脈管系（循環路、リンパ系、テスト） 第 10 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道） 第 11 回：自律神経系、内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、胰島、副腎） 第 12 回：神経系（神経組織、神経系の構成） 第 13 回：神経系（脊髄、脳幹、小脳、間脳） 第 14 回：神経系（間脳、大脑、脳室、脳脊髄膜） 第 15 回：まとめ、テスト</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・アプリ (Visible Body など) ・DVDなどの活用を取り入れて実施する。
評価方法	テスト（60%）、小テスト（40%）を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（1コマ当たり約40分以上）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」「目で見る医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	

科目名	解剖学Ⅱ
科目責任者	顧 寿智
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続き、運動器系、感覺器系、生殖器系、神経系について学修し、人体の構造をさらに深く理解することを目指す。解剖学Ⅱの授業を通して、看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけ、看護専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 2. 感覚器系、生殖器系の構造と特徴を述べることができる。 3. 神経系の構造と主な機能を述べることができる。 4. 神経系病理との繋がりを述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：前期のまとめ、運動器系（基本構造、骨の連結） 第 2 回：運動器系（全身の骨） 第 3 回：運動器系（主な骨格筋） 第 4 回：感覺器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚） 第 5 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器） 第 6 回：神経系（脊髄神経） 第 7 回：神経系（脳神経、伝導路）、 第 8 回：解剖実験、まとめ、テスト</p>

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模型の活用、グループ学習などを取り入れて実施する。
授業内の ICT 活用	本授業は、WebClass ・アプリ (Visible Body など) ・DVDなどの活用を取り入れて実施する
評価方法	テスト（60%）、小テスト（40%）を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート、リアクションペーパーのコメント、授業時間外の質問対応など
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
参考図書	『トートラ 人体解剖生理学』佐伯由香等編訳、丸善 相磯貞和訳『ネッター 解剖学アトラス』南江堂 金子丑之助著『日本人体解剖学』南山堂
事前・事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（1コマ当たり約40分以上）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、図書館にあるDVD「目で見る解剖・生理」「目で見る医学の基礎」の受講を勧める。
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週木曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。
実務経験に 関する記述	本科目は医師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	

科目名	生理学 I
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。 2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。 3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。 4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。 5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。 6. 神経系の機能について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収-1</p> <p>第 2 回：栄養の消化と吸収-2</p> <p>第 3 回：栄養の消化と吸収-3</p> <p>第 4 回：呼吸の生理学-1</p> <p>第 5 回：呼吸の生理学-2</p> <p>第 6 回：心臓・循環の生理学-1</p> <p>第 7 回：心臓・循環の生理学-2</p> <p>第 8 回：血液と体液-1</p> <p>第 9 回：血液と体液-2</p> <p>第 10 回：尿の生成とその排泄-1</p> <p>第 11 回：尿の生成とその排泄-2</p> <p>第 12 回：神経機能の基礎・自律神経系</p> <p>第 13 回：脊髄と脳-1</p> <p>第 14 回：脊髄と脳-2</p> <p>第 15 回：脳の高次機能・まとめ</p>

アクティブ ラーニング	小テストやリフレクション課題への取り組みのほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークを取り入れながら進めます。また、教室の状況によっては、反転授業を取り入れます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	定期試験 (60%)、小テスト (30%)、リフレクション課題への記述内容 (10%) を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	「系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」坂井建雄/岡田隆夫/宇賀貴紀 著、第11版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社 「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1) : 解剖生理学」林正健二 編、第5版、メディカ出版
事前・事後学修	小テストやリフレクション課題の作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オープンエ デュケーションの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	生理学Ⅱ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	生体防御システムについて説明できる 体温の調節機構について説明できる。 ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。 感覚系の機能について説明できる。 筋系の機能および筋収縮について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：生体の防御機構 第 2 回：体温とその調節 第 3 回：内分泌系の機能と調節－1 第 4 回：内分泌系の機能と調節－2 第 5 回：生殖と発生 第 6 回：成長と老化 第 7 回：感覚の生理学 第 8 回：筋肉の機能・まとめ

アクティブ ラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。また、教室の状況によっては、反転授業を取り入れます。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答案は次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	「系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」坂井建雄/岡田隆夫/宇賀貴紀 著、第11版、医学書院
参考図書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建雄/河原克雅 編、改訂第3版、日本医事新報社 「ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1) : 解剖生理学」林正健二 編、第5版、メディカ出版
事前・ 事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志 (1716研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	栄養生化学
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	栄養生化学は生命活動と体内に取り入れた栄養素との相互作用を化学的・栄養学的に研究する学問です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、栄養素の生化学的基礎を学び、分子や細胞レベルでの代謝・調節機構、生活習慣病の予防やライフステージに沿った栄養管理のポイント等を理解することを目的とします。本科目で学ぶ用語や名称は、医療における共通言語であり、その理解は看護を学修する上での基盤となります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における栄養生化学の役割について述べることができる。 2. 酵素、ビタミン・補酵素について説明できる。 3. 糖質の構造、機能、代謝について説明できる。 4. 脂質の構造、機能、代謝について説明できる。 5. タンパク質の構造、機能、代謝について説明できる。 6. ポルフィリン代謝と異物代謝について説明できる。 7. 遺伝子発現の仕組みについて説明できる。 8. ライフステージごとの栄養の特徴について述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：ガイダンス・栄養生化学の基礎知識 第 2 回：生体の構成成分と栄養素 第 3 回：酵素の特徴とはたらき 第 4 回：糖質の構造と性質 第 5 回：糖質の代謝 第 6 回：脂質の構造と性質 第 7 回：脂質の代謝 第 8 回：タンパク質の構造と性質 第 9 回：タンパク質の代謝 第 10 回：ビタミン・ミネラルの種類とはたらき 第 11 回：エネルギー代謝 第 12 回：遺伝子の生化学 第 13 回：代謝の異常 第 14 回：栄養状態の評価と判定 第 15 回：ライフステージと栄養</p>

アクティブ ラーニング	整理問題を用いた自主学修やリフレクション課題に取り組むほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら授業を進めます。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用したリフレクション課題の作成・提出、質問の受付や回答等を行います。また、授業ではスライドプロジェクターを利用します。
評価方法	定期試験（80%）、リフレクション課題への記述内容（20%）を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学、小野彰史/倉貫早智/五味郁子/柴田みち/杉山みち子/鈴木志保子/外山健二/中村丁次 著、第 13 版、医学書院
参考図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学、畠山鎮次 著、第 14 版、医学書院
事前・事後学修	リアクションペーパー作成や整理問題を解く等して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業ではリアクションペーパーの作成も含めて、事前学修に 40 分程度、事後学修に 40 分程度を費やします。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	微生物・感染
科目責任者	永田 年
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのこと들을 学習目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。 2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。 3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回：微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類</p> <p>第 2 回：細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質</p> <p>第 3 回：感染と感染症</p> <p>第 4 回：感染に対する生体防御機構</p> <p>第 5 回：滅菌と消毒、感染症の検査・診断・治療、感染症の現状と対策</p> <p>第 6 回：病原細菌と細菌感染症</p> <p>第 7 回：病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症</p> <p>第 8 回：病原ウイルスとウイルス感染症</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	筆記試験 100% (定期試験)
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学』南嶋 洋一他著、医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	講義内容に比べ講義時間が少ないため、予習・復習をすること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。 2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。 また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	病理・病態																															
科目責任者	大石 ふみ子																															
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎																															
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																															
科目概要	<p>病理学とは病気の原因や病変の成り立ち、その経過など疾病の本質について学んでいく分野である。「すりむいた傷が自然に治ってしまった」といった日常よくある現象は、病理学では「組織修復と再生」で説明することができ、臨床の現場でしばしば遭遇する「褥瘡」については、病理学で学ぶ皮膚の「循環障害」が基本的な原因となっている。脳卒中や心筋梗塞も脳、心臓の「循環障害」である。また、現在死亡原因の第1位である「がん」に関しては、病理学ではその発生原因、その後の経過について多くの研究がなされている。このように病理学では、病理学総論の「細胞障害と細胞増殖」「組織、細胞の修復と再生」「循環障害」「炎症」「腫瘍」「代謝異常」「遺伝と先天異常」を通じて、多くの疾患の発生機序や経過などを理解することができる。また、実際に病院で行なわれている病理診断、病理解剖についても紹介したい。講義資料を配布し、質問しながら講義を進める。授業中の講義はパワーポイントで作成したスライドを用いて行う。</p>																															
到達目標	様々な疾患についての病理・病態を理解する。																															
授業計画	<table> <tr> <td>第1回 : 病理学とは何か? 細胞障害と細胞増殖<第1, 2章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第2回 : 組織細胞の修復と再生 (再生, 化生, 創傷治癒, 異物の処理について) <第3章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第3回 : 循環障害1 (循環障害って何? 心臓の循環障害) <第4, 12章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第4回 : 循環障害2 (高血圧症と動脈硬化症, 脳の循環障害) <第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第5回 : 炎症1 (炎症とは? 急性炎症と慢性炎症) <第5章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第6回 : 炎症2 (様々な臓器における炎症) <第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第7回 : 肿瘍1 (腫瘍の形態, 癌の発育と転移, 良性腫瘍と悪性腫瘍, 肿瘍の分化度) <第8章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第8回 : 肿瘍2 (細胞増殖、腫瘍発生の要因と癌遺伝子について) <第2, 8章参照></td> <td>岩下雄二</td> </tr> <tr> <td>第9回 : 老化と再生 (老化と遺伝子、遺伝子修復、組織・細胞の再生について) <第2, 3章参照></td> <td>岩下雄二</td> </tr> <tr> <td>第10回 : 肿瘍3 (癌の疫学. 摘出された様々な腫瘍) <第8章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第11回 : 骨 (骨の吸収と形成, 骨折の治癒, 筋肉の萎縮と炎症, 骨・軟部腫瘍) <第19章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第12回 : 遺伝と先天異常 (遺伝病、染色体異常症、遺伝子診断法について) <第9章参照></td> <td>岩下雄二</td> </tr> <tr> <td>第13回 : 代謝異常1 (タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際) <第10章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> <tr> <td>第14回 : 代謝障害2 (タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム) <第10章参照></td> <td>岩下雄二</td> </tr> <tr> <td>第15回 : 病理組織細胞診断 (病理組織診断, 細胞診断, 病理解剖の実際) <第23章参照></td> <td>安見和彦</td> </tr> </table>		第1回 : 病理学とは何か? 細胞障害と細胞増殖<第1, 2章参照>	安見和彦	第2回 : 組織細胞の修復と再生 (再生, 化生, 創傷治癒, 異物の処理について) <第3章参照>	安見和彦	第3回 : 循環障害1 (循環障害って何? 心臓の循環障害) <第4, 12章参照>	安見和彦	第4回 : 循環障害2 (高血圧症と動脈硬化症, 脳の循環障害) <第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照>	安見和彦	第5回 : 炎症1 (炎症とは? 急性炎症と慢性炎症) <第5章参照>	安見和彦	第6回 : 炎症2 (様々な臓器における炎症) <第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照>	安見和彦	第7回 : 肿瘍1 (腫瘍の形態, 癌の発育と転移, 良性腫瘍と悪性腫瘍, 肿瘍の分化度) <第8章参照>	安見和彦	第8回 : 肿瘍2 (細胞増殖、腫瘍発生の要因と癌遺伝子について) <第2, 8章参照>	岩下雄二	第9回 : 老化と再生 (老化と遺伝子、遺伝子修復、組織・細胞の再生について) <第2, 3章参照>	岩下雄二	第10回 : 肿瘍3 (癌の疫学. 摘出された様々な腫瘍) <第8章参照>	安見和彦	第11回 : 骨 (骨の吸収と形成, 骨折の治癒, 筋肉の萎縮と炎症, 骨・軟部腫瘍) <第19章参照>	安見和彦	第12回 : 遺伝と先天異常 (遺伝病、染色体異常症、遺伝子診断法について) <第9章参照>	岩下雄二	第13回 : 代謝異常1 (タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際) <第10章参照>	安見和彦	第14回 : 代謝障害2 (タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム) <第10章参照>	岩下雄二	第15回 : 病理組織細胞診断 (病理組織診断, 細胞診断, 病理解剖の実際) <第23章参照>	安見和彦
第1回 : 病理学とは何か? 細胞障害と細胞増殖<第1, 2章参照>	安見和彦																															
第2回 : 組織細胞の修復と再生 (再生, 化生, 創傷治癒, 異物の処理について) <第3章参照>	安見和彦																															
第3回 : 循環障害1 (循環障害って何? 心臓の循環障害) <第4, 12章参照>	安見和彦																															
第4回 : 循環障害2 (高血圧症と動脈硬化症, 脳の循環障害) <第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照>	安見和彦																															
第5回 : 炎症1 (炎症とは? 急性炎症と慢性炎症) <第5章参照>	安見和彦																															
第6回 : 炎症2 (様々な臓器における炎症) <第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照>	安見和彦																															
第7回 : 肿瘍1 (腫瘍の形態, 癌の発育と転移, 良性腫瘍と悪性腫瘍, 肿瘍の分化度) <第8章参照>	安見和彦																															
第8回 : 肿瘍2 (細胞増殖、腫瘍発生の要因と癌遺伝子について) <第2, 8章参照>	岩下雄二																															
第9回 : 老化と再生 (老化と遺伝子、遺伝子修復、組織・細胞の再生について) <第2, 3章参照>	岩下雄二																															
第10回 : 肿瘍3 (癌の疫学. 摘出された様々な腫瘍) <第8章参照>	安見和彦																															
第11回 : 骨 (骨の吸収と形成, 骨折の治癒, 筋肉の萎縮と炎症, 骨・軟部腫瘍) <第19章参照>	安見和彦																															
第12回 : 遺伝と先天異常 (遺伝病、染色体異常症、遺伝子診断法について) <第9章参照>	岩下雄二																															
第13回 : 代謝異常1 (タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際) <第10章参照>	安見和彦																															
第14回 : 代謝障害2 (タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム) <第10章参照>	岩下雄二																															
第15回 : 病理組織細胞診断 (病理組織診断, 細胞診断, 病理解剖の実際) <第23章参照>	安見和彦																															

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	笛野公伸、安井弥、岡田保典編「シンプル病理学」南江堂
参考図書	なし
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	疾病・治療学 I
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	健康障害によっておこる疾患には、全身的にあるいは臓器や器官別にさまざまな種類がある。 「疾病・治療学 I」では、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「疾病・治療学 I」では、臨床と診断に加え、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、造血器系、消化器系の代表的な疾患、および麻酔法、治療とリハビリテーションについて学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患の治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	1. 臨床推論と診断 (渡邊 卓哉 1回) 1) 疾患とは何か／診断とは何か 2) 総合的診療科の専門性、その役割と機能について 2. 呼吸器系の疾患 (橋本 大 2回) 1) 呼吸器系の基礎知識 (肺の構造と生理機能、呼吸器系障害の症状と病態生理) について 2) 呼吸器系の重要な疾患と、呼吸器系疾患に対する検査、診断、治療法 (特に 感染症 (肺炎、抗酸菌感染を中心)、気道疾患 (喘息、COPD を中心)、間質性肺疾患、肺がん等) 3. 循環器系の疾患 (岡俊明 2回) 1) 循環器系基礎知識 (解剖、生理、血液循環のしくみ) について (特に①血液の役割 (白血球、赤血球、血小板) ②心臓の解剖 (心室、心房、肺動脈、大動脈心臓弁) ③心臓のポンプ作用 ④全身の血液循環、動脈と静脈の役割) 2) 循環器系障害の症状と主要な循環器系疾患に対する検査・診断・治療 (特に血圧の異常 (高血圧)、心不全、心臓弁膜症、不整脈、虚血性心疾患、先天性心疾患 等) 4. 腎・泌尿器系の疾患 (三崎太郎 2回) 1) 腎・泌尿器系の基礎知識 (構造と機能、腎泌尿器系障害の症状と病態生理) について 2) 腎・泌尿器系の主要疾患と、主な腎泌尿器疾患に対する検査、診断、治療法 5. 血液・造血器系疾患 (土屋絢子 2回) 1) 血液・造血器系の基礎知識 2) 血液・造血器系の主要疾患と、検査・診断・治療 6. 消化器系の疾患 (細田佳佐 3回) 1) 消化器系の基礎知識 (消化器系の構造・解剖と働き、消化器系障害の症状と病態生理) について 2) 上部・下部消化管の主要疾患と、検査・診断・治療 3) 肝胆膵 (肝臓を中心) の疾患と、検査・診断・治療 7. 手術と麻酔 (鳥羽好恵 2回) 1) 麻酔の基礎知識 (意義と種類、観察方法) 2) 麻酔の臨床応用、麻酔の注意点と合併症 8. 治療とリハビリテーション (俵 祐一 1回) 各種疾患・治療プロセスにおけるリハビリテーション専門職の役割と機能について

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。
課題に対する フィード バック	質問は、webclass 等で受け付けます。
指定図書	<p>ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護 株式会社メディカ出版</p> <p>①呼吸器 ②循環器 ③消化器 ④血液／アレルギー・膠原病／感染症 ⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝</p> <p>*これらの教科書は、3年次・4年次まで使用する。</p>
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 各单元において、1年次に履修した生理学、解剖学は、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 授業前に、指定図書の対応する巻の巻頭：構造と機能の部分を読み、理解しておくこと 授業後は、指定図書の対応する巻について学習しておくこと
オープンエ デュケーシ ョンの活用	
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	1 教室、あるいは 2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	疾病・治療学Ⅱ
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「疾病・治療学Ⅱ」は「疾病・治療学Ⅰ」に引き続き、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「疾病・治療学Ⅱ」では、内分泌・代謝系、骨・筋・運動器系、脳・神経系、自己免疫・アレルギー、乳腺、女性生殖器、耳鼻咽喉・頭頸部、さらに小児について代表的な疾患を取り上げて学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 疾患の病態生理を説明できる。 疾患に特有な症状について説明できる。 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 疾患に対する治療について説明できる。 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 内分泌・代謝系 (柏原裕美子 2回) <ol style="list-style-type: none"> 内分泌臓器／内分泌・代謝の機能と障害／検査・診断と治療 代表的内分泌疾患とその治療／糖尿病の最新の治療 骨関節・筋肉・運動器系の疾患 (計3回) <ol style="list-style-type: none"> 運動器総論 (佐々木寛二 1回) 運動器の構造と機能、病態生理について 外傷・四肢の疾患と治療 (吉水隆貴 1回) 外傷／上肢・下肢の関節疾患の診断と治療 脊椎疾患と治療 (水野哲太郎 1回) 脊椎の構造と機能、脊椎の主要疾患と診断と治療 脳・神経系の疾患 (大橋寿彦 2回) <ol style="list-style-type: none"> 脳神経系の基礎知識 (構造と機能、機能障害について) 脳・神経系の代表疾患と検査・診断・治療 <ul style="list-style-type: none"> 神経変性疾患 (アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など) その他の脳・脊髄疾患 (感染、脱髓、代謝性など) 末梢神経疾患、神経筋接合部の疾患、筋疾患 自己免疫・アレルギー疾患 (宮本 俊明 1回) <ol style="list-style-type: none"> 免疫反応、アレルギーの仕組み 自己免疫疾患とその機序 主な膠原病疾患とその治療 乳腺疾患 (吉田 雅行 1回) <ol style="list-style-type: none"> 乳腺の構造・機能と疾患 乳がんの検査・診断・治療 今日の乳がんの最新の動向 女性生殖器疾患 (安達 博 1回) <ol style="list-style-type: none"> 女性生殖器の疾患 女性生殖器疾患の検査・診断・治療 今日の女性生殖器疾患の最新の動向 耳鼻咽喉・頭頸部疾患 (岡村 純 1回) <ol style="list-style-type: none"> 耳鼻咽喉・頭頸部の構造と機能について 耳鼻咽喉・頭頸部の主要疾患と検査・診断・治療 子どもの疾患 (大呂 陽一郎 4回) <ol style="list-style-type: none"> 子どもの代謝性疾患・内分泌疾患 子どもの感染症 子どもの呼吸器疾患・アレルギー疾患 子どもの循環器疾患・悪性新生物

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	リアクションペーパー（10%）、定期試験（90%）にて評価する。 必要に応じてレポートを課すことがある。
課題に対する フィード バック	質問に対しては、Webclass 等で対応いたします。
指定図書	ナーシンググラフィカ NURSINGGRAPHICUS EX 疾患と看護⑤脳・神経 ⑥眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚 ⑦運動器 ⑨女性生殖器
参考図書	なし
事前・事後学修	・各单元において、1年次に履修した生理学、解剖学は、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。 ・授業前は、対応する指定図書の巻頭の 1 基礎知識（構造と機能）の部分を学修しておくこと ・授業後は、指定図書の対応する巻について学修しておくこと
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」「専門看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	1 教室、あるいは 2 教室間での遠隔授業を基本とする。コロナウイルス感染状況によってはオンライン授業を検討する。 2 教室の場合、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	薬理
科目責任者	川村 和美
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	薬理では、医薬品の作用機序を中心に、体内動態、副作用、相互作用など?を学習します。本科目の学習を通じて、国家試験に合格するための知識を身につけるだけでなく、それぞれの医薬品の特徴や使用例を具体的に説明し、配薬、服薬介助などの援助時に、医薬品に興味が持てるよう、授業を進めたいと思います。医薬品の名前は多い上にカタカナだらけでややこしく、取っ付きにくいと思いますが、皆さんが自信を持って臨床で活かせるよう、できる限りわかりやすく薬に親しみが持てるように解説します。 全員 A 評価の単位を取得してくれることを期待しています。
到達目標	1. 主要な薬剤の作用機序を理解する。 2. 特徴的な薬の代表的な副作用を理解する。
	臨床で薬に触れたときにどんな薬かわかる、それぞれの薬に興味が持てるよう、下記のスケジュールで幅広い領域を網羅した授業を行います。
	第1回：第1章 薬を知ろう 第2回：第2、3章 循環器内科、代謝・内分泌内科で主に使われる薬 第3回：第4、5章 消化器内科、呼吸器内科・アレルギー科で主に使われる薬 第4回：第7、8章 腎臓内科・泌尿器科・生殖器科、感覚器科で主に使われる薬 第5回：第9、10章 精神科・心療内科、神経内科で主に使われる薬 第6回：第11章 感染症科で主に使われる薬 第7回：第6、12章 整形外科、腫瘍内科・緩和医療科で主に使われる薬 第8回：第13章 救命救急科・麻酔科で主に使われる薬、試験問題対策問題解説
授業計画	

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	授業内の質問はリアクションペーパーや Web Class で随時、受け付けます。
評価方法	評価方法 評価は 100 点満点とし、点数配分を定期試験 90%、学習態度 10%（出席点）とします。 合計点が 60 点に満たない場合は、再試を実施します なお、本試験に欠席をした学生も再試験の対象となります。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし 発刊を予定しているテキスト（薬事日報）の原案（レジュメ）に従って授業を行います。
参考図書	日本医薬品集、治療薬マニュアル（医学書院）などの医薬品集
事前・ 事後学修	Web Class にアップロードしてある試験対策問題を実施すると、授業の復習と国家試験対策になります。 講義時に配布する資料は、随時、情報を更新し、Web Class 上に PDF をアップロードするので、必要に応じてご活用ください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業後に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は、病院ならびに保険薬局における実務経験と、薬科大学、看護大学、企業における授業経験が豊富な薬剤師が教授します。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とし、教員が不在となる教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応します。一昨年度、本科目は遠隔授業の曜日にあたっていたため、15 コマすべてを zoom を用いて実施しました。コロナウイルスの蔓延状況によっては、遠隔授業の実施科目になる可能性があり、その場合はオンライン授業を検討します。 担当教員は教育設計の専門家『インストラクショナルデザイナー』であるとともに、e ラーニングによる授業設計者の資格（eLP シニアマネージャー/eLP シニアラーニングデザイナー/eLP シニアコンサルタント）を有するため、オンラインとなった場合にも e ラーニング教材に近い講義コンテンツを提供します。

科目名	看護学原論 I
科目責任者	樺原 理恵
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	「看護とは何か」 「看護職者は何をするのか」 「看護学とはどのような学問のか」などの原理を探求し、看護学の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護の本質や歴史を学修し、看護を構成する人・健康・環境について理解を深める。看護実践のための理論的根拠や看護技術について学修し、看護実践の基盤を構成する要素について理解を深める。看護の専門性への道程を理解し、看護・看護学のこれからへの展望と課題について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践と看護の変遷を理解する 2. 看護の対象、健康、環境をとらえる視点を理解する 3. 看護実践のための理論的根拠を理解する 4. 看護実践に必要な技術を理解する 5. 保健・医療・福祉のシステムの中で果たす看護の役割について自分の考えを述べることができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 看護とは何か</p> <p>第2回 看護実践と看護の変遷</p> <p>第3回 看護に求められる教育</p> <p>第4回 看護の対象とその理解 統合体としての人間</p> <p>第5回 看護の対象とその理解 健康障害をもつケアの対象の理解</p> <p>第6回 健康・病気の捉え方・健康に影響する要因</p> <p>第7回 ライフサイクルと健康</p> <p>第8回 看護実践のための理論的根拠</p> <p>第9回 看護実践のための理論的根拠 (ナイチングール、ヘンダーソン)</p> <p>第10回 看護実践のための理論的根拠 (反転授業)</p> <p>第11回 看護における倫理と価値</p> <p>第12回 看護技術とは</p> <p>第13回 看護実践における看護過程の展開</p> <p>第14回 保健・医療・福祉システム</p> <p>第15回 専門職としての看護のあり方</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します 第10回は学生による反転授業、第15回はグループワークをもとにpptを活用し学修内容をプレゼンします
授業内の ICT 活用	WebClassを用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時にはpptを作成します
評価方法	授業参加度(20%)、ミニテスト(20%)、定期試験(60%)
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します
指定図書	志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編(2022)ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論、メディカ出版
参考図書	フローレンス・ナイチンゲール(1859)／湯檻ます・小玉香津子訳(1968/2021)看護覚え書 一看護であること 看護でないこと一、現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン(1950)／湯檻ます・小玉香津子訳(1961/2019)看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 フローレンス・ナイチンゲール(1859)／小玉香津子・尾田葉子訳(2004/2019)看護覚え書 本当の看護とそうでない看護、日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	【事前学修】 *単元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2～14回には授業中にミニテストを実施します。 【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。ディスカッションした内容を個人学修で振り返ります
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	樫原理恵：1616研究室 連絡先 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	看護学原論Ⅱ
科目責任者	樺原 理恵
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	社会と看護学に関する基礎となる知識を学修して、社会に求められる看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護における法的根拠を理解するとともに、看護実践における倫理的課題や医療安全についての理解を深め、看護の専門性について理解を深める。チーム医療や保健・医療・福祉における協働について基礎的な知識や考え方を学修する。さらに、社会から求められる看護の役割の拡大への展望と課題について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における法的根拠を理解する 2. 看護の対象となる人々の多様性を理解し、看護の継続性を理解する 3. 看護実践における倫理的課題を認識し、対応力の基盤をみにつける 4. 看護とその責務、今後の展望と課題について自己の考えを述べることができる
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 看護における法的側面 法の概念と看護実践の職業的法的規則</p> <p>第2回 多職種で取り組む地域包括ケアシステム</p> <p>第3回 看護の展開と継続性 川村佐和子</p> <p>第4回 医療安全への取り組み</p> <p>第5回 倫理的課題への対応 ディベート</p> <p>第6回 災害看護と国際看護</p> <p>第7回 看護とその責務</p> <p>第8回 今後の展望と課題</p>

アクティブ ラーニング	事前課題を基に授業を展開します。 授業内で毎回グループディスカッションを実施します。 第5回は学生によるディベート、第8回はグループワークをもとにpptを活用し学修内容をプレゼンします。
授業内の ICT 活用	WebClassを用いて出席確認、ミニテスト、リアクションを入力します。また反転授業、グループワーク時にはpptを作成します。
評価方法	授業参加度(20%)、ミニテスト(20%)、定期試験(60%)
課題に対する フィード バック	*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。 *リアクションカードの質問には、次回授業で回答します。
指定図書	志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編(2022) ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論、メディカ出版
参考図書	平林勝政 小西知世 和泉澤千恵 西田幸典編(2021) ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 看護行政研究会編()令和5年版看護六法、新日本法規
事前・ 事後学修	【事前学修】 *単元ごとに課題を掲示します。テキストの該当箇所を読んでください。第2~7回には授業中にミニテストを実施します。 【事後学修】 *授業内容、テキストの振り返りをします。グループワークに必要な内容を個人学修で振返ります。
オープンエ デュケーションの活用	なし
オフィス アワー	樫原理恵:1616研究室 連絡先:rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	基礎看護技術 I																																																															
科目責任者	田口 実里																																																															
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 1 セメスター																																																															
DP 番号と 科目領域	DP2 専門																																																															
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																																															
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、看護場面に共通する技術としてコミュニケーション、感染予防、バイタルサイン測定、療養環境の調整、活動と休息を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。																																																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 看護に共通する技術を修得できる 3. 看護の対象となる人の療養環境について理解し、必要な技術について学修し修得できる 4. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 5. 実施した看護技術について、グループで意見交換し、安全・安楽の視点で評価できる 6. 能動的な学修態度を身に着けることができる 																																																															
授業計画	<p><担当教員>田口実里、吉里心希、有村優範、炭谷正太郎、佐久間佐織、早川ゆかり、樺原理恵</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>単元責任者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 科目ガイダンス・看護技術とは</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第2回 コミュニケーションの意義と構成要素</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第4回 感染予防に必要な技術 I ①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第5回 感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第6回 【演習】感染予防に必要な技術①</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第7回 【演習】感染予防に必要な技術②</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第8回 環境調整に必要な技術①</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第9回 環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第10回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメーキング、シーツ交換①</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第11回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメーキング、シーツ交換②</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第12回 活動と休息の基本的な知識</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第13回 活動と休息の援助の実際</td> <td>有村優範</td> </tr> <tr> <td>第14回 【演習】体位変換</td> <td>有村優範 他</td> </tr> <tr> <td>第15回 【演習】体位保持</td> <td>有村優範 他</td> </tr> <tr> <td>第16回 【演習】車いす移乗・移送</td> <td>有村優範 他</td> </tr> <tr> <td>第17回 【演習】ストレッチャー移乗・移送</td> <td>有村優範 他</td> </tr> <tr> <td>第18回 【演習】技術の確認：ベッドメーキング</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第19回 効果的なコミュニケーション技術</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第20回 コミュニケーション障害への対応</td> <td>田口実里</td> </tr> <tr> <td>第21回 【演習】効果的なコミュニケーション技術①</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第22回 【演習】効果的なコミュニケーション技術②</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第23回 バイタルサインの観察①</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第24回 バイタルサインの観察②</td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第25回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①</td> <td>吉里心希 他</td> </tr> <tr> <td>第26回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②</td> <td>吉里心希 他</td> </tr> <tr> <td>第27回 【演習】技術の確認：バイタルサイン</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第28回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ①</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第29回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ②</td> <td>田口実里 他</td> </tr> <tr> <td>第30回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ③・まとめ</td> <td>田口実里 他</td> </tr> </tbody> </table> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p>			単元責任者	第1回 科目ガイダンス・看護技術とは	田口実里	第2回 コミュニケーションの意義と構成要素	田口実里	第3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本	田口実里	第4回 感染予防に必要な技術 I ①	田口実里	第5回 感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション	田口実里	第6回 【演習】感染予防に必要な技術①	田口実里 他	第7回 【演習】感染予防に必要な技術②	田口実里 他	第8回 環境調整に必要な技術①	田口実里	第9回 環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス	田口実里	第10回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメーキング、シーツ交換①	田口実里 他	第11回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメーキング、シーツ交換②	田口実里 他	第12回 活動と休息の基本的な知識	有村優範	第13回 活動と休息の援助の実際	有村優範	第14回 【演習】体位変換	有村優範 他	第15回 【演習】体位保持	有村優範 他	第16回 【演習】車いす移乗・移送	有村優範 他	第17回 【演習】ストレッチャー移乗・移送	有村優範 他	第18回 【演習】技術の確認：ベッドメーキング	田口実里 他	第19回 効果的なコミュニケーション技術	田口実里	第20回 コミュニケーション障害への対応	田口実里	第21回 【演習】効果的なコミュニケーション技術①	田口実里 他	第22回 【演習】効果的なコミュニケーション技術②	田口実里 他	第23回 バイタルサインの観察①	吉里心希	第24回 バイタルサインの観察②	吉里心希	第25回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①	吉里心希 他	第26回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②	吉里心希 他	第27回 【演習】技術の確認：バイタルサイン	田口実里 他	第28回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ①	田口実里 他	第29回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ②	田口実里 他	第30回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ③・まとめ	田口実里 他
	単元責任者																																																															
第1回 科目ガイダンス・看護技術とは	田口実里																																																															
第2回 コミュニケーションの意義と構成要素	田口実里																																																															
第3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本	田口実里																																																															
第4回 感染予防に必要な技術 I ①	田口実里																																																															
第5回 感染予防に必要な技術 I ②・実習室オリエンテーション	田口実里																																																															
第6回 【演習】感染予防に必要な技術①	田口実里 他																																																															
第7回 【演習】感染予防に必要な技術②	田口実里 他																																																															
第8回 環境調整に必要な技術①	田口実里																																																															
第9回 環境調整に必要な技術②・ボディメカニクス	田口実里																																																															
第10回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメーキング、シーツ交換①	田口実里 他																																																															
第11回 【演習】環境調整に必要な技術：ベッドメーキング、シーツ交換②	田口実里 他																																																															
第12回 活動と休息の基本的な知識	有村優範																																																															
第13回 活動と休息の援助の実際	有村優範																																																															
第14回 【演習】体位変換	有村優範 他																																																															
第15回 【演習】体位保持	有村優範 他																																																															
第16回 【演習】車いす移乗・移送	有村優範 他																																																															
第17回 【演習】ストレッチャー移乗・移送	有村優範 他																																																															
第18回 【演習】技術の確認：ベッドメーキング	田口実里 他																																																															
第19回 効果的なコミュニケーション技術	田口実里																																																															
第20回 コミュニケーション障害への対応	田口実里																																																															
第21回 【演習】効果的なコミュニケーション技術①	田口実里 他																																																															
第22回 【演習】効果的なコミュニケーション技術②	田口実里 他																																																															
第23回 バイタルサインの観察①	吉里心希																																																															
第24回 バイタルサインの観察②	吉里心希																																																															
第25回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定①	吉里心希 他																																																															
第26回 【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧の測定②	吉里心希 他																																																															
第27回 【演習】技術の確認：バイタルサイン	田口実里 他																																																															
第28回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ①	田口実里 他																																																															
第29回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ②	田口実里 他																																																															
第30回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際 I ③・まとめ	田口実里 他																																																															

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事前課題をもとに授業を進行します。 ・講義ではディスカッションがあります。 ・演習はグループで進めます。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することができます。 ・授業の出席、リアクションペーパーやミニテストは WebClass を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（または確認テスト）60% ・課題提出物 12% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り） ・技術の確認 20% ……合格が単位認定の必須条件 ・授業への参加態度 8%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関するミニテストについては、授業で解説をします。 ・リアクションペーパーの質問には、次回授業または WebClass で回答します。
指定図書	茂野香おる他 (2022). 統一看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I, 医学書院. 任和子他 (2022). 統一看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II, 医学書院.
参考図書	坂井建雄他 (2022). 統一看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版, 医学書院. 医学情報科学研究所 (2019). 看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術 第 1 版, メディックメディア. ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン)
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>(講義) 単元ごとに提示された課題 (WebClass) に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する (演習) テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する</p> <p>【事後学修】</p> <p>(講義) テキストや授業資料等で授業内容を振り返る (演習) 課題（演習の振り返り：WebClass）に取り組む ※演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	※必要時、隨時授業内で紹介します
オフィス アワー	1号館6階1619研究室 メールアドレス： misato-t@seirei.ac.jp 隨時：事前にメールで問い合わせていただくとスムーズです。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を行う場合があります。その場合、単元責任者のファシリテーションのもと、担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。

科目名	基礎看護技術Ⅱ																																																													
科目責任者	田口 実里																																																													
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 2 セメスター																																																													
DP 番号と 科目領域	DP2 専門																																																													
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																																													
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として、療養者の生活の質を向上するための看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び修得する。本科目では、療養生活を援助する基本的技術として、身体の清潔、食事・栄養、排泄を援助する技術について学び修得する。また、演習では看護者と対象者の両者を経験することによって援助技術の理解を深め、看護に必要な態度を修得する。																																																													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる 4. 対象に合わせた看護援助を考えることができる 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける 																																																													
授業計画	<p><担当教員名></p> <p>田口実里、吉里心希、有村優範、佐久間佐織、炭谷正太郎、早川ゆかり、夏目麻里、樺原理恵</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table> <tbody> <tr><td>第1回 科目ガイダンス</td><td>田口実里</td></tr> <tr><td>第2回 清潔・衣生活の基本的な知識</td><td>田口実里</td></tr> <tr><td>第3回 清潔・衣生活の援助の実際</td><td>田口実里</td></tr> <tr><td>第4回 【演習】寝衣交換</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第5回 【演習】足浴</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第6回 【演習】洗髪①</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第7回 【演習】洗髪②</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第8回 【演習】清拭・寝衣交換①</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第9回 【演習】清拭・寝衣交換②</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第10回 食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価</td><td>吉里心希</td></tr> <tr><td>第11回 食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）</td><td>吉里心希</td></tr> <tr><td>第12回 栄養（経管栄養・中心静脈栄養）</td><td>吉里心希</td></tr> <tr><td>第13回 【演習】技術の確認：寝衣交換</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第14回 【演習】食事介助、口腔ケア①</td><td>吉里心希 他</td></tr> <tr><td>第15回 【演習】食事介助、口腔ケア②</td><td>吉里心希 他</td></tr> <tr><td>第16回 排泄の援助の基本的な知識</td><td>田口実里</td></tr> <tr><td>第17回 排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）</td><td>田口実里</td></tr> <tr><td>第18回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第19回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第20回 【演習】おむつ交換</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第21回 【演習】陰部洗浄</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第22回 排泄の援助の実際（導尿）</td><td>田口実里</td></tr> <tr><td>第23回 感染予防に必要な技術Ⅱ</td><td>有村優範</td></tr> <tr><td>第24回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①</td><td>有村優範 他</td></tr> <tr><td>第25回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②</td><td>有村優範 他</td></tr> <tr><td>第26回 【演習】一時導尿①</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第27回 【演習】一時導尿②</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第28回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ①</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第29回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ②</td><td>田口実里 他</td></tr> <tr><td>第30回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ</td><td>田口実里 他</td></tr> </tbody> </table> <p>*授業計画の詳細については、科目ガイダンスで説明します。</p>		第1回 科目ガイダンス	田口実里	第2回 清潔・衣生活の基本的な知識	田口実里	第3回 清潔・衣生活の援助の実際	田口実里	第4回 【演習】寝衣交換	田口実里 他	第5回 【演習】足浴	田口実里 他	第6回 【演習】洗髪①	田口実里 他	第7回 【演習】洗髪②	田口実里 他	第8回 【演習】清拭・寝衣交換①	田口実里 他	第9回 【演習】清拭・寝衣交換②	田口実里 他	第10回 食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価	吉里心希	第11回 食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）	吉里心希	第12回 栄養（経管栄養・中心静脈栄養）	吉里心希	第13回 【演習】技術の確認：寝衣交換	田口実里 他	第14回 【演習】食事介助、口腔ケア①	吉里心希 他	第15回 【演習】食事介助、口腔ケア②	吉里心希 他	第16回 排泄の援助の基本的な知識	田口実里	第17回 排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）	田口実里	第18回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①	田口実里 他	第19回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②	田口実里 他	第20回 【演習】おむつ交換	田口実里 他	第21回 【演習】陰部洗浄	田口実里 他	第22回 排泄の援助の実際（導尿）	田口実里	第23回 感染予防に必要な技術Ⅱ	有村優範	第24回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①	有村優範 他	第25回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②	有村優範 他	第26回 【演習】一時導尿①	田口実里 他	第27回 【演習】一時導尿②	田口実里 他	第28回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ①	田口実里 他	第29回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ②	田口実里 他	第30回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ	田口実里 他
第1回 科目ガイダンス	田口実里																																																													
第2回 清潔・衣生活の基本的な知識	田口実里																																																													
第3回 清潔・衣生活の援助の実際	田口実里																																																													
第4回 【演習】寝衣交換	田口実里 他																																																													
第5回 【演習】足浴	田口実里 他																																																													
第6回 【演習】洗髪①	田口実里 他																																																													
第7回 【演習】洗髪②	田口実里 他																																																													
第8回 【演習】清拭・寝衣交換①	田口実里 他																																																													
第9回 【演習】清拭・寝衣交換②	田口実里 他																																																													
第10回 食事に関する基本的な知識、栄養状態の評価	吉里心希																																																													
第11回 食事の援助の実際（食事介助、口腔ケア）	吉里心希																																																													
第12回 栄養（経管栄養・中心静脈栄養）	吉里心希																																																													
第13回 【演習】技術の確認：寝衣交換	田口実里 他																																																													
第14回 【演習】食事介助、口腔ケア①	吉里心希 他																																																													
第15回 【演習】食事介助、口腔ケア②	吉里心希 他																																																													
第16回 排泄の援助の基本的な知識	田口実里																																																													
第17回 排泄の援助の実際（自然排尿、自然排便の介助の実際、浣腸）	田口実里																																																													
第18回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄①	田口実里 他																																																													
第19回 【演習】便器・尿器を用いた床上排泄②	田口実里 他																																																													
第20回 【演習】おむつ交換	田口実里 他																																																													
第21回 【演習】陰部洗浄	田口実里 他																																																													
第22回 排泄の援助の実際（導尿）	田口実里																																																													
第23回 感染予防に必要な技術Ⅱ	有村優範																																																													
第24回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ①	有村優範 他																																																													
第25回 【演習】感染予防に必要な技術Ⅱ②	有村優範 他																																																													
第26回 【演習】一時導尿①	田口実里 他																																																													
第27回 【演習】一時導尿②	田口実里 他																																																													
第28回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ①	田口実里 他																																																													
第29回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ②	田口実里 他																																																													
第30回 【演習】個別性に合わせた看護援助の実際Ⅱ③・まとめ	田口実里 他																																																													

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修、事前課題をもとに授業を進行します ・講義ではディスカッションがあります ・演習はグループで進めます。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをします
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することができます。 ・授業の出席、リアクションペーパーやミニテストは WebClass を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験（または確認テスト）60% ・課題提出物 14% 事前課題（ミニテストなど）、事後課題（演習の振り返り） ・技術の確認 20% （寝衣交換） ……合格が単位認定の必須条件 ・授業への参加態度 6%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関するミニテストについては、授業で解説をします ・リアクションカードの質問には、次回授業または WebClass で回答します
指定図書	茂野香おる他 (2022). 統一看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I, 医学書院. 任和子他 (2022). 統一看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II, 医学書院.
参考図書	坂井建雄他 (2022). 統一看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版, 医学書院. 医学情報科学研究所 (2019). 看護技術がみえる vol. 1 基礎看護技術 第 1 版, メディックメディア. ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン)
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>(講義) 単元ごとに提示された課題 (WebClass) に取り組む 学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する (演習) テキスト・講義資料を熟読し、ナーシングスキルなどの動画を視聴する 演習計画書を熟読し、演習ノートを作成する</p> <p>【事後学修】</p> <p>(講義) テキストや授業資料等で授業内容を振り返る (演習) 課題（演習の振り返り：WebClass）に取り組む ※演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	※必要時、隨時授業内で紹介します
オフィス アワー	1号館6階1619研究室 メールアドレス： misato-t@seirei.ac.jp 隨時：事前にメールで問い合わせていただくとスムーズです
実務経験に 関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を行う場合があります。その場合、単元責任者のファシリテーションのもと、担当教員・準教員が各教室に分かれて授業を進行します。

科目名	基礎看護技術III																																																																																											
科目責任者	佐久間 佐織																																																																																											
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 3 セメスター																																																																																											
DP 番号と 科目領域	DP2 専門																																																																																											
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																																																																																											
科目概要	療養生活支援の専門家として、療養者の生命と生活を適切にとらえ、個々に合わせた看護を実践するために必要となるフィジカルアセスメントと看護過程の基礎的知識を学修する。さらに、グループワークを通して、学修した知識や技術、論理的思考を用いて、事例に起こっている状況を判断し、評価する力を培う。																																																																																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの目的を説明できる 2. 人体の構造と機能をふまえた正しい身体診査技術の方法を説明できる 3. 学んだ知識を用いて、問診および基本的な診査技術を正しく安全に実践できる 4. 観察したことを記録し、他者へ報告できる 5. 看護過程の意義を説明できる 6. 看護過程を構成する要素、プロセスについて説明できる 7. 事例を用いて看護過程を展開することができる 8. 看護過程についてクリティカルに議論することができる 																																																																																											
授業計画	<p><担当教員名>佐久間佐織、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、樺原理恵 <授業内容・テーマ等></p> <table> <tr> <td>第1回 科目ガイダンス</td> <td>看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方</td> <td>单元責任者 佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第2回 フィジカルアセスメントとは 基本技術、問診</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第3回 呼吸器系のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第4回 循環器系のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>早川ゆかり</td> </tr> <tr> <td>第5回 呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント【演習】</td> <td></td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第6回 呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント【演習】</td> <td></td> <td>早川ゆかり 他</td> </tr> <tr> <td>第7回 筋・骨格系のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第8回 神経系のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第9回 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント①【演習】</td> <td></td> <td>佐久間佐織 他</td> </tr> <tr> <td>第10回 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント②【演習】</td> <td></td> <td>佐久間佐織 他</td> </tr> <tr> <td>第11回 感覚器系（視覚・聴覚）、外皮系のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第12回 摂食・嚥下機能のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第13回 消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント</td> <td></td> <td>吉里心希</td> </tr> <tr> <td>第14回 腹部のフィジカルアセスメント①【演習】</td> <td></td> <td>吉里心希 他</td> </tr> <tr> <td>第15回 腹部のフィジカルアセスメント②【演習】</td> <td></td> <td>吉里心希 他</td> </tr> <tr> <td>第16回 機能的健康パターンとは アセスメントとは</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第17回 アセスメントの書き方、関連図の書き方</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第18回 看護問題、看護成果の明確化</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第19回 機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第20回 機能的健康パターン（身体的側面）</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第21回 看護計画の立案</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第22回 機能的健康パターン（心理・社会的側面）</td> <td></td> <td>佐久間佐織</td> </tr> <tr> <td>第23回 在宅療養者の看護過程の展開</td> <td colspan="2">川村佐和子・佐久間佐織</td></tr> <tr> <td>第24回 紙上事例の看護過程の展開 ①</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> <tr> <td>第25回 紙上事例の看護過程の展開 ②</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> <tr> <td>第26回 紙上事例の看護過程の展開 ③</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> <tr> <td>第27回 紙上事例の看護過程の展開 ④</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> <tr> <td>第28回 紙上事例の看護過程の展開 ⑤</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> <tr> <td>第29回 紙上事例の看護過程の展開 ⑥</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> <tr> <td>第30回 紙上事例の看護過程の展開 ⑦、まとめ</td> <td colspan="2">佐久間佐織 他</td></tr> </table>		第1回 科目ガイダンス	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	单元責任者 佐久間佐織	第2回 フィジカルアセスメントとは 基本技術、問診		佐久間佐織	第3回 呼吸器系のフィジカルアセスメント		早川ゆかり	第4回 循環器系のフィジカルアセスメント		早川ゆかり	第5回 呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント【演習】		早川ゆかり 他	第6回 呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント【演習】		早川ゆかり 他	第7回 筋・骨格系のフィジカルアセスメント		佐久間佐織	第8回 神経系のフィジカルアセスメント		佐久間佐織	第9回 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント①【演習】		佐久間佐織 他	第10回 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント②【演習】		佐久間佐織 他	第11回 感覚器系（視覚・聴覚）、外皮系のフィジカルアセスメント		佐久間佐織	第12回 摂食・嚥下機能のフィジカルアセスメント		佐久間佐織	第13回 消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント		吉里心希	第14回 腹部のフィジカルアセスメント①【演習】		吉里心希 他	第15回 腹部のフィジカルアセスメント②【演習】		吉里心希 他	第16回 機能的健康パターンとは アセスメントとは		佐久間佐織	第17回 アセスメントの書き方、関連図の書き方		佐久間佐織	第18回 看護問題、看護成果の明確化		佐久間佐織	第19回 機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）		佐久間佐織	第20回 機能的健康パターン（身体的側面）		佐久間佐織	第21回 看護計画の立案		佐久間佐織	第22回 機能的健康パターン（心理・社会的側面）		佐久間佐織	第23回 在宅療養者の看護過程の展開	川村佐和子・佐久間佐織		第24回 紙上事例の看護過程の展開 ①	佐久間佐織 他		第25回 紙上事例の看護過程の展開 ②	佐久間佐織 他		第26回 紙上事例の看護過程の展開 ③	佐久間佐織 他		第27回 紙上事例の看護過程の展開 ④	佐久間佐織 他		第28回 紙上事例の看護過程の展開 ⑤	佐久間佐織 他		第29回 紙上事例の看護過程の展開 ⑥	佐久間佐織 他		第30回 紙上事例の看護過程の展開 ⑦、まとめ	佐久間佐織 他	
第1回 科目ガイダンス	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	单元責任者 佐久間佐織																																																																																										
第2回 フィジカルアセスメントとは 基本技術、問診		佐久間佐織																																																																																										
第3回 呼吸器系のフィジカルアセスメント		早川ゆかり																																																																																										
第4回 循環器系のフィジカルアセスメント		早川ゆかり																																																																																										
第5回 呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント【演習】		早川ゆかり 他																																																																																										
第6回 呼吸器系・循環器系フィジカルアセスメント【演習】		早川ゆかり 他																																																																																										
第7回 筋・骨格系のフィジカルアセスメント		佐久間佐織																																																																																										
第8回 神経系のフィジカルアセスメント		佐久間佐織																																																																																										
第9回 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント①【演習】		佐久間佐織 他																																																																																										
第10回 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント②【演習】		佐久間佐織 他																																																																																										
第11回 感覚器系（視覚・聴覚）、外皮系のフィジカルアセスメント		佐久間佐織																																																																																										
第12回 摂食・嚥下機能のフィジカルアセスメント		佐久間佐織																																																																																										
第13回 消化器系（腹部）のフィジカルアセスメント		吉里心希																																																																																										
第14回 腹部のフィジカルアセスメント①【演習】		吉里心希 他																																																																																										
第15回 腹部のフィジカルアセスメント②【演習】		吉里心希 他																																																																																										
第16回 機能的健康パターンとは アセスメントとは		佐久間佐織																																																																																										
第17回 アセスメントの書き方、関連図の書き方		佐久間佐織																																																																																										
第18回 看護問題、看護成果の明確化		佐久間佐織																																																																																										
第19回 機能的健康パターン（健康知覚-健康管理パターン）		佐久間佐織																																																																																										
第20回 機能的健康パターン（身体的側面）		佐久間佐織																																																																																										
第21回 看護計画の立案		佐久間佐織																																																																																										
第22回 機能的健康パターン（心理・社会的側面）		佐久間佐織																																																																																										
第23回 在宅療養者の看護過程の展開	川村佐和子・佐久間佐織																																																																																											
第24回 紙上事例の看護過程の展開 ①	佐久間佐織 他																																																																																											
第25回 紙上事例の看護過程の展開 ②	佐久間佐織 他																																																																																											
第26回 紙上事例の看護過程の展開 ③	佐久間佐織 他																																																																																											
第27回 紙上事例の看護過程の展開 ④	佐久間佐織 他																																																																																											
第28回 紙上事例の看護過程の展開 ⑤	佐久間佐織 他																																																																																											
第29回 紙上事例の看護過程の展開 ⑥	佐久間佐織 他																																																																																											
第30回 紙上事例の看護過程の展開 ⑦、まとめ	佐久間佐織 他																																																																																											

アクティブ ラーニング	事前学修、事前課題をもとに授業を進行する 講義にはディスカッションが含まれる 演習はグループで進める。ロールプレイを実施し、お互いにフィードバックをする 事例の展開は個人ワークののちグループワークを行う
授業内の ICT 活用	授業ではオンライン教材やインターネットの動画を視聴することがある 授業のリアクションペーパーや事前・事後課題は WebClass を使用する
評価方法	確認テスト 40% (フィジカルアセスメント) 課題 60% (フィジカルアセスメント 33%、看護過程 27%)
課題に対する フィード バック	事前課題については、授業または WebClass で解説する リアクションカードの質問には、次回授業または WebClass で回答する
指定図書	茂野香おる他 (2021). 系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術I, 医学書院. 任和子他 (2021). 系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術II, 医学書院. 三上れつ・小松万喜子編集 (2019). 看護学テキスト NiCE ヘルスアセスメント (改訂第2版) 臨床実践能力を高める, 南江堂.
参考図書	授業内で提示する
事前・ 事後学修	事前学修：学修するテキストの該当箇所を熟読、動画を視聴する（各 20 分） 単元ごとに提示された課題に取り組む（各 20 分） 事後学修：授業内容を振り返り、課題に取り組む（各 20 分） 演習で実施した技術のセルフトレーニングを行う ※詳細は、初回ガイダンスで説明する
オープンエ デュケーシ ョンの活用	授業内や事前・事後学修で、下記の URL のオンライン教材を利用する ナーシングスキル https://nursingskills.jp (エルゼビアジャパン) 教育用電子カルテ Medi-EYE
オフィス アワー	看護学部 1 号館 6 階 1618 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です
メディア 授業の実施 について	授業は 2 ~3 の教室や実習室間での同時双方向メディア授業を行う。単元責任者のファシリテーションのもと担当教員【佐久間佐織】【檍原理恵】【炭谷正太郎】【田口実里】【吉里心希】【早川ゆかり】【有村優範】と準教員が、各実習室に分かれて授業を進行する。

科目名	基礎看護技術IV
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2 単位 (60 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である人間を生活者としてとらえ、療養生活支援の専門家として生命と生活を守るために必要な診療にともう看護技術の原理・原則を学修し、科学的根拠に基づく援助方法を学び、修得する。本科目では、医療安全、検査・検体の採取、与薬、安楽な呼吸への援助、罨法、創傷管理に関する専門的知識と技術について学修する。さらに、既習の知識と技術を用いて根拠を追及し、看護の対象にあわせた援助について能動的に考え、議論できる態度を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護の対象に対する診療に必要な基礎知識・技能を修得できる。 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる。 フィジカルアセスメントにより、対象にあわせた看護援助を考え、看護援助の実施あるいは実施場面の観察を基に、より良い看護実践について多面的に考察できる。 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。
授業計画	<p>担当教員： 炭谷正太郎、樋原理恵、佐久間佐織、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻里他</p> <p>第 1 回：授業ガイダンス、医療安全に必要な基礎知識（誤薬、チューブ類の抜去、患者誤認、転倒転落、薬剤・放射線暴露）（講義：炭谷）</p> <p>第 2・3 回：検査・検体採取の援助—検査・検体採取の援助に必要な基礎知識（講義：炭谷）</p> <p>第 4・5 回：検査・検体採取の援助の実際—静脈血採血（演習：*）</p> <p>第 6 回：与薬の技術—点滴静脈内注射に必要な基礎知識（講義：炭谷）</p> <p>第 7 回：与薬の技術—筋肉注射に必要な基礎知識（講義：炭谷）</p> <p>第 8 回：与薬の技術—経口与薬、吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬に必要な基礎知識（講義：炭谷）</p> <p>第 9・10 回：与薬の技術の実際—点滴静脈内注射（演習：*）</p> <p>第 11・12 回：与薬の技術の実際—筋肉注射（演習：*）</p> <p>第 13・14 回：安楽な呼吸への援助—吸引・酸素吸入に必要な基礎知識（講義：炭谷）</p> <p>第 15・16 回：安楽な呼吸への援助の実際—吸引・酸素吸入（演習：*）</p> <p>第 17 回：安楽の技術—罨法（講義：早川）</p> <p>第 18 回：静脈血採血の練習（演習：*）</p> <p>第 19 回：静脈血採血の技術確認（演習：*）</p> <p>第 20・21 回：創傷管理（創傷処置、包帯法）および褥瘡ケア（講義：早川）</p> <p>第 22 回～29 回：事例の展開（講義：炭谷・有村、シミュレーション演習：*）</p> <p>第 30 回：まとめ（講義：炭谷）</p>

* : 炭谷正太郎、樋原理恵、佐久間佐織、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻里 他

アクティブ ラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、シミュレーション教育を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	講義では、WebClass を使用してミニテストを行います。
評価方法	定期試験 50%、課題提出物 20%、ミニテスト 10%、技術確認 20%、計 100% ※定期試験は WebClass による知識習得テストへ変更する場合があります
課題に対する フィード バック	講義内容等の質問の回答を WebClass もしくは次の講義・演習内にて行います。 演習の最後に担当教員から講評します。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2021. 任和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術II、医学書院、2021. 三上れつ・小松万喜子編集：看護学テキスト NiCE ヘルスマーケット（改訂第 2 版）臨床実践能力を高める、南江堂、2019.
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	受講前には 1 時限あたり 20 分程度、関連知識の予習を必ず行って下さい。また、学修した知識は次回の受講に活用できるよう 1 時限あたり 20 分程度、事後学修して下さい。 講義の前にテキストの該当箇所を読み学修して下さい。ミニテストは第 1、2、6、13、17 回で実施します。 演習前に配付資料を基に事前課題に取り組んでください。看護技術の修得には繰り返し実施することが必要です。学修計画を立て、セルフトレーニングをしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン
オフィス アワー	炭谷正太郎：1610 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 月曜日 11 時～13 時ですが、予約は不要です。この時間以外でも、在室していればいつでも訪問してください。会議などで不在になる場合がありますが、メールなどでご連絡いただければ調整します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間の遠隔授業が基本です。 担当教員【炭谷正太郎】【樺原理恵】【佐久間佐織】【田口実里】【吉里心希】【早川ゆかり】【有村優範】【夏目麻里】が各教室に分かれて授業を進行します。

科目名	地域在宅看護学概論 I	
科目責任者	山村 江美子	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 2 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP2 専門	
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	地域で暮らす人々が、看護の対象であることを理解する科目である。地域で暮らすとはどういうことであるのか、支えあって生きるとはどういうことであるのか、地域の生活環境が健康に与える影響について理解し、地域に暮らす人々を支える看護について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象が、地域で暮らす人々が含まれることを理解し説明することができる。 2. 地域で暮らす人々に関わる看護職の実践の場が、多様であることを理解する。 3. 地域での暮らしと、健康に与える影響を理解し説明することができる。 4. 地域で暮らす人々の「健康」について理解し、自分の考えを説明することができる。 5. 地域で暮らす人々を支える地域在宅看護について、1 年次における自身の考えを説明することができる。 	
授業計画	第1回：暮らしの基盤である地域を理解する	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とは：エリアとコミュニティ ・地域に暮らす人々に関わる看護職 ・看護職の倫理綱領 日本看護協会 ・事例学修：事例の住む地域を図式化してみよう 	
	第2回：地域で暮らすとはどういうことか	
	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしとは何か、暮らしを取り巻く環境 ・人口、世帯の変化 	
	第3回：地域で支えあって生きるとはどういうことか	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム（システム理論を活用して理解する） ・自助、互助、共助、公助 ・地域共生社会 ・自分の住む地域を知る 	
	第4回：地域に暮らす人々とは	
	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのライフステージ、すべての健康レベルについて ・小児期、成人期、老年期の特徴 ・ヤングケアラーという社会の課題 ・暮らしを支える看護 ・医療モデルから生活モデルへ 	
	第5回：地域で暮らす人々の健康を考える	
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の定義、健康に関する法的根拠 ・障害の定義 ・健康増進に向けた看護の役割 ・事例を通して：健康・安全に生活を続けるために必要なこと 	
	第6回：地域の環境が健康に与える影響を考える	
	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような地域で暮らしているのか ・事例学修：地域に暮らす、ある家族の健康状態、それによる暮らしへの影響 ・個人ワーク：地域の環境を図示化 	
	第7回：地域で暮らす人々・環境を可視化しよう	
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク（事前課題）について他者との共有 	
	第8回：人々の暮らしと地域在宅看護	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域在宅看護を担う看護職の1つである訪問看護師の役割と実際 	

アクティブラーニング	第7回の授業では、事前学修として調べてきたことを学生間で共有を行い、ディスカッションを行います。地域において健康をサポートする施設を把握し、健康を維持しながら生活するということを学修します。
授業内のICT活用	リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Classを使用して行います。講義時間内に、各自のPCを使用して探索的に課題を実施していきます。
評価方法	課題レポート80%、リアクションペーパー提出20%
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。
指定図書	系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の基盤」 地域・在宅看護論1 医学書院
参考図書	なし
事前・事後学修	事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することができます。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 3412 研究室 : emiko-y@seirei.ac.jp、樺原理恵 1616 研究室: rie-k@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目担当の山村は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	

科目名	地域在宅看護学概論Ⅱ
科目責任者	山村 江美子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	人々の暮らしを支える地域在宅看護における療養移行支援、在宅療養、かかわる法制度について理解し、在宅療養者とその家族を支える訪問看護について学ぶ。地域在宅看護は、地域で暮らす人々の健康レベル・ライフステージに合わせて、多様な実践の場において看護が提供されていることを理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域在宅看護における在宅療養者と家族を支える訪問看護の目的と機能、その特徴について説明できる 2. 地域在宅看護にかかわる法制度と、訪問看護制度とその機能を説明できる 3. 地域在宅看護の基本となるケアマネジメントや住民も含めた連携について理解し説明できる 4. 地域在宅看護における意思決定支援と倫理的課題を理解し説明することができる 5. 地域で暮らす人々を支える地域在宅看護について、自分の考えを説明できる
授業計画	<p>第1回：地域在宅看護における療養移行支援 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養移行支援の意義、目的、療養移行支援のプロセス ・在宅療養について ・在宅療養者と家族を支える訪問看護の目的・機能・特徴 <p>第2回：地域在宅看護にかかわる法制度 小池武嗣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度、介護保険制度 ・地域在宅看護にかかわる医療提供体制 <p>第3回：訪問看護の制度と機能 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護に関する制度 (医療保険、介護保険、精神科訪問看護、公費負担制度) ・訪問看護ステーション (仕組み、運営、個人情報保護) <p>第4回：地域在宅看護におけるケアマネジメント 岩瀬美保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの定義と目的 ・多様な場における地域在宅看護マネジメント ・介護保険制度における地域在宅ケアマネジメント・介護支援専門員の業務 <p>第5回：地域在宅看護における多職種連携 岩瀬美保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携、支援のネットワークづくり ・住民との連携 ・関係諸機関、多職種との連携、チームでの協働 <p>第6回：訪問看護ステーションにおける在宅看護の実際 (訪問看護 ST 所長)</p> <p>第7回：地域在宅看護支援の特徴 意思決定支援と倫理的課題 酒井昌子</p> <p>第8回：地域包括ケア時代の看護の役割 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに伴う健康と生活上の課題に対応する看護 ・地域包括ケアシステムにおける看護の役割 ・在宅看護を通して把握する地域のニーズ対応への拡大 ・地域で暮らす人々の多様性と看護の可能性

アクティブ ラーニング	本授業は、学生間のディスカッション等を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	Web Class を利用して、リアクションペーパーの提出等を行います。
評価方法	定期試験 80%、リアクションペーパー 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	事前事後学習およびリアクションペーパーにおいて、必要な内容について次回の講義の中で説明します。
指定図書	系統看護学講座 専門分野 「地域・在宅看護の実践」 地域・在宅看護論 2 医学書院
参考図書	授業中に説明をします
事前・ 事後学修	授業後に Web Class に掲載したリアクションペーパーの内容について、事後学修を実施して復習を行うこと（各 40 分 8 回）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習指導の実習施設へ移動するが多くなるのでメールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子（3412 研究室） emiko-y@seirei.ac.jp、酒井昌子（3410 研究室） masako-s@seirei.ac.jp、小池武嗣（1607 研究室） takeshi-k@seirei.ac.jp、岩瀬美保（3413 研究室） miho-i@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「地域・在宅看護、臨床看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	

科目名	地域包括ケア看護論	
科目責任者	酒井 昌子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP2 専門	
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるようにするための地域包括ケアについて、その概念や実際の生活・支援について学び、地域に暮らす生活者の視点から看護の役割・機能について考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアについて、概念や基本的な考えを理解できる。 2. 健康上のニーズを抱えながら地域で暮らす人々における多様な生活を理解できる。 3. 住み慣れた地域で今後も自分らしく暮らし続けるための自助・互助・共助・公助について理解できる。 4. 今後も地域で暮らし続けることを希望する事例について、生活者の視点から地域包括ケアについての理解を深め、その中の看護の役割・機能について考えることができる。 	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	
	酒井昌子、宮谷 恵、小平朋江、黒野智子、木村暢男、兼子夏奈子、岩瀬美保	
	第1回：地域包括ケアの概念	
	<酒井>	
	第2回：地域包括ケアの基本的な考え方	
	<兼子・岩瀬>	
	第3回：地域で暮らす人々の多様な生活①（妊娠婦・障がい児）	
	<黒野・宮谷>	
	第4回：地域で暮らす人々の多様な生活②（精神障がい者）	
	<小平>	
	第5回：地域で暮らす人々の多様な生活③（高齢者・認知症者）	
	<木村>	
	第6回：地域包括ケアの実際 ①	ゲストスピーカー 杉本和美
	・身体障害を抱えながらの生活・社会活動について	
	第7回：地域包括ケアの実際 ②	
	ゲストスピーカー 滝川八千代	
	・高次脳機能障害を抱えながらの生活・家族支援について	
	第8回：地域包括ケアの実際 ③	
	ゲストスピーカー 久保田 翠	
	・知的障がい者自立支援について	
	第9回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）	
	<担当教員全員>	
	・オリエンテーション（PBLによる事例学習のすすめ方）／・中間テスト	
	第10・11回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）①②	
	<担当教員全員>	
	・事例の生活の理解1／・事例の生活の理解2	
	第12・13回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）③④	
	<担当教員全員>	
	・支援についての理解1／・支援についての理解2	
	第14・15回：地域包括ケアにおける事例学習（PBL）⑤⑥	
	<担当教員全員>	
	・学びの発表	
	・地域包括ケアシステムにおける看護の機能と役割 ゲストスピーカー ケアマネジャー	
	<担当教員全員>	

アクティブ ラーニング	本授業は、ディスカッションやPBLによる課題解決学習を取り入れて実施します。
授業内の ICT 活用	WebClass を用いて、投票や質問・疑問への回答など双方向で授業を行います。 地域包括ケアにおける事例学習（PBL）では ICT を活用して自ら課題への学習を進めたり、グループの事例学習の共有をします。
評価方法	第1～5回授業の事後提出物 20%、第6～8回、15回のゲストスピーカーによる講義の小レポート 20%、第10～14回 PBL への取り組みと最終レポート 50%、中間テスト 10%、 地域包括ケアにおける事例学習（PBL）および小レポートは、ループリックを用いて評価します。 ループリックの内容は授業中に提示します（WebClass に掲載）。
課題に対する フィード バック	毎回の授業での質問については、WebClass 掲示板への記載や次回授業で全体に対して回答します。また資料等も随時 WebClass にアップします。PBLにおいては、各グループの担当教員がその都度、質問に対応します。事例学習の発表においても講評を述べ、全体にフィードバックします。
指定図書	なし
参考図書	地域・在宅看護概論 I 標準保健師講座 公衆衛生看護学概論
事前・ 事後学修	<p>【1～5回目の授業】事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので各自取り組んで授業に臨んでください。関連する科目として、1年次の地域在宅看護学概論 I、家族関係論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学実習 I、2年次春セメスターに同時進行する社会福祉概論、保健医療行政論の学修が役立ちます。各科目の講義資料、テキストを参考してください。事後学修は、配布資料等を見直し、わからなかったことを調べて学びを定着させて下さい。また、第1回の授業で提示した「基本用語学習」について、各自、課題に取り組むようにしてください。その内容から中間テストを出題します。事後学修内容は、第9回目以降の「地域包括ケアにおける事例学習（PBL）」において必要になる内容です。（1時間あたり 20 分程度）。</p> <p>【6～8回目の授業】事前学修内容を、WebClass タイムラインに提示するので、各自取り組んで授業に臨みましょう（1時間あたり 10 分程度）。事後学修はゲストスピーカーによる講義を受けて「地域包括ケアの実際例の話題を受けての学び」について、小レポートを作成してください（1時間あたり 30 分程度）。</p> <p>【9～15回目の授業】事前学修としては、WebClass に示した「地域包括ケアにおける事例学習（PBL）」の事前資料を読み、学習目標を理解して参加する。学習に必要な参考図書や文献・資料を自分で選択し、グループでの自己学習成果の報告にむけた準備を行う。（1時間あたり 20 分程度）。事後学修としては、事例展開の中の不明点についてグループや個人で調べ、次回の PBL に報告し、グループの事例に活用し展開を進めていきます。（1時間あたり 20 分程度）。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により変更の可能性もあるため、事前に e-mail で連絡してください。 科目責任者：酒井昌子（看護学部・在宅看護学）3410 研究室：masako-s@seirei.ac.jp （月曜 12-13 時は比較的の在室） 科目担当者：宮谷 恵（看護学部・小児看護学）1713 研究室：megumi-m@seirei.ac.jp 黒野智子（看護学部・母性看護学）1709 研究室：tomoko-k@seirei.ac.jp 小平朋江（看護学部・精神看護学）3401 研究室：tomoe-k@seirei.ac.jp 兼子夏奈子（看護学部・成人看護学）1261 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp 岩瀬美保（看護学部・在宅看護学）3413 研究室：mihi-i@seirei.ac.jp 木村暢男（看護学部・老年看護学）2704 研究室：nobuo-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師・助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を基本とします。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として、科目担当教員の他 1名を配置し、質疑応答等に対応します。また、授業時間に授業担当教員が教室間を移動して、直接質疑応答に応じます。

科目名	成人看護学概論
科目責任者	大山 未美
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	成人期の特徴をふまえ、家庭や職場・地域社会でさまざまな役割をもつ人々の生活および健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について学修する。 また、見病期、急性期、慢性期、終末期という連続する健康レベルごとに、成人の身体的、心理的な反応について解剖学・生理学・疾病・治療学などと関連付けて理解を深める。急性期・慢性期を中心とした健康レベルごとに代表的な疾患を取り上げ、成人に及ぼされる影響・特徴的な看護問題と援助について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人々の成長・発達過程および各期の特徴、発達課題を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連づけて説明できる。 3. 成人期の人々の心身の反応と健康や健康障害に対する看護の特徴について概念を用いて説明できる。 4. 健康レベルごとに成人の身体的、心理的反応について解剖学・生理学、疾病・治療学などと結びつけて説明し、成人に及ぼされる影響と、特徴的な看護問題と援助について説明できる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>【成人期の特徴と今日の社会】</p> <p>第1回：科目オリエンテーション／成人看護学の構成 成人の発達、成人の特徴 大山未美</p> <p>第2回：・成人を取り巻く社会環境と成人の生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人の健康の動向と特徴的健康問題、保健・医療・福祉政策 ・成人を取り巻く社会環境と成人の生活 <p style="text-align: right;">大山未美</p> <p>【健康問題をもつ成人に係る際の視点・理論】</p> <p>第3回：患者・家族の意思決定を支える 大石ふみ子</p> <p>第4回：健康の危機状態への適応 大石ふみ子</p> <p>第5回：病みの軌跡・ケアリング 大山未美</p> <p>第6回：健康行動への行動変容 慢性疾患看護専門看護師</p> <p>【重篤な健康レベルにある人へのケア】</p> <p>第7回：侵襲的治療を受ける患者の生体反応・心理反応 藤浪千種</p> <p>第8回：術前・術中看護 藤浪千種</p> <p>第9回：術後看護① 術直後から急性期における看護 乾 友紀</p> <p>第10回：術後看護② 回復期から社会復帰における看護 乾 友紀</p> <p>【慢性的な病とともに生きる人へのケア】</p> <p>第11回：慢性的疾患を有する人への看護① セルフケアとセルフマネジメント 大山未美</p> <p>第12回：慢性的疾患を有する人への看護② セルフマネジメント能力を高める看護 大山未美</p> <p>第13回：慢性的疾患を有する人への看護③ 慢性疾患を有する人への心理的ケア 大山未美</p> <p>【がん看護】</p> <p>第14回：がん集学的治療を受ける人への看護① 大石ふみ子</p> <p>第15回：がん集学的治療を受ける人への看護② 大石ふみ子</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	出席確認、リアクションペーパー提出、および小テストは Web Class を活用する。
評価方法	定期試験 85%, リアクションペーパー 15% で評価する。 授業過程における提出物不備（リアクションペーパー含む）や提出期限が遅れた場合、減点されます。
課題に対する フィード バック	事前課題や授業中の提出物について、講義の中で解説します。意見や疑問は、適宜、授業中やリアクションペーパーで受け、授業中の解説や Web class 上でフィードバックしていきます。 定期試験に関しては、試験結果公表後に個別に質問を受け付けます。
指定図書	1. 黒江ゆり子 「成人看護学① 成人看護学概論／成人保健」メヂカルフレンド社 2. 鈴木久美他 「成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える」南江堂 3. 林直子 「成人看護学 急性期看護 I - 概論・周手術期看護」 南江堂
参考図書	・鎌倉やよい他『周術期の判断を磨く』医学書院 ・北島泰子他「急性期実習に使える！周術期看護ぜんぶガイド」照林社 ＊これらは、3年次の講義・演習・実習において教科書として用います。
事前・事後学修	既習の生涯発達心理学や解剖学、生理学、代謝栄養等の授業内容を復習し、よく理解した上で授業に臨んで下さい。 予習として指定された教科書のページを読んでくること（約 20 分）、授業後には、学修した内容を成人期にある自分自身や家族の状況と照らし合わせ、講義で学んだことを具体的なイメージとして理解しながら授業内容のノートを整理（約 25 分）してその後の学修や実習で活かせるような学修を習慣してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 大山 末美：1213 研究室：suemi-o@seirei.ac.jp 大石ふみ子：1219 研究室：fumiko-o@seirei.ac.jp 藤浪 千種：1208 研究室：chigusa-f@seirei.ac.jp 乾 友紀：1217 研究室：yuki-i@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	基本的に対面授業を原則とします。

科目名	老年看護学概論																															
科目責任者	山田 紀代美																															
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	DP2 専門																															
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																															
科目概要	老年期にある人の特徴を加齢変化から理解し、高齢者及び家族を取り巻く社会の動向や社会問題について知り、老年看護の役割について理解できることを目的とする																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の身体・心理・社会的特徴を生涯発達の視点、加齢変化から説明できる 2. 老年期にある人を取り巻く社会背景について述べられる 3. 老年看護の理念、役割、専門性について述べられる 4. 介護保険制度におけるサービスについて理解し、多職種との連携について考えることができる 5. 生活機能を重視した ICF モデルの考え方を学習し、高齢者・家族を対象とした看護過程を展開する為の基本的知識を学ぶ 6. 高齢者の人権と倫理的問題、尊厳について説明できる 																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回： 老いるということ</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第2回： 人口の高齢化現象と課題</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第4回： ライフステージとしての老年期の特徴</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第7回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第9回： 高齢者虐待・拘束</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第10回： 高齢者の人権と倫理問題 (成年後見制度)</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第11回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換</td> <td>山田・木村</td> </tr> <tr> <td>第12回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表</td> <td>山田・木村</td> </tr> <tr> <td>第13回： 家族介護の多様化と家族支援</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第14回： 介護保険制度とサービス</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第15回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICF モデルの考え方)</td> <td>山田紀代美</td> </tr> </table>		第1回： 老いるということ	山田紀代美	第2回： 人口の高齢化現象と課題	木村暢男	第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向	木村暢男	第4回： ライフステージとしての老年期の特徴	木村暢男	第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美	第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美	第7回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)	山田紀代美	第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)	山田紀代美	第9回： 高齢者虐待・拘束	木村暢男	第10回： 高齢者の人権と倫理問題 (成年後見制度)	木村暢男	第11回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換	山田・木村	第12回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表	山田・木村	第13回： 家族介護の多様化と家族支援	山田紀代美	第14回： 介護保険制度とサービス	木村暢男	第15回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICF モデルの考え方)	山田紀代美
第1回： 老いるということ	山田紀代美																															
第2回： 人口の高齢化現象と課題	木村暢男																															
第3回： 超高齢社会における保健・医療・福祉の動向	木村暢男																															
第4回： ライフステージとしての老年期の特徴	木村暢男																															
第5回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美																															
第6回： 加齢変化と身体 (身体の特徴)	山田紀代美																															
第7回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)	山田紀代美																															
第8回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)	山田紀代美																															
第9回： 高齢者虐待・拘束	木村暢男																															
第10回： 高齢者の人権と倫理問題 (成年後見制度)	木村暢男																															
第11回： 高齢者との対話からの学びを小グループで意見交換	山田・木村																															
第12回： 高齢者との対話からの学びについてグループ毎に発表	山田・木村																															
第13回： 家族介護の多様化と家族支援	山田紀代美																															
第14回： 介護保険制度とサービス	木村暢男																															
第15回： 高齢者看護に必要な看護概念と理論 (ICF モデルの考え方)	山田紀代美																															

アクティブ ラーニング	1. 講義では、具体的な事象を想起しやすいよう授業テーマに関連した時事問題や実習場での一場面を提示し、授業時に学生自身の感想・考えを述べる機会（または課題）を設定します。 2. 高齢者を理解するために、学生の身近にいる高齢者にインタビューを行いレポートにまとめます。またその内容をグループ毎に発表し意見交換を行います。
授業内の ICT 活用	グループワークは Google drive を使用する。
評価方法	定期試験 90% 課題提出物 10%
課題に対する フィード バック	1. 毎回の授業で、質問・感想・要望・改善点等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問・要望・改善点について次回以降の授業での回答や対応に努めます。 2. インタビューのレポートに対しては、発表会での意見交換時にコメントを述べフィードバックします。
指定図書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 医学書院
参考図書	国民衛生の動向 厚生の指標 増刊 一般社団法人厚生労働統計協会編集・発刊
事前・事後学修	<事前学習> 事前学習の具体的な内容は、シラバスを確認し、テキストの関連部分を読み、概要を予習してください。(約20分) <事後学修> 配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習してください。(約20分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	山田紀代美：看護学部 研究室：1615 研究室 e-mail: kiyomi-y@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性がありますが、主に実習終了後の16時30分以降になります。 ※あらかじめメール予約をしてもらえば確実です。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として内藤智義・加藤貴子を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	母性看護学概論	
科目責任者	藤本 栄子	
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP2 専門	
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。	
科目概要	女性の障害を通じて性と生殖に関する健康を守るという観点から、母性看護学の対象の特性を理解するための基盤となる概念、および母性看護学における倫理を学修する。また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(性と生殖に関する健康と権利)の観点から、女性と家族の健康問題に積極的関心を持ち、母性看護の役割と今後の課題について理解を深める。さらに、家族計画、性感染症とその予防および看護を中心に、リプロダクティブヘルスケアについて学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「母性・父性」「親になること」について理解を深める。 リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよび女性の健康における意志決定について理解できる。 セクシュアリティについて理解できる。 母性看護の理念と役割、倫理的看護実践について理解できる。 妊娠・分娩・子育てに伴う女性の心理・社会的变化とその援助について理解できる。 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：母性看護とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 母性とは？父性とは？ 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 4) 女性の健康 <p>産むこと・産まないこと・産めないこと（女性の意思決定について考える）</p> <p>第2回：親になるとは？－妊婦さんの体験談から学ぶ－</p> <p>第3回：「妊娠期」ってどんな時期？</p> <p>第4回：「胎児期～新生児期」ってどんな時期？－児からの視点－</p> <p>第5回：「産む」ってどんなこと？</p> <p>第6回：「産褥期・育児期」ってどんな時期？</p> <p>第7回：人間の性と生殖－生命の誕生と性の分化について考える－</p> <p>第8回：セクシュアリティー発達各期の性の特徴・健康障害及び看護－</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 思春期・青年期の性の特徴と看護 2) 成熟期の性の特徴と看護（不妊の女性の看護を含む） <p>★第9回：セクシュアリティー性の自認と性的傾向等について</p> <p>第10回：親になること及び妊娠期から産褥・育児期（新生児期を含む）までのまとめ (中間確認テスト)</p> <p>★第11回：周産期の異常</p> <p>★第12回：ハイリスク新生児－早産児の特徴－</p> <p>★第13回：産褥期の異常</p> <p>第14回：性感染症</p> <p>第15回：「更年期」ってなに？、母性看護のまとめ</p>	

アクティブ ラーニング	事前学修や体験談、事例をもとに、グループ・ディスカッションを行い、全体での意見交換を行います。
授業内の ICT 活用	個人やグループの意見（発表）をオンライン上で入力し、プロジェクトを用いてスクリーンに表示します。また、教員が作成した視聴覚教材や医学書院 e テキスト、Nursing Skills、ビジュラン等を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 確認テスト（中間を含む）および定期試験 80%。確認テストは講義時間内に WebClass または紙面にて実施します。 事前・事後学修（WebClass 含む）、トピックスレポートへの参加度 20% 不可の場合は 1 回の再試験をおこないます。 演習、レポートで評価するがループリックは使いません。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修に関しては、講義で説明します。 学生から質問があれば、時間の講義、または WebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。 必要事、日程等調整の上、個別の疑問にも対応します。
指定図書	森恵美他編『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』医学書院 森恵美他編『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』医学書院
参考図書	中込さと子、小林康江、荒木奈緒編『ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護』メディカ出版 新道幸恵、後藤桂子訳『ルヴァ・ルーピン母性論 母性の主観的体験』医学書院
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修は、WebClass または授業の最後に、次回授業までの課題を提示します。 事後学修は、授業の最後または WebClass でその日の授業内容に関する課題などを出題します。（事前学修は 60 分程度、事後学修は 30~40 分程度の時間を要する） WebClass の利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください（WebClass への掲載や入力は、決められた時間以外にはできません） <p>※詳細は、第 1 回のオリエンテーションで説明します。</p> <p>※母性看護学概論のお知らせは webClass を活用しますので、各自で必ず確認するようしてください。（タイムラインの掲載事項、WebClass からのメールは必ず確認すること。）</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として、指定図書巻末の動画視聴を勧めます。 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） https://www.nursingskills.jp/ ビジュラン https://seirei.visualearn.jp/p/ （使用日時を厳守のこと）
オフィス アワー	<ul style="list-style-type: none"> 看護学部 1714 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前に下記のメールアドレスを利用して確認してください。 <p>藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp) 黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp), 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp) 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp) 室加千佳 (chika-mu@seirei.c.jp)</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の資格および実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	オリエンテーションやまとめ、非常勤講師の講義、確認テストの実施日（授業で★の印がついているコマ）は、zoom 等を使用し遠隔操作で 2 部屋同時に開催予定です。

科目名	小児看護学概論
科目責任者	市江 和子
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護や養護の対象である小児の特性を、子どもを取り巻く環境と成長・発達の側面から学ぶ。また、健全な発達を支援する小児保健に関する施策の意義と内容を、保健医療、福祉、教育の面から検討し、発達段階別の生活と養護について理解する。さらに、小児の各発達段階に応じた健康の維持増進を支援する小児看護の機能と役割について理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達について学び、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 小児保健の動向をとらえ、小児における保健・医療・福祉について理解する。 3. 小児期における基本的生活習慣、健康診査、予防接種について学び、小児とその家族の健康をまもるための支援を理解する。 4. 小児期特有の事故について学び、安全教育の必要性を知り、事故対策および救急法の具体的援助を理解する。 5. 子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。 6. 小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する。
授業計画	<p>第1回 小児の概念と小児看護の理念および役割 市江和子 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第2回 小児の成長・発達の概観① (成長・発達の原則、影響要因) 市江和子</p> <p>第3回 小児の成長・発達の概観② (形態的成長・発達) 市江和子</p> <p>第4回 小児の成長・発達の概観③ (機能的発達) 市江和子</p> <p>第5回 小児の成長・発達の概観④ (心理社会的発達・発達の評価) 市江和子</p> <p>第6回 基本的生活習慣の発達とその援助① (新生児、乳児) 宮谷 恵</p> <p>第7回 基本的生活習慣の発達とその援助② (幼児、全般) 宮谷 恵</p> <p>第8回 基本的生活習慣の発達とその援助③ (離乳食について) 宮谷 恵</p> <p>第9回 事故の予防と安全教育 (救急法を含む) 宮谷 恵</p> <p>第10回 小児保健の動向① 宮谷 恵 (小児を取り巻く社会環境、小児保健に関する統計)</p> <p>第11回 小児保健の動向② (小児をめぐる法律と施策) 宮谷 恵</p> <p>第12回 予防接種 小出扶美子</p> <p>第13回 乳幼児期の健康診査と保健指導 小出扶美子</p> <p>第14回 子どもの人権と倫理的問題 市江和子 権利・倫理的問題に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第15回 小児看護・医療の変遷と展望 市江和子</p>

アクティブ ラーニング	授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や全体・個別メール、WebClass で返答する。 「基本的生活習慣の発達とその援助③(離乳食について)」においては、離乳食に関する演習を実施する。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、ワークシートの学習をする。
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。 ループリックは用いない。
課題に対する フィード バック	学習内容に関するワークシートを課題とし、学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編:『小児看護学』、オーム社、2019
参考図書	授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、1回の講義に40分程度、事前学修を進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修として復習してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	市江和子:金曜日午前 (1712 研究室) Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵:月曜日午後 (1713 研究室) megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子:月曜日午後 (2713 研究室) fumiko-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	精神看護学概論
科目責任者	入江 拓
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	精神疾患を抱えて生きる対象者や家族に看護師として向かうためには、看護過程、疾患や治療に関する知識は必要不可欠ですが、こころの病いとともに生きることが、当事者にどのように心理社会的にまた、主観的に「体験」されるのか、ということに関する理解がその土台となります。看護師も同じ人間としての弱さや限界を抱える存在であることを認めつつ、対象者を冷静に捉える視座を養うことが大切です。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が各自の人間観および、養われつつある看護観を吟味し記述できる。 2. 精神看護の目標と役割について説明できる。 3. 精神の機能と障害について、当事者（個人・家族）の主観的体験という視点からイメージできる。 4. 精神疾患の病態・病理および治療の概観について理解できる。
授業計画	<p>第1回：精神看護とは (こころとからだ、正常と異常、人間観) <入江拓></p> <p>第2回：精神看護の目的と役割 (対象者の主観的体験とは？) <入江拓></p> <p>第3回：精神看護では何をどのように見るか (どこから何を眺めているのか？) <入江拓></p> <p>第4回：精神看護に求められるもの (対象者を解ろうとすることを阻むもの。偏見・囚われ・構え) <入江拓></p> <p>第5回：精神看護における対象者の理解の試み (対象者と取り巻く状況の視覚化) <入江拓></p> <p>第6回：ライフサイクル各期における心理発達の障害 (危機的状況に焦点をあてて) <入江拓></p> <p>第7回：精神疾患の成り立ち (精神の機能と障害) <入江拓></p> <p>第8回：脳故障類型と精神症状 <今泉寿明></p> <p>第9回：神経症性障害 <今泉寿明></p> <p>第10回：気分障害 <今泉寿明></p> <p>第11回：統合失調症 <今泉寿明></p> <p>第12回：器質性精神障害（症状性精神障害を含む） <今泉寿明></p> <p>第13回：精神科治療（薬物療法、精神療法、社会資源の利用） <今泉寿明></p> <p>第14回：生理的障害及び身体要因に関連した行動症候群 (摂食障害、アルコール関連精神障害、薬物依存) <入江拓></p> <p>第15回：精神看護の行為を支えるもの (ケアリング・共感・精神看護とは、まとめ) <入江拓></p>

アクティブラーニング	当事者の主観的体験をふまえた看護をおこなうための視座を養うために、自己理解および、対象理解のための小課題をおこないます。結果は全体に対して解説し、それを受けさらに課題レポートを作成し WEB Class にて提出します。これまでの自分自身のありようや、物事に対する考え方や構え、捉え方の癖などについてあらためて振り返り、「自分の言葉」で「自分の考え」を表現することから始めることが必要です。適宜課せられる指定図書による予習・復習および、学んだことや疑問を整理して記述するリアクションペーパーへの言語化は各单元の理解を深める上で大切です。
授業内のICT活用	なし
評価方法	定期試験 95%、課題提出物 5%、で総合的に評価します。
課題に対するフィードバック	演習及び課題レポートの結果については、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については個人が特定されない形で適宜資料にて全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	「看護のための精神医学」 中井久夫・山口直彦. 医学書院 第2版 (2004) 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」 (改定第4版) 上島国利・立山萬里・三村將. 南江堂 (2017)
参考図書	「精神病というこころ」 松木邦裕. 新曜社 (2001)
事前・事後学修	事前・事後学習：授業内容に関連する資料は毎回配布します。適宜指定図書および、配布資料内から 40 分程度で可能な事前・事後学修を課します。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	入江は看護学部の所属 (3403 研究室 taku-i@seirei.ac.jp) です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	家族看護論
科目責任者	山村 江美子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象である「家族」を理解するために、家族看護学の基盤となる理論を学ぶ。家族は看護の対象であり、家族が発達課題の達成に加え偶発的な状況的危機に遭遇した場合において、家族への看護支援について学修する。各領域の教員が講義を担当する、オムニバスの講義科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護の対象である「家族」の特性や家族の健康について考えることができる。 基盤となる家族看護理論を学び、発達課題や健康課題をもつ「家族」の理解につなげる。 家族周期における家族の特徴を理解し、家族看護を考えることができる。 家族のセルフケア機能が発揮される家族看護について、考えることができる。 各領域の家族看護の実際を理解し、課題を抱える家族の支援について考えることができる。
授業計画	<p>第1回：看護の対象としての「家族」 家族のセルフケア機能について 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族とは ・家族看護とは ・家族看護の定義 ・家族のセルフケア機能とは ・家族を看護する看護職の役割と基本姿勢 ・家族看護の焦点 ・家族アセスメントについて <p>第2回：家族を理解するための理論① 家族発達理論・家族システム理論 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を発達する存在として理解 ・発達段階における特徴と課題 ・家族の発達課題の移行期 ・健康問題を抱える家族の状況 ・家族発達理論を基にした家族の理解 ・システムとしての家族の特徴を理解 ・家族システム理論の家族看護への活用 <p>第3回：家族を理解するための理論② 家族ストレス対処理論 山村江美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのモデル ・家族ストレス対処理論の家族看護への活用 ・ジェノグラムの作成 ・エコマップの理解 ・事例学修 <p>第4回：事例学修 健康課題をもつ家族への支援 山村江美子</p> <p>第5回：成人看護における家族支援 大石ふみ子</p> <p>第6回：小児看護における家族支援 小出扶美子</p> <p>第7回：精神看護における家族支援 清水隆裕</p> <p>第8回：地域在宅看護における家族支援 山村江美子</p>

アクティブ ラーニング	事例学修を行い学生間でのディスカッションを実施します。Web Class を利用して事後学修を行い、講義内でフィードバックを行います。
授業内の ICT 活用	リアクションペーパー、課題レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義時間内に、各自の PC を使用して探索的に課題を実施していきます。
評価方法	課題レポート 80%、リアクションペーパー提出 20%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーにおいて対応が必要な内容へのフィードバックは、次回の講義の中で説明します。
指定図書	指定テキストはありません。
参考図書	系統看護学講座 別巻 「家族看護学」 医学書院 看護学テキスト 「家族看護学」 臨床場面と事例から考える 南江堂
事前・ 事後学修	事前事後学修については、講義時間内に説明し提示します。リアクションペーパー記述時には、事後学修を行ってから取り組んでください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	講義後の休憩時間に研究室で待機します。その後は、実習指導のため実習施設へ移動することがあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 3412 研究室 : emiko-y@seirei.ac.jp、 大石ふみこ 1219 研究室 : fumiko-o@seirei.ac.jp 小出扶美子 2713 研究室 : fumiko-k@seirei.ac.jp 清水隆裕 1241 研究室 : takahiro-sh@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目担当者は、「看護師・保健師」の実務経験を有します。実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	

科目名	国際看護論
科目責任者	大山 末美
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP7 専門
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	世界の健康格差や在日外国人患者への理解を通して、国際看護実践の基盤となる異文化間感受性を高めます。
到達目標	<p>1. 国際的な健康課題とその背景を理解できる。</p> <p>2. 国際協力における看護の取組みについて理解できる。</p> <p>3. 異文化間感受性を向上させ、国内における国際看護のあり方について考えることができる。</p>
授業計画	<p>導入</p> <p>第1回：「国際化と看護」を学ぶ意義 大山末美</p> <p>第2回：JICA の活動 JICA スタッフ</p> <p>第3回：世界の健康格差と保健医療 西川浩昭</p> <p>国際協力の実際</p> <p>第4回：ガーナでの看護活動の実際 (JICA) 谷 彩</p> <p>国内における国際看護</p> <p>第5回：健康を看護の枠を超えて考える 小川美農里</p> <p>第6回：医療通訳の立場から見た国際看護 松田愛香</p> <p>第7回：国内における国際看護の実践 堀内美由紀</p> <p>第8回：異文化間感受性への気づき 大山末美</p>

アクティブ ラーニング	第8回ではグループワークを行い、ディスカッション、プレゼンテーションを行い学びのシェアリングを行います。
授業内の ICT 活用	グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。
評価方法	総合レポート 70%, リアクションペーパー 20%, グループワークへの参加 10%
課題に対する フィード バック	質問への回答は Webclass 上で全体にフィードバックします。
指定図書	大橋一友他：国際化と看護、メディカ出版、第1版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事後学修は、各時間のキーワードとなる内容を国際関連機関のホームページなどで確認しながら記載してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者：大山未美（看護学部）1213 研究室 メールアドレス：suemi-o@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に水曜日Ⅲ限目としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールでご連絡ください。
実務経験に 関する記述	本科目は看護師・保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	対面授業を基本とします。

科目名	看護研究																																		
科目責任者	佐久間 佐織																																		
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター																																		
DP 番号と 科目領域	DP4 専門																																		
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。																																		
科目概要	看護における研究の意義とプロセスの基礎的知識を学修する。また、グループで関心のある研究テーマを設定し、関連領域の文献を検索・検討により学術的な動向を整理し、研究課題の方針性を導くプロセスを実践することを通して、研究の基礎的能力を養う。																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と研究の進め方を理解できる 2. データベースを活用して文献検索ができる 3. クリティックの意義を理解し、実践することができる 4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を理解できる 5. 量的研究と質的研究の特徴について理解できる 6. 関心のある研究テーマについて文献検討することができる 7. 関心のある研究テーマについてグループで議論することができる 																																		
授業計画	<p><担当教員名> 佐久間佐織、清水隆裕 、乾友紀</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回 : 看護研究とは</td> <td><担当教員></td> </tr> <tr> <td>第2回 : 研究課題の選定</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第3回 : 文献検索</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td colspan="2">* 医中誌 web、メディカルオンラインによる検索</td> </tr> <tr> <td>第4回 : 文献検索の実際</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td colspan="2">* グループに分かれ図書館にある文献に触れる</td> </tr> <tr> <td>第5回 : 論文クリティック</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第6回 : 看護研究における倫理</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第7回 : 研究デザインの選択</td> <td>佐久間</td> </tr> <tr> <td>第8回 : 質的研究の特徴、面接法の進め方</td> <td>清水</td> </tr> <tr> <td>第9回 : 量的研究の特徴、質問紙調査の進め方</td> <td>乾</td> </tr> <tr> <td>第10回 : 研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第11回 : 研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第12回 : 文献検討と発表準備 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第13回 : 研究テーマに関する文献検討について発表 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第14回 : 研究テーマに関する文献検討について発表 【グループワーク】</td> <td>佐久間、清水、乾</td> </tr> <tr> <td>第15回 : 研究計画書の書き方、研究成果の発表方法</td> <td>佐久間</td> </tr> </tbody> </table> <p>*詳細は第1回目に説明します</p>	第1回 : 看護研究とは	<担当教員>	第2回 : 研究課題の選定	佐久間、清水、乾	第3回 : 文献検索	佐久間	* 医中誌 web、メディカルオンラインによる検索		第4回 : 文献検索の実際	佐久間、清水、乾	* グループに分かれ図書館にある文献に触れる		第5回 : 論文クリティック	佐久間	第6回 : 看護研究における倫理	佐久間	第7回 : 研究デザインの選択	佐久間	第8回 : 質的研究の特徴、面接法の進め方	清水	第9回 : 量的研究の特徴、質問紙調査の進め方	乾	第10回 : 研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第11回 : 研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第12回 : 文献検討と発表準備 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第13回 : 研究テーマに関する文献検討について発表 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第14回 : 研究テーマに関する文献検討について発表 【グループワーク】	佐久間、清水、乾	第15回 : 研究計画書の書き方、研究成果の発表方法	佐久間
第1回 : 看護研究とは	<担当教員>																																		
第2回 : 研究課題の選定	佐久間、清水、乾																																		
第3回 : 文献検索	佐久間																																		
* 医中誌 web、メディカルオンラインによる検索																																			
第4回 : 文献検索の実際	佐久間、清水、乾																																		
* グループに分かれ図書館にある文献に触れる																																			
第5回 : 論文クリティック	佐久間																																		
第6回 : 看護研究における倫理	佐久間																																		
第7回 : 研究デザインの選択	佐久間																																		
第8回 : 質的研究の特徴、面接法の進め方	清水																																		
第9回 : 量的研究の特徴、質問紙調査の進め方	乾																																		
第10回 : 研究テーマの設定、文献検索 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																		
第11回 : 研究テーマに関する文献検討 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																		
第12回 : 文献検討と発表準備 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																		
第13回 : 研究テーマに関する文献検討について発表 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																		
第14回 : 研究テーマに関する文献検討について発表 【グループワーク】	佐久間、清水、乾																																		
第15回 : 研究計画書の書き方、研究成果の発表方法	佐久間																																		

アクティブ ラーニング	図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う。関心のある研究テーマについて、グループワークを進めて成果を発表する。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	グループワークの発表は ppt を使用します 授業内で医学中央雑誌 Web、メディカルオンラインを活用します
評価方法	授業中の提出物 30% グループワークへの参加度、プレゼンテーション 30% 課題レポート 40% ※提出物、プレゼンテーション、課題レポートはループリックを用いて評価する
課題に対する フィード バック	提出物や質問に対するフィードバックは、次回授業または WebClass で回答する
指定図書	前田ひとみ編 (2023). ナーシンググラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 (第4版), インターメディカ.
参考図書	授業内で紹介する。
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでください。授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web メディカルオンライン
オフィス アワー	佐久間佐織 : 1618 研究室 saori-s@seirei.ac.jp 清水隆裕 : 1241 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp 乾 友紀 : 1217 研究室 yuki-i@seirei.ac.jp 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での同時双方向型メディア授業を行う。講義 (9回) は担当教員が 1 教室で対面授業を行い、その様子を別教室に TV 会議システムで配信する形で行い、4 または 5 回ずつがメディア授業となる。各教室に教員 1 名以上配置し、受講環境の維持、質疑応答に応じる。グループワーク (6回) は、各教員が教室間を移動し、指導・支援を行う。

科目名	国際看護研修
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP7 専門
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	アメリカの医療施設における看護実践の見学、および本学と交流協定を結ぶ大学での看護演習を通して、国際的な視野で保健医療福祉制度、看護師の役割・実践、他職種の役割について学ぶことを目的としている。事前研修、現地研修（講義・シミュレーション演習・病院での看護師シャドウイング・施設見学等）、事後研修で構成され、並行して、課題に個人及びグループで取り組む。
到達目標	<p>1) アメリカにおける保健・医療制度をふまえて、看護職が担う役割と看護実践について、日本との違いや共通点を考える。</p> <p>2) 患者・利用者の治療・ケアに関わる様々な専門職の役割を知る。</p> <p>3) 異文化体験を通して、アメリカの人々の暮らし・社会・多様な価値観などを理解する。</p> <p>4) 日本の文化、価値観、家族のありようなどを見直す。</p> <p>5) 英語によるコミュニケーションを積極的に行う。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 渥美陽子、小出扶美子、炭谷正太郎、他、引率担当教員</p> <p>事前研修:</p> <p>第 1 回 オリエンテーション：心構え、研修の進み方、課題について</p> <p>第 2 回 渡航準備について①：参加者の役割など、英語学習について</p> <p>第 3 回 渡航準備について②：アメリカの基本情報など</p> <p>第 4 回 保健・医療制度、看護基礎教育に関する講義、「質問リスト」の確認</p> <p>第 5 回 渡航準備について③：アメリカ入国認証 ESTA 申請登録など</p> <p>第 6 回 看護シミュレーション演習と英会話トレーニング</p> <p>第 7 回 課題発表 (40 分)、渡航準備について④：出発前最終確認</p> <p>現地研修:</p> <p>第 8 回～第 14 回</p> <p>保健医療制度の講義、シミュレーション演習、病院施設見学、シャドウイング等を実施する。</p> <p>事後研修:</p> <p>第 15 回：看護研修全体の振り返りと報告会準備</p>

アクティブラーニング	研修参加にあたっては、日米の保健医療・看護教育制度、文化、社会・歴史的背景、健康問題、看護の現状と課題等に関する基本的な理解と議論を深め、自分なりの視点と課題を明確にしておく。そのために4つの事前課題に、個人及びグループで取り組み成果を発表する。研修後には学びを振り返り、①は現地で得た回答をまとめ、②、③についてはレポートを作成する。全体の振り返りで学びを共有・整理し、報告会の実施によって体験と学修を統合する。
授業内のICT活用	WebClass を用いて、事前課題の提出と理解度の確認を行う。
評価方法	事前研修・課題 35%、現地研修 50%、事後研修・課題 15%
課題に対するフィードバック	事前事後学修の各課題に対し、履修者全員が研修の目的・目標に到達できるまで、各担当者が個別・グループ指導を行う。
指定図書	特になし（適宜資料を配布する）
参考図書	特になし（授業時に紹介する）
事前・事後学修	4つの課題を課す。①質問リスト（英文）作成、②日米の医療や看護教育等に関する調べ学修、③研修先（施設）の概要に関する事前学修、④英会話・看護英語のセルフ・トレーニング 課題内容により異なりますが、週平均 1~2 時間の自己学習が必要です。④については毎日、30 分以上の語学学習を習慣づけてください。
オープンエデュケーションの活用	厚生労働省、「2021 年海外情勢報告」（本文）、第 1 章 欧米地域にみる厚生労働施策の概要と最近の動向、第 2 節 アメリカ合衆国（United States of America）（2）社会保障施策 https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/
オフィスアワー	木曜日午後（3413 研究室）。不在にすることもあります。その場合には、メール（yokoa@seirei.ac.jp）でご連絡ください。
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	基礎看護学実習 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	看護の対象となる人々の医療施設における療養環境の実際を理解し、療養生活における看護の役割について考える。また、看護学生に必要な基本的態度を身につける。
到達目標	<p>1. 対象の入院中の療養環境の実際を理解することができる</p> <p>2. 病院での看護実践の見学や体験をとおして、療養生活における看護の役割について考えることができる</p> <p>3. 看護学生に必要な基本的な態度を身につける</p>
授業計画	<p><担当教員名></p> <p>佐久間佐織、樋原理恵、炭谷正太郎、田口実里、吉里心希、早川ゆかり、有村優範、夏目麻理他</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 実習場所</p> <p>聖隸三方原病院、聖隸浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院、遠州病院</p> <p>2. 実習期間</p> <p>実習オリエンテーション 12月～1月 2回</p> <p>臨地実習 2月</p> <p>3. 実習展開</p> <p>実習オリエンテーション (学内)</p> <p>臨地実習 (3日間)</p> <p>実習成果報告会</p>

アクティブ ラーニング	実習科目
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	到達目標に合わせ、ループリックを用いて評価する 実習への取り組み、態度 60%、カンファレンスへの参加度、実習記録 30%、課題レポート 10%
課題に対する フィード バック	教員との面談や体験報告会でのコメント、実習記録へのコメントなどにより、事前学修、実習記録、実習での体験についての成果や課題、解決方法についてフィードバックする。
指定図書	
参考図書	
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】 実習要項を熟読する 看護学原論 I、看護学原論 II、基礎看護技術 I、基礎看護技術 II の学修内容を復習する 学修した看護技術についてセルフトレーニングする 実習施設、代表的な疾患や治療について調べる</p> <p>【事後学修】 実習で質問されたことや疑問をテキストなどを使って調べる</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	事前事後学修として以下の URL のオンライン教材を利用する ナーシングスキル : https://nursingskills.jp/ , エルゼビアジャパン
オフィス アワー	看護学部 1 号館 6 階 1618 研究室 随時 ※不在の場合は、メール (saori-s@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である
メディア 授業の実施 について	感染状況などにより、病院での実習が実施できない場合には、遠隔での実習となる場合がある。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP4 専門
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	受け持ち患者への看護実践活動を通し、患者の療養生活を理解し、援助のための基本的な看護技術と看護過程の基礎を学修する。また、対象者に必要な療養生活援助のための計画を立案し、看護技術を実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者を尊重し、援助的な人間関係を構築することができる 2. 患者の情報を整理・統合し、療養生活の援助を中心とした看護過程を展開することができる 3. 展開した看護過程に基づき患者に必要な看護ケアを実施し、評価することができる 4. 看護職に必要な基本的な態度を持ち、主体的に行動できる
授業計画	<p><担当教員名> 基礎看護学領域教員</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>1. 実習期間 5月 : OSCE 8月～9月 : 学内実習、臨地実習、症例カンファレンス、評価面談</p> <p>2. 実習場所 聖隸三方原病院、聖隸浜松病院、浜松市リハビリテーション病院、浜松医療センター、浜松ろうさい病院、北斗わかば病院</p> <p>3. 実習展開 OSCE、実習オリエンテーション、臨地実習、症例カンファレンス、評価面談で構成する</p>

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	特になし
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、自己評価に基づく振り返り 30%、実習記録 10%、課題レポート 10% 実習の到達目標に合わせ、項目ごとにループリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に担当教員と面談の時間を持ち、自己の課題と解決方法についてフィードバックを行います。
指定図書	
参考図書	
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、基礎看護技術論 I ・ 基礎看護技術演習 I で学修している内容を復習します。加えて、看護過程の学修では事例を展開するために 1 コマあたり事前 20 分、事後 20 程度、1 年次に学修した解剖学、生理学の学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ナーシングスキル : https://nursingskills.jp/ , エルゼビアジャパン
オフィス アワー	炭谷正太郎： 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	本科目は遠隔授業の実施科目ではありません。

科目名	聖隸看護基盤実習
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	聖隸ゆかりの施設による実習で、「ともに生きる」ことや、「対人援助の営みを根底で支えているもの」について、そこに生きる方や支援する方と出会う体験を振り返ることにより、その体験の意味について建学の精神や聖隸の理念をふまえて言語化することで今後の学びの動機づけとする。本科目は看護専門職としてのあり方や、自身の生き方について考え学ぶ「聖隸の理念と歴史」と連動して展開される。看護を学ぶ上で基盤となる対人援助職としてのあり方を、聖隸の理念と関連させて意味づけ、発展させてゆくための動機づけとする。本科目は看護専門職者としての高い倫理観と価値観・態度を身につけるための、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聖隸ゆかりの施設における創設期からの歴史的な変遷や活動を知ることができる。 2. キリスト教精神を基盤とした建学の精神や聖隸の理念について考え、意見を交わすことができる。 3. 聖隸ゆかりの施設での出会いや語りから、対人援助職としてのあり方を、聖隸の理念と関連させて意味づけ、自分の言葉で説明ができる。
授業計画	<p><担当教員名> 炭谷正太郎、室加千佳、入江拓、隆朋也、乾友紀、安田智洋、加藤貴子、遠山大成、小池武嗣、熊澤武志、太田知実、樺原理恵、長峰伸治</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間： 4月～7月 2. 実習場所： <ul style="list-style-type: none"> 聖隸厚生園讃栄寮 聖隸厚生園信生寮 聖隸おおぞら療育センター 聖隸三方原病院 ホスピス 聖隸三方原病院 精神科デイケア 和合愛光園 みるとす 浜松十字の園 細江デイサービスセンター デイサービスセンターみをつくし 小羊学園三方原スクエア 浜名湖エデンの園 三方原ベテルホーム 3. 実習展開： <p>聖隸看護基盤実習は実習オリエンテーション（学内）、臨地実習（臨地）、実習のまとめ（学内）で構成する。臨地実習は4日間（1日目：学内で実習準備および実習施設へ挨拶、2～3日目：臨地実習）で展開する。</p>

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	データベース・シミュレーション教材
評価方法	実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 50%、実習記録・課題レポート 50%
課題に対する フィード バック	実習当日に担当教員と面談の時間を持ち、フィードバックを行います。
指定図書	
参考図書	
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、聖隸の理念と歴史で学修している内容を復習します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	炭谷正太郎： 時間はオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	学内実習にて 2 教室間の遠隔授業が含まれます。 担当教員が各教室に分かれて授業を進行します。

科目名	公衆衛生看護学概論																														
科目責任者	江口 晶子																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター																														
DP 番号と 科目領域	DP2 専門																														
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。																														
科目概要	社会で生活するすべての人々を対象とし、個人・家族、集団を対象とした関わりだけでなく、社会全体にも働きかけていく公衆衛生看護の基本理念やその定義、倫理、諸学問との関係性及び、保健師の基本的能力や専門的能力について学修する。その上で、公衆衛生看護活動の場を知るとともに、各活動の場における保健師の役割と活動内容の特徴を学ぶ。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理を理解する。 2. 公衆衛生看護の歴史を概観し、公衆衛生看護活動の意義や特徴を理解する。 3. 公衆衛生看護の対象としての個人・家族、集団、組織、地域を理解する。 4. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論、法的根拠、基本的な展開方法を理解する。 5. 公衆衛生看護活動の場と、各活動の場における保健師の活動の概要を理解する。 																														
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、三輪眞知子、池永理恵子、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回：公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理</td> <td>: 三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第2回：公衆衛生看護の歴史①</td> <td>: 三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第3回：公衆衛生看護の歴史②</td> <td>: 三輪眞知子</td> </tr> <tr> <td>第4回：公衆衛生看護の対象の捉え方（個人・家族、集団、組織、地域）</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第4回：公衆衛生看護活動の基盤となる理論</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第5回：公衆衛生看護活動の法的根拠と活動の場</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第6回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第8回：都道府県・保健所における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：静岡県保健師</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：浜松市保健師</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回：市町村における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：袋井市保健師</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回：産業における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：曾我恵里 (本田技研工業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回：学校における保健師の役割と活動内容</td> <td>: 池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第13回：地域包括支援センターにおける看護の役割と活動内容 ゲストスピーカー：松山美津代（地域包括支援センター和合）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回：個人・家族から地域への活動展開（自助・互助・共助・公助）</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>: 江口晶子</td> </tr> </tbody> </table>	第1回：公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理	: 三輪眞知子	第2回：公衆衛生看護の歴史①	: 三輪眞知子	第3回：公衆衛生看護の歴史②	: 三輪眞知子	第4回：公衆衛生看護の対象の捉え方（個人・家族、集団、組織、地域）	: 江口晶子	第4回：公衆衛生看護活動の基盤となる理論	: 江口晶子	第5回：公衆衛生看護活動の法的根拠と活動の場	: 江口晶子	第6回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法	: 江口晶子	第8回：都道府県・保健所における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：静岡県保健師		第9回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：浜松市保健師		第10回：市町村における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：袋井市保健師		第11回：産業における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：曾我恵里 (本田技研工業)		第12回：学校における保健師の役割と活動内容	: 池永理恵子	第13回：地域包括支援センターにおける看護の役割と活動内容 ゲストスピーカー：松山美津代（地域包括支援センター和合）		第14回：個人・家族から地域への活動展開（自助・互助・共助・公助）	: 江口晶子	第15回：まとめ	: 江口晶子
第1回：公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理	: 三輪眞知子																														
第2回：公衆衛生看護の歴史①	: 三輪眞知子																														
第3回：公衆衛生看護の歴史②	: 三輪眞知子																														
第4回：公衆衛生看護の対象の捉え方（個人・家族、集団、組織、地域）	: 江口晶子																														
第4回：公衆衛生看護活動の基盤となる理論	: 江口晶子																														
第5回：公衆衛生看護活動の法的根拠と活動の場	: 江口晶子																														
第6回：公衆衛生看護活動の基本的な展開方法	: 江口晶子																														
第8回：都道府県・保健所における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：静岡県保健師																															
第9回：政令指定都市における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：浜松市保健師																															
第10回：市町村における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：袋井市保健師																															
第11回：産業における保健師の役割と活動内容 ゲストスピーカー：曾我恵里 (本田技研工業)																															
第12回：学校における保健師の役割と活動内容	: 池永理恵子																														
第13回：地域包括支援センターにおける看護の役割と活動内容 ゲストスピーカー：松山美津代（地域包括支援センター和合）																															
第14回：個人・家族から地域への活動展開（自助・互助・共助・公助）	: 江口晶子																														
第15回：まとめ	: 江口晶子																														

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等への回答を求め、全体で共有する。
評価方法	定期試験：50%、小テスト：20%、課題提出物（ミニレポート）：25%、グループワーク：5%
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院
参考図書	授業の中で隨時伝える。
事前・ 事後学修	授業時及び Web class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第3回、第6回終了後、Web class を用いた小テストを行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただけないと確実です。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	2教室での授業を行う。1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業とする。メディア授業を受講する教室には、適正な受講環境の維持及び質疑応答等の取次などのため、補助教員を1名配置し、教育の質を維持する。

科目名	公衆衛生看護技術論
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	<p>看護学の知識や技術を基盤とし、公衆衛生看護の場面（生活の場）において、対象者の生活や価値観に深くかかわる健康問題（課題）を解決・支援するために用いる公衆衛生看護技術を理解する。</p> <p>また、対象とする人々の健康問題（課題）を支援するために、生活者の行動を理解する必要があることから、人々の行動を概念・保健行動理論やモデルを活用することで、物事を遂行するための方法や手段、目的に到達するための手順や手法の過程を理解する。</p> <p>公衆衛生看護活動を行う上で重要な理論モデルの理解は、成人保健の事例を用いて発達課題や健康課題への支援技術を、結び付けて考えることができる。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の基盤となる理論を理解できる。 2. 公衆衛生看護技術を理解できる。 3. 成人期の人々を対象とした健康に関する法規と施策を理解する。 4. 成人事例を基に公衆衛生看護の対象理解及び地域活動への展開が理解できる。
授業計画	<p><担当教員> 若杉早苗 <授業内容・テーマ等></p> <p>導入 4 コマ</p> <p>第1回 公衆衛生看護過程の展開と技術</p> <p>第2回 公衆衛生看護の基盤となる理論① (保健行動と理論、自己効力感、ヘルスビリーフモデル、シーソーモデル)</p> <p>第3回 公衆衛生看護の基盤となる理論② (変化のステージ理論、コミュニティー・アズ・パートナーモデル)</p> <p>第4回 公衆衛生看護技術とは何か</p> <p>公衆衛生看護技術の展開 1 (成人事例から考える：個別…5 コマ)</p> <p>第5回 成人期の人々の理解と健康に関する主な法規、施策</p> <p>第6回～9回 個人・家族への支援に必要な基本的知識と技術</p> <p>※健康診査、健康相談、健康教育、家庭訪問について反転授業を実施する。指定図書やインターネットを活用し、保健師が個人・家族に対しておこなう支援技術を整理しプレゼンする。併せて成人事例を用いて、保健師の技術を考える事で保健活動の展開を学習する。</p> <p>公衆衛生看護技術の展開 2 (地域組織活動の展開：集団・地域…3 コマ)</p> <p>第10、11回 地区／小地域への支援に必要な基本的知識と技術：地域診断のプロセスと地域診断技術 (2 コマ)</p> <p>第12回 地域の健康課題を焦点化する (1 コマ) ゲストスピーカー (磐田市 保健師活動の実際)</p> <p>公衆衛生看護技術の展開 3 (住民組織の育成・活動の展開：集団・地域…2 コマ)</p> <p>第13回 住民組織の支援に必要な基本的知識と技術① 住民組織の育成支援に関する概念</p> <p>第14回 住民組織の支援に必要な基本的知識と技術② 住民組織の発展過程と支援方法</p> <p>公衆衛生看護技術まとめ 1 コマ</p> <p>第15回 公衆衛生看護技術のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	公衆衛生看護技術に関する内容を取り上げる科目だが、反転授業を行い、保健師の活動の中心である「健康診断」「健康相談」「健康教育」「家庭訪問」は学生が主体的に知識をまとめて、プレゼンテーションを実施する。また、地域診断のプロセス技術、地域の健康課題の焦点化については、学生が居住する地域を診断することで、主体的な学びに繋げる。
授業内の ICT 活用	<p>WebClass を用いて理解度の確認を双方向で行う。また、授業で作成した学生同士の課題を Webclass に掲載し、共有を図る。</p> <p>公衆衛生看護技術論に関する授業資料・学習成果の内容を、Webclass に掲載し学生間同士の活用を促す。</p> <p>保健指導リソースガイド (http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/)</p>
評価方法	事前・事後学修 40%、定期試験 60% ※再試験は行わない科目です。
課題に対する フィード バック	次の授業の開始時にクラス全体にフィードバックする。
指定図書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 1年次に購入済み 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院
参考図書	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学3 循環器 医学書院
事前・事後学修	各教員が課す事前課題を WebClass 内に提出する（第2回～15回）こと
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として下記のサイトを紹介する。 内閣府、経済産業省 地域診断分析システム RESAS https://resas.go.jp/#/13/13101 厚生労働省 HP 厚生白書、働く女性の実状 等 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 学術機関ジポリトリ https://irdb.nii.ac.jp/ J-Stage https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
オフィス アワー	水曜日の昼休み時間帯とします。実習、出張などで不在にすることもあります。その場合には、メールでご連絡ください。 sanae-w@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護技術論演習
科目責任者	長山 ひかる
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	多様な対象者の健康問題を予測し、予防的に対処していくための、専門的な知識や技術の習得及び、課題解決の過程(アセスメント・分析・診断・計画・実施・評価)の6つの要素を理解し、理論に基づいた主体的に関与・支援ができる技能を身につける。さらに、公衆衛生看護活動を実践するための健診、保健指導、健康相談、家庭訪問、健康教育等に係る公衆衛生看護技術を習得する。
到達目標	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につける。 1. 多様な対象者のセルフケア能力を高める保健指導計画の立案方法を理解できる。 2. 個人・家族に対する保健指導(個人・家族の健康支援)の展開ができる。 3. 集団に対する基本的な健康教育をおこなう方法を理解すると共に、地域支援(地域の健康課題)へつながる保健指導の展開ができる。 4. 多様な対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪眞知子 I. 導入 (1 コマ) 第1回 : オリエンテーション: 公衆衛生看護の支援技術 (公衆衛生看護技術論事例の振り返り) II. 個人・家族を対象とした支援に必要な技術 (7 コマ) 成人を対象(個人)の生活を捉える視点を意識しながら、顕在的・潜在的健康課題をアセスメントし、個別指導計画を作成する。 第2回 : 個別の保健指導技術の展開 : (成人の特定保健指導) 来所による保健指導とは(対象者の理解、情報収集及び情報の整理、アセスメント、指導計画作成技術) 第3回 : 個別の保健指導技術の展開 (演習) (成人を対象とした相談・保健指導計画の作成:指導リーフレットの作成) 第4回 : 個別の保健指導技術の展開:健康相談・保健指導 (成人の相談技術の実践:学生同士のロールプレイ) <ul style="list-style-type: none"> ● ロールプレイ演習: A・B グループに分けてロールプレイ・リフレクション ● 担当学生の計画(情報整理、アセスメント、計画内容)を確認し指導をおこなう ● 修正部分の確認をおこない、思考を整理する 第5回 : 個別の保健指導技術の展開 (新生児家庭訪問) 家庭訪問とは(家庭訪問対象者の理解、情報の整理、アセスメント、指導計画作成技術) 第6回 個別の保健指導技術の展開 (演習) (新生児家庭訪問計画の作成) 第7~8回 : 個別の保健指導技術:家庭訪問の支援評価 (講義+演習+まとめ) <ul style="list-style-type: none"> ● ロールプレイ演習 (2 コマ): A・B グループに分けてロールプレイ・リフレクション ● 担当学生の計画(情報整理、アセスメント、計画内容)を確認し指導をおこなう ● 修正部分の確認をおこない、思考を整理する III. 集団を対象とした公衆衛生看護技術 (6 コマ) 第9・10回 : 地域の健康課題を解決する技術 (集団の保健指導技術:健康教育(講義1 コマ+演習1 コマ)) <ul style="list-style-type: none"> ● 公衆衛生看護情報処理演習(データの分析等)から地域の共通した健康問題として捉える視点を持ち、集団健康教育の指導計画を作成する。 第11回 : 集団の保健指導技術:健康教育素案の指導

	<p>(個人の健康問題はその地域の問題として捉え、解決策（健康教育案）を作成する。 教育目標の設定、方法と媒体)</p> <p>第12回：集団の保健指導技術：健康教育素案の指導 (目的・目標を達成するための方法と媒体、指導案の作成、発表準備)</p> <p>第13・14回：集団の保健指導技術：健康教育（実践・演習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1人15分の教育指導（5～6人グループ）をお互いに講評する ●実践した健康教育を自己評価（リフレクション）する <p>IV. 公衆衛生看護に必要な技術・まとめ（1コマ）</p> <p>第15回：公衆衛生看護技術のまとめ（実践の講評+講義）</p>
アクティブ ラーニング	演習科目です。集団を対象とした学修は、個人ワーク、プレゼンテーションをします。 個人・家族を対象とした学修では、保健師の実践技術をロールプレイにより習得していきます。
授業内の ICT 活用	健康教育の企画に対し、インターネットを活用して情報を収集し活用する。 健康教育の発表はパワーポイントを使用し、プレゼンテーション能力向上にも活用する。 演習に関する事例及び様式を Webclass に掲載し活用する。
評価方法	演習記録 90%（個別支援計画：30%、健康教育の実践：30%、事前事後学習、30%） 演習への取り組み態度 10% ＊演習評価は、ループリックを用いる（健康教育）。 ＊演習の到達目標は、MR 自己チェック項目を提示する。
課題に対する フィード バック	ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。 講義のコマではリアクション・ペーパーの記載から到達していない課題を確認し、次の演習でフィードバックをしていきます。
指定図書	乳幼児健診マニュアル 第6版（医学書院） 標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論：医学書院：購入済み 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術：医学書院：購入済み 国民衛生の動向（厚生労働統計協会編）：購入済み 国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会編）
参考図書	公衆衛生がみえる 2022-2023：メディカ出版
事前・ 事後学修	公衆衛生看護技術論の再確認のための事前課題を教員より提示します。 特定健診・特定保健指導、医療保健制度、保険診療の仕組み（診療請求書：レセプト）について 地域の健康課題に関連する内容の質的研究及び量的研究の文献検索（各1本ずつ）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として下記のサイトを紹介する。 内閣府、経済産業省 地域診断分析システム RESAS https://resas.go.jp/#/13/13101 厚生労働省 HP 厚生白書、働く女性の実状等 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 学術機関ジポリトリ https://irdb.nii.ac.jp/ J-Stage https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
オフィス アワー	
実務経験に 関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	新型コロナウイルス対策の特例として、履修人数が80名を超えた場合は、2教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として教職員1名を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	公衆衛生看護推論																
科目責任者	江口 晶子																
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 4 セメスター																
DP 番号と 科目領域	DP5 専門																
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																
科目概要	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の意義を理解するとともに、地域診断および明らかになった健康課題を解決するための計画立案から評価までの展開過程とその過程で用いる考え方(推論)を学ぶ。																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地区を受け持ち活動する保健師の対象のとらえ方と活動方法の特徴を説明できる。 2. 地域診断の視点と基本的な展開過程をふまえ、関連する理論モデルの活用上の考え方を説明できる。 3. 地域診断のための情報とその収集方法を説明できる。 4. 収集した情報の分析・判断、健康課題を特定する方法を説明できる。 5. 健康課題を解決するための対策を検討する方法を説明できる。 6. 保健事業の計画、実施、評価の方法を説明できる。 7. 保健計画の策定過程および進行管理、評価の方法を説明できる。 8. 公衆衛生看護活動の展開過程をふまえ、地域診断の意義を考察できる。 																
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、水田明子、三輪眞知子、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回 公衆衛生看護活動における地域のとらえ方と地区活動</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第2回 地域診断の展開</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第3回 地域診断に活用できる理論</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第4回 公衆衛生看護活動の展開過程</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第5回 課題：情報収集 コミュニティ・アズ・パートナーモデルの活用 「実家のある市町村の防災について調べよう」</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第6回 課題：課題の抽出 プリシード・プロシードモデルの活用 「実家のある市町村の防災における課題を抽出しよう」</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第7回 課題：目標の設定/対策の検討 「実家のある市町村の防災対策を計画しよう」</td> <td>水田明子</td> </tr> <tr> <td>第8回 保健医療福祉における事業化・施策化</td> <td>三輪眞知子</td> </tr> </tbody> </table>	第1回 公衆衛生看護活動における地域のとらえ方と地区活動	江口晶子	第2回 地域診断の展開	水田明子	第3回 地域診断に活用できる理論	水田明子	第4回 公衆衛生看護活動の展開過程	水田明子	第5回 課題：情報収集 コミュニティ・アズ・パートナーモデルの活用 「実家のある市町村の防災について調べよう」	水田明子	第6回 課題：課題の抽出 プリシード・プロシードモデルの活用 「実家のある市町村の防災における課題を抽出しよう」	水田明子	第7回 課題：目標の設定/対策の検討 「実家のある市町村の防災対策を計画しよう」	水田明子	第8回 保健医療福祉における事業化・施策化	三輪眞知子
第1回 公衆衛生看護活動における地域のとらえ方と地区活動	江口晶子																
第2回 地域診断の展開	水田明子																
第3回 地域診断に活用できる理論	水田明子																
第4回 公衆衛生看護活動の展開過程	水田明子																
第5回 課題：情報収集 コミュニティ・アズ・パートナーモデルの活用 「実家のある市町村の防災について調べよう」	水田明子																
第6回 課題：課題の抽出 プリシード・プロシードモデルの活用 「実家のある市町村の防災における課題を抽出しよう」	水田明子																
第7回 課題：目標の設定/対策の検討 「実家のある市町村の防災対策を計画しよう」	水田明子																
第8回 保健医療福祉における事業化・施策化	三輪眞知子																

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに対し、バズセッションやグループディスカッションを行う。 第4回、第5回、第6回は事前課題をもとに演習形式にて行う。
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問への回答を求め、全体で共有する。
評価方法	小テスト（60%）、事前・事後課題（30%）、課題レポート（10%） ※ 再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	授業の中や Web class を通して行う。
指定図書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術論 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動論 医学書院
参考図書	佐伯和子 編著：地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版、医歯薬出版株式会社（2018） 梶井英治 他 監修：保健福祉活動のてびき-その心と活動の実際、ぎょうせい（2000） その他、授業の中で提示する。
事前・ 事後学修	授業の中や Web class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第1回、第4回、第7回、第8回終了後、Web class を用いた小テストを行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール（akiko-e@seirei.ac.jp） でアポイントをとっていただけないと確実です。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生情報処理演習	
科目責任者	長山 ひかる	
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP5 専門	
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。	
科目概要	公衆衛生看護活動に必要な情報処理の方法とその情報を適切に扱う考え方、質的データや量的データの意味を正しく理解し、分析して地域の健康課題を焦点化させていくプロセスと技術について学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動に必要な情報を適切に扱う考え方を理解できる。 2. 法律や人権、倫理的配慮を意識した情報の取り方、情報の管理を考えることができる。 3. 得られた情報を公衆衛生看護活動に利活用していく分析方法（質的・量的）を理解し、健康課題を焦点化していくプロセスを考えることができる。 4. 量的・質的データの集約結果から、住民の生活実態を想像し、地域の健康課題を焦点化させていくプロセスを理解し、実践できる。 	
授業計画	<担当教員名> 長山ひかる、江口晶子、西川浩昭、遠山大成、三輪眞知子	
	<授業内容・テーマ等>	
	第1回：オリエンテーション・保健活動とデータを利用した地域分析	
	長山	
	第2回：情報と人権、倫理的配慮、情報の取り方、情報管理と守秘義務	
	長山	
	第3回：行政が扱う情報の種類と活用方法（質的データ）	
	三輪	
	第4回：行政が扱う情報の種類と活用方法（質的データ）	
	三輪	
	第5回：保健師が行う地域診断と情報処理 Excel データの活用方法	
	遠山	
	第6回：保健師が行う地域診断と情報処理①SPSS とは・分析の基礎	
	西川	
	第7回：保健師が行う地域診断と情報処理②SPSS の実践	
	西川	
	第8~11回：地域診断分析の実践：ダミーデータを活用したデータ分析	
	教員全員	
	①データアセスメント（SPSS を使用したダミーデータの分析） ②健康課題の抽出と考察 ③地域診断報告書のまとめ方と実践	
	第12回：地域診断分析の共有	
	教員全員	
	第13回：ビックデータ（基本統計データ e-stat, ）の活用方法と実践①	
	江口	
	第14回：ビックデータ（基本統計データ e-stat, ）の活用方法と実践②	
	江口	
	第15回：まとめ	
	長山	

アクティブ ラーニング	演習科目です。グループディスカッション、グループ課題を取り入れる。 公衆衛生看護活動における量的データ（SPSS）の用い方を、自身のパーソナルコンピュータを活用して学習する。
授業内の ICT 活用	随時、WebClass を活用して、学生が、自身の意見を述べたり、他者の意見を閲覧したりする。
評価方法	授業態度 20%、課題の内容 70%（事前事後課題：45%:論文要約：10%、コミュニティ・アズ・パートナーモデルアセスメント 20%、ビックデータ分析：15%、地域診断報告書：25%）
課題に対する フィード バック	授業の中で行う。
指定図書	改訂新版 SPSS による統計データ解析, 柳井晴夫, 現代数学社, 2020 保健師のためのデータ活用ブック, 中板育美, 東京図書（株）, 2018
参考図書	よくわかる地域看護研究の進め方・まとめ方保健事業の企画立案から評価への効果的な活用をめざして, 横山美江, 医科歯科出版, 2014 この他は随時紹介します。
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書のページを指定する。 事後学修：授業の内容をもとに復習の要点、各自が調べる内容を提示するので、各自その課題に取り組む。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・授業で用いたスライドを Webclass で閲覧できるようする。 ・e-Stat（政府統計ポータルサイト）
オフィス アワー	実習等で学外に出ていることも多いため、メールにて面談の予約をしてほしい。各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示する。 長山ひかる（2711 研究室） 江口晶子（1207 研究室:akiko-e@seirei.ac.jp） 西川浩昭（1620 研究室 hiroaki-ni@seirei.ac.jp） 遠山大成（1680 研究室: taisei-t@seirei.ac.jp）
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護活動論 (2022 年度入学生)																														
科目責任者	江口 晶子																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター																														
DP 番号と 科目領域	DP5 専門																														
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																														
科目概要	公衆衛生看護が働きかける対象である全ての地域住民への支援において、最大限の効果を発揮するための発展的・総合的な活動のあり方を論点とする。各ライフステージ、あらゆる健康レベル、脆弱性・リスクを持った個人とその家族のみならず、集団・組織・地域・ケアシステムをアセスメントする力の形成に重点を置き、特に、複雑化する健康課題に戦略的に対応するため、多職種連携、市民協働、政策形成参画による包括的アプローチの意義と方法論を学修する。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各ライフステージおよび特定の健康課題に応じた保健活動にかかる法制度や施策を、その動向を踏まえて理解できる。 各ライフステージおよび特定の健康課題に応じた保健活動の展開方法および保健師の役割や支援の特徴を理解できる。 各ライフステージおよび特定の健康課題をもつ人々の健康課題に対応するための、地域ケアシステムの構築を始めとする包括的アプローチの実際を理解できる。 																														
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、長山ひかる、三輪眞知子、遠山大成</p> <p><授業内容></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回：母子保健① 母子保健活動の動向と法制度</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第2回：母子保健② 母子保健における健康課題と支援の実際</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第3回：成人保健 成人保健における健康課題と支援の実際</td> <td>ゲストスピーカー：静岡県保健師</td> </tr> <tr> <td>第4回：高齢者保健① 高齢者保健活動の動向と法制度</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第5回：高齢者保健② 高齢者保健における健康課題と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第10回：感染症対策② / 結核対策に関する法制度と支援の実際</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向</td> <td>ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師</td> </tr> <tr> <td>第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際</td> <td>ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師</td> </tr> <tr> <td>第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>江口晶子</td> </tr> </tbody> </table>	第1回：母子保健① 母子保健活動の動向と法制度	江口晶子	第2回：母子保健② 母子保健における健康課題と支援の実際	長山ひかる	第3回：成人保健 成人保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：静岡県保健師	第4回：高齢者保健① 高齢者保健活動の動向と法制度	江口晶子	第5回：高齢者保健② 高齢者保健における健康課題と支援の実際	江口晶子	第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援の実際	長山ひかる	第10回：感染症対策② / 結核対策に関する法制度と支援の実際	長山ひかる	第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師	第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師	第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向	池永理恵子	第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際	池永理恵子	第15回：まとめ	江口晶子
第1回：母子保健① 母子保健活動の動向と法制度	江口晶子																														
第2回：母子保健② 母子保健における健康課題と支援の実際	長山ひかる																														
第3回：成人保健 成人保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：静岡県保健師																														
第4回：高齢者保健① 高齢者保健活動の動向と法制度	江口晶子																														
第5回：高齢者保健② 高齢者保健における健康課題と支援の実際	江口晶子																														
第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援の実際	長山ひかる																														
第10回：感染症対策② / 結核対策に関する法制度と支援の実際	長山ひかる																														
第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師																														
第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師																														
第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向	池永理恵子																														
第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際	池永理恵子																														
第15回：まとめ	江口晶子																														

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに関するバズセッションやグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等への回答を求め、全体で共有する。
評価方法	定期試験：70%、小テスト：25%、課題提出物（ミニレポート）：15% ※再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動論 医学書院
参考図書	公衆衛生がみえる 2022-2023 メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 井伊久美子他 編：保健師業務要覧 第4版 2023年版 日本看護協会出版会 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会 編：乳幼児健診マニュアル 第6版 医学書院 古川亮子、市江和子 編著：母性・小児看護ぜんぶガイド 第2版、照林社 その他、授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業時及びWeb class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第2回、第5回、第7回、第8回、第10回が終了後、Web class を用いた小テストを行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ビジュランクラウド
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただけないと確実です。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護学実習 I
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 2 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、本学の所在する浜松市をフィールドに、地区視診や、各地区で行われている住民主体の活動に参加することで、人々の健康が、生活環境や所属する生活共同体の営みと密接不可分な関係を持つことを理解するとともに、生活共同体を構成する人々の潜在能力を引き出し、主体的な問題解決の実現を促す役割を持つ公衆衛生看護の意義を理解することをめざす。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習地区の生活環境や住民の生活状況を、生活者の視点で捉えることができる。 2. 実習地区で行われている住民組織（グループ）の活動の実際を理解することができる。 3. 実習地区の住民による「自助」「互助」の実際とその意義を理解することができる。 4. 住民の健康生活を守る上で、住民による「自助」「互助」の取り組みを支え、促す公衆衛生看護活動の意義を考えることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、遠山大成、長山ひかる、三輪眞知子</p> <p><実習場所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市地域包括支援センター和合（富塚、萩丘（住吉・和合）） ・浜松市地域包括支援センター高丘（萩丘（萩丘中、葵・高丘）） ・浜松市地域包括支援センター北浜（北浜） ・浜松市地域包括支援センター細江（細江、引佐、三ヶ日） ・浜松市地域包括支援センター於呂（中瀬、赤佐） ・上記の地域包括支援センター管内で活動する住民組織（高齢者サロン等） <p><実習内容></p> <p>小グループで、住民組織の活動への参加、当該住民組織の拠点のある地区の地区視診などを行う。</p> <p>フォトボイス、マインドマップの手法を用いて学びを整理する。</p> <p>学習成果報告会において学びを共有する。</p> <p>※ 詳細は「公衆衛生看護学実習 I 実習要項」にて示す。</p>

アクティブ ラーニング	実習
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習・自己学習・グループワークに取り組む姿勢および学習態度：20%、実習成果報告会の発表内容（発表資料を含む）：20%、実習記録：40%、課題レポート：20%
課題に対する フィード バック	実習の中で随時行う。
指定図書	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院
参考図書	近藤克則編：住民主体の楽しい「通いの場」づくり、日本看護協会出版会（2019）
事前・ 事後学修	本科目と関連する公衆衛生看護学概論の講義内容を活かす。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	事前学習にビジュランクラウドを利用する。
オフィス アワー	オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。 江口晶子（1207 研究室：akiko-e@seirei.ac.jp） 遠山大成（1680 研究室：taisei-t@seirei.ac.jp） 長山ひかる
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教職概論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本講義では、教育実践記録やそれへの解説を読解・検討することを通じて、現代日本における学校教育・教職の社会的な意義について理解し、教員に求められる役割や資質能力について考察を深めることを目的とする。
到達目標	<p>1. 教員の職務内容を理解する。</p> <p>2. 児童生徒を取り巻く現代的諸課題やそれへの対応方法について、基本的な考え方を理解し、自身の考えを深めることができる。</p> <p>3. 教員個人としての力量形成のみならず、同僚教員や多職種の専門家との連携の重要性を理解し、そのあり方について考える。</p>
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教員になるとは① 教員としての養護教諭</p> <p>第3回：教員になるとは② 学校教育の役割と社会的意義</p> <p>第4回：教員になるとは③ 教員の服務・研修</p> <p>第5回：児童生徒の“問題行動”的解釈・対応①—児童生徒理解を深める—</p> <p>第6回：児童生徒の“問題行動”的解釈・対応②—共感・受容的対応の意義—</p> <p>第7回：集団づくりにおける教員の役割①—集団として児童生徒を捉える—</p> <p>第8回：集団づくりにおける教員の役割②—集団づくりと発達保障—</p> <p>第9回：地域との連携における教員の役割①—地域社会における児童生徒—</p> <p>第10回：地域との連携における教員の役割②—地域との連携・協働—</p> <p>第11回：地域との連携における教員の役割③—授業づくりと生活指導—</p> <p>第12回：養護教諭の職務・意義 元養護教諭（津田聰子先生）の講演</p> <p>第13回：現代的教育課題への対応① 現代的教育課題と教員の役割・責任</p> <p>第14回：現代的教育課題への対応② 多職種連携に向けた教員の役割</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 60% 期末レポート 40%
課題に対する フィード バック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	なし
参考図書	竹内常一『おとなが子どもと出会うとき 子どもが世界を立ち上げるとき』櫻井書店、2003年。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：指定した資料を読み、理解を深める。（2回～15回） ・事後学修：追加で関連資料・文献を調べたりして、授業内容について理解を深める（2～15回） ※毎回の事後学修の目安時間は40分です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	太田知実（1210研究室）tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は、初回授業の際に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	学校保健																															
科目責任者	池永 理恵子																															
単位数他	2 単位 (30 時間)	選択 2 セメスター																														
DP 番号と 科目領域	教 DP(2) 教職																															
科目の 位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。																															
科目概要	<p>学校保健安全法の目的は、児童生徒等及び教職員の健康の保持増進を図り、安全な学習環境を提供することにより、学校教育の円滑な実施とその成果を確保することにある。学校保健安全法が示す学校における児童生徒等の健康と安全を図るための教育保健活動について学習する。学校保健・学校安全に対する知識と態度を学ぶことを通して、公衆衛生看護領域の学校看護および地域看護に携わる看護職の学校保健活動の理解を深め、看護活動に活かすことができる。</p>																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 学校保健安全法の目的・意義を説明することができる。 学校における学校保健（健康管理・保健教育）・学校安全（安全管理・安全教育）等における養護教諭の役割機能について理解を深めることができる。 学校保健における教職員が果たす役割機能を述べることができる。 組織活動に関わる地域及び社会資源について考えることができる。 児童生徒の保健管理に必要な基礎的知識を身に付けて実践に活かせる。 																															
授業計画	<table> <tr> <td>第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と意義、領域と構造</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第2回 管理職からみた学校保健活動および養護教諭の役割</td> <td>ゲストスピーカー 岡田眞江先生</td> </tr> <tr> <td>第3回 保健室の役割と健康観察</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第4回 健康の現代的課題への対応① (子どもの成長発達と疾患理解)</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第5回 児童生徒の健康状態の把握と指導 (健康診断・保健調査を含む)</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第6回 教育活動全体で行う保健教育と養護教諭の役割</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第7回 健康の現代的課題への対応② (歯科保健)</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第8回 健康の現代的課題への対応③ (性教育)</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第9回 学校安全と応急処置 (医療的ケア・アレルギーへの対応を含む)</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第10回 特別な支援を要すると子ども理解と対応</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第11回 感染症の予防、学校保健の評価</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第12回 学校保健における他職種との連携① 精神保健福祉士の役割と実際</td> <td>社会福祉学部教員</td> </tr> <tr> <td>第13回 学校保健における他職種との連携② 行政保健師の役割と実際 (学校保健と地域保健の連携)</td> <td>看護学部教員</td> </tr> <tr> <td>第14回 学校保健における養護教諭の職務の実際</td> <td>ゲストスピーカー 矢吹淑恵先生</td> </tr> <tr> <td>第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</td> <td>池永理恵子</td> </tr> </table>		第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と意義、領域と構造	池永理恵子	第2回 管理職からみた学校保健活動および養護教諭の役割	ゲストスピーカー 岡田眞江先生	第3回 保健室の役割と健康観察	池永理恵子	第4回 健康の現代的課題への対応① (子どもの成長発達と疾患理解)	池永理恵子	第5回 児童生徒の健康状態の把握と指導 (健康診断・保健調査を含む)	池永理恵子	第6回 教育活動全体で行う保健教育と養護教諭の役割	池永理恵子	第7回 健康の現代的課題への対応② (歯科保健)	池永理恵子	第8回 健康の現代的課題への対応③ (性教育)	池永理恵子	第9回 学校安全と応急処置 (医療的ケア・アレルギーへの対応を含む)	池永理恵子	第10回 特別な支援を要すると子ども理解と対応	池永理恵子	第11回 感染症の予防、学校保健の評価	池永理恵子	第12回 学校保健における他職種との連携① 精神保健福祉士の役割と実際	社会福祉学部教員	第13回 学校保健における他職種との連携② 行政保健師の役割と実際 (学校保健と地域保健の連携)	看護学部教員	第14回 学校保健における養護教諭の職務の実際	ゲストスピーカー 矢吹淑恵先生	第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題	池永理恵子
第1回 オリエンテーション、学校保健の目的と意義、領域と構造	池永理恵子																															
第2回 管理職からみた学校保健活動および養護教諭の役割	ゲストスピーカー 岡田眞江先生																															
第3回 保健室の役割と健康観察	池永理恵子																															
第4回 健康の現代的課題への対応① (子どもの成長発達と疾患理解)	池永理恵子																															
第5回 児童生徒の健康状態の把握と指導 (健康診断・保健調査を含む)	池永理恵子																															
第6回 教育活動全体で行う保健教育と養護教諭の役割	池永理恵子																															
第7回 健康の現代的課題への対応② (歯科保健)	池永理恵子																															
第8回 健康の現代的課題への対応③ (性教育)	池永理恵子																															
第9回 学校安全と応急処置 (医療的ケア・アレルギーへの対応を含む)	池永理恵子																															
第10回 特別な支援を要すると子ども理解と対応	池永理恵子																															
第11回 感染症の予防、学校保健の評価	池永理恵子																															
第12回 学校保健における他職種との連携① 精神保健福祉士の役割と実際	社会福祉学部教員																															
第13回 学校保健における他職種との連携② 行政保健師の役割と実際 (学校保健と地域保健の連携)	看護学部教員																															
第14回 学校保健における養護教諭の職務の実際	ゲストスピーカー 矢吹淑恵先生																															
第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題	池永理恵子																															

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第5回では、健康診断の演習を行う。 ・第9回では、学校における救急処置の基本について演習を行う。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。
評価方法	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 20%</p> <p>(演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示します。)</p> <p>筆記試験 60% 計 100%</p>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題はコメントを添えて返却する。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。 ・講義では小テストまたはワークシート記入を行う。
指定図書	岡本 陽子・郷木 義子編/最新 学校保健 /ふくろう出版 /ISBN : 978-4-86186-810-8 学校保健・安全実務研究会編著/新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）/第一法規/ISBN : 978-4-474-06863-6
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・津島ひろ江「学校における養護活動の展開第10版」ふくろう出版 <p>※その他、必要時応じて随時紹介する。</p>
事前・ 事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと（1～11回目）。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・授業後に、小テストまたはワークシート記入を行う。（1～14回目）。 <p>授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。
オープンエ デュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm ・小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p>
オフィス アワー	<p>科目責任者：池永理恵子（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします）</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	特別支援教育概論	
科目責任者	伊藤 信寿	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 3 セメスター	
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職	
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。	
科目概要	様々な理由により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学びます。	
到達目標	1) 特別支援教育の制度について理解する。 2) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 3) 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 4) 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 伊藤信寿、大須賀優子 第1回 特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 伊藤 目標：特別支援教育とは何かについて理解する 事前学修：特殊教育と特別支援教育の違いについてまとめる 形式：講義+グループワーク 第2回 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害の特性について 伊藤 目標：視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の特性や支援について理解する 事前学修：脳性まひ、筋ジストロフィーの特性についてまとめる 形式：講義+グループワーク 第3回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の脳の発達特性と支援 大須賀 目標：発達障害や知的障害の脳機能の特性に合わせた支援の方法について理解する 事前学修：発達障害や知的障害の子どもへの支援で疑問に思うことをまとめる 第4回 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の行動支援 大須賀 目標：ABC 分析の考え方に基づく効果的な行動支援の方法について理解する 事前学修：子どもの問題行動に対する支援の方法をまとめる 第5回 特別支援教育の制度と合理的配慮の提供 大須賀 目標：特別支援教育の仕組みについて理解するとともに、ICF の視点から 学校における合理的配慮の提供について理解する。 事前学修：合理的配慮とは何かまとめる 第6回 特別支援教育における専門家の役割について 伊藤 目標：特別支援教育に関わる専門家とその役割について理解する 事前学修：どのような専門家がいるのかをまとめる 形式：講義+グループワーク 第7回 教育、医療、福祉、家庭との連携について 伊藤 目標：医療や福祉の制度について学び、家庭を中心とした連携を理解する 事前学修：自分が考える理想の連携についてまとめる 形式：講義+グループワーク 第8回 特別支援教育と学校づくり 伊藤 目標：特別支援教育における課題を考え、理想的な学校をつくる 事前学習：現時点において考えられる課題をまとめる 形式：講義+グループワーク	

アクティブ ラーニング	Think-Pair-Share やグループワークを行っていきます。
授業内の ICT 活用	PC を用いたプレゼンテーションを行います。また情報収集に PC を使います
評価方法	小テスト (50%)、レポート (30%)、課題 (20%) レポート、課題はループリックを用いない
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	なし
参考図書	よくわかる特別支援教育[第2版] (湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房) 特別支援教育 (松浪健四郎他 監修 中山書店)
事前・ 事後学修	事前学修：事前に提示した課題を遂行する (30 分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10 分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12 時～13 時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教育課程・方法論
科目責任者	太田 知実
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	本講義では、教育課程の意義、編成の方法や教育の方法・技術について、理解・考察を深めることを目的とする。そもそも教育課程とは何か、学校教育でそれらはどういう意義を有するのかについて、諸理論や歴史的変遷を踏まえながら理解する。とくに、近年重視されるカリキュラム・マネジメントの意味について理解し、それとどう向き合うかについて探究する。さらに、教育の目的に適した指導技術を身につけるべく、教育方法の理論や教材・情報機器の活用方法について理解し、考察を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の歴史を踏まえ、教育課程の編成の目的及び方法を理解する。 2. 学習指導要領やカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、説明できる。 3. 教育方法の基礎的理論と実践を理解し、目的に応じた指導技術を理解し、模擬的に実施することができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：教育課程とは何か① 教育課程をめぐる基本的概念</p> <p>第3回：教育課程とは何か② 教育課程の意義・役割と機能</p> <p>第4回：教育課程とは何か③ 教育課程編成の原理と類型</p> <p>第5回：学習指導要領① 学習指導要領の変遷</p> <p>第6回：学習指導要領② 教科書と学習指導要領</p> <p>第7回：学習指導要領③ 社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第8回：教育方法の理論① 教育目標・評価論</p> <p>第9回：教育方法の理論② 学力論</p> <p>第10回：教育の技術① 教具・教材と授業づくり</p> <p>第11回：教育の技術② アクティブラーニングと情報機器の活用</p> <p>第12回：模擬授業の実施① 学習指導案の作成</p> <p>第13回：模擬授業の実施② 学生による模擬授業-1</p> <p>第14回：模擬授業の実施③ 学生による模擬授業-2</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブラーニング	学生による模擬授業、グループディスカッション、グループワーク
授業内のICT活用	なし
評価方法	各講義内で提出する小レポート 50% 課題提出物（指導案等） 30% 授業態度（模擬授業も含む） 20%
課題に対するフィードバック	毎回、講義のはじめに、前回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、コメントする。
指定図書	授業中に配布するプリントを使用する。
参考図書	佐藤学『教育方法学』岩波書店、2011年。
事前・事後学修	事後学修：授業で扱った内容について、新聞や読書を通じて理解を深める（2～15回） (事後学修の目安 1回につき80分)
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	太田知実（1210研究室）tomomi-ot@seirei.ac.jp 詳細は初回の授業時に提示します
実務経験に関する記述	なし
メディア授業の実施について	なし

科目名	教育相談の理論と方法	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 4 セメスター	
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職	
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。	
科目概要	学校教育場面で児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング（傾聴）技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校（保健室登校）、心身症、いじめ、児童虐待などの問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方（個別及び連携）について事例検討を通して理解を深める。	
到達目標	1. 教育相談の意義、及び、学校教育場面での児童生徒の心理的問題（不登校、保健室登校、心身症、いじめ、児童虐待など）について理解する。 2. 1 の心理的問題に対して養護教諭が行う支援、特に、カウンセリング技法、校内支援体制作り、専門機関との連携の仕方について、ロールプレイや事例検討を通して理解する。	
授業計画	第1回：学校教育における教育相談の意義	長峰伸治
	第2回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法 1 ：傾聴技法の基本	長峰伸治
	第3回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法 2 ：傾聴技法のロールプレイ	長峰伸治
	第4回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法 3 ：カウンセリングの実際	長峰伸治
	第5回：教育相談場面での児童生徒対応のロールプレイ	長峰伸治
	第6回：児童生徒への関わり方についての事例検討	長峰伸治
	第7回：不登校児童生徒の理解と支援 1：心理的要因の理解	長峰伸治
	第8回：不登校児童生徒の理解と支援 2：支援のプロセス	長峰伸治
	第9回：いじめに関する理解とその対応 1：講義	大須賀優子先生
	第10回：いじめに関する理解とその対応 2：演習	大須賀優子先生
	第11回：児童虐待の理解と支援 1：基本的事項の理解	長峰伸治
	第12回：児童虐待の理解と支援 2：学校における支援	長峰伸治
	第13回：模擬事例検討(グループワーク) 1：不登校の事例	長峰伸治
	第14回：模擬事例検討(グループワーク) 2：保健室登校の事例	長峰伸治
	第15回：模擬事例検討(グループワーク) 3：心身症の事例	長峰伸治

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。 ・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など) 40%、事例課題レポート(2回) 30%、最終レポート 30%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、コメントする。 ・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	授業内容を振り返りながら、新たに気づき、理解を深めたことをアクションペーパーに書く。授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に毎回復習を行う。事後課題に取り組む。授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を毎回40分程度行うこと。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治（看護学部）1708研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示する。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで連絡いただけたと、確実に時間をとって対応できる。メールでの相談は随時受け付けている。
実務経験に 関する記述	本科目は臨床心理士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	学校体験活動
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位（15 時間） 選択 3 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(3) 教職
科目の 位置付	(1) と (2) を活用して児童生徒の健康問題に対応できる実践力を身につけている。
科目概要	学校や教員の仕事について知り、学校教員を目指す上での目的意識を高めるために、実際に学校現場に入って、教育活動の補助や児童生徒との関わりなどの体験活動を行う。
到達目標	<p>1. 学校現場に入って教育活動の補助等、教職の実際を体験することによって、学校・教員・児童生徒についての理解を深める。</p> <p>2. 学校での体験活動を通して、自らの学校教員としての適性について考え、教職に進む上での自らの課題や目標を見つける。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>○学校体験活動に関する事前指導（学内）</p> <p>◎聖隸クリストファー中・高等学校にて体験活動（8、9月に実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話(中・高等学校の管理職、養護教諭、生徒指導主任、スクールカウンセラー等) ・一日保健室体験 <p>○学校体験活動の振り返りと事後指導（学内）</p>

アクティブ ラーニング	学校現場において体験活動を行う。
授業内の ICT 活用	体験活動の振り返りの発表では、プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う場合がある。
評価方法	各回の体験活動への取り組み態度、報告・感想 80%、最終レポート（体験活動の振り返り）20%
課題に対する フィード バック	各回の体験活動についての報告に対して、教員がフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の体験活動ごとに報告を記述して、自分なりの振り返りを行う。少なくとも 40 分以上は行う。一通り終えた後、体験活動の振り返りについてのレポートを作成すること（最低 80 分）。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) (研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします) 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	キャリアデザイン (2021年度入学生)	
科目責任者	宮谷 恵	
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP4 教養基礎	
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。	
科目概要	看護専門職の多様なキャリアコースを理解するとともに、看護専門職として活躍するために必要な社会人基礎力を身につける。また、キャリアの考え方を広げながら、社会人基礎力とキャリアデザインとの関連を踏まえ、自身のキャリアデザインを描く。	
到達目標	1. キャリアデザインとは何かについて多様な考え方を理解することができる。 2. 社会人として必要なマナー・コミュニケーション能力・ストレスコーピング方法を理解することができる。 3. 看護専門職としての地域社会への貢献を視野に入れた、自身のキャリアデザインを描くことができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>
	第1回：オリエンテーション、キャリアデザインとは	宮谷 恵、村松 美恵 (小出扶美子)
	第2回：自分を知る	宮谷 恵、村松 美恵 (小出扶美子)
	第3回：社会人として必要なマナーとコミュニケーション力	特別講師 (ハローワーク講師)
	第4回：先輩看護専門職のキャリアデザイン①	特別講師 (病院看護師)
	第5回：先輩看護師のキャリアデザイン②	特別講師 (病院看護師)
	第6・7回：多様なキャリアコース、ストレスマネジメント	宮谷 恵、村松 美恵 (小出扶美子)
	第8回：自身のキャリアデザイン、まとめ	宮谷 恵、村松 美恵 (小出扶美子)

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された事前課題に主体的に取り組み、授業に参加してください。 ・リアクションペーパーの質問や意見には、授業時またはWebClassなどで回答します。 ・第4・5・6・7回はグループワークを行います。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講師の講義でZoomなどの遠隔方式を取り入れます。 ・グループワークにおいて、複数教室間の意見交換などでZoomなどの遠隔方式を一部取り入れます。 ・授業の中でインターネットを用いた情報検索などを行います。
評価方法	<p>評価は、以下の視点で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組み状況・態度 20点 ・リアクションペーパー（第1・2・3・4・5・6—7回：合計6回、5点×6回）30点 ・課題レポート 50点
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーの質問や意見には、授業時またはWebClassなどで回答します。
指定図書	「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック」本学キャリア支援センター作成資料
参考図書	<p>勝原由美子：看護師のキャリア論、ライフサポート社、2007.</p> <p>岩上真珠 他：大学生のためのキャリアデザイン入門、有斐閣、2022.</p> <p>山崎京子 他：未来を拓く キャリアデザイン講座、中央経済社、2022.</p>
事前・ 事後学修	<p>1コマあたりの事前・事後学習時間の目安はそれぞれ20分（計40分）を目安とする。</p> <p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で提示された課題に取り組み授業に参加する。また、各自授業テーマに関連する文献や資料等を探して目を通しておくことも良い。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を振り返り、わからなかつたこと、気になったこと等を調べる。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・聖隸クリストファー大学 キャリア支援センターHP : https://www.seirei.ac.jp/career/ ・日本看護協会 HP : https://www.nurse.or.jp/ ・日本看護系大学協議会 HP : https://www.janpu.or.jp/ ・日本看護協会 ナースストリート https://nurse-st.jp/ ・近くナビ https://chikaku-navi.com/
オフィス アワー	<p>事前にメールでアポイントを取った後に訪室してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮谷 恵 (1713研究室 : megumi-m@seirei.ac.jp) ・村松美恵 (2711研究室 : mie-t@seirei.ac.jp) ・小出扶美子 (2713研究室 : fumiko-k@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で実施する教室においては、補助教員として村松美恵、小出扶美子を配置し、質疑応答等に対応する。

科目名	疫学 (2021年度入学生)
科目責任者	西川 浩昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門基礎
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	集団における健康問題の現状を明らかにするために、問題としている健康問題の発生の程度であるリスクとそのリスクを変化させる要因を探し、両者の因果関係を立証する方法である疫学についてその概念と方法論、実際の場面における適用方法を習得する。具体的には疫学の歴史的背景、調査・研究方法、リスクの算出方法、因果関係立証の条件とその阻害要因、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学修する。
到達目標	人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチの考え方を習得することを目標とする。 1. 疫学の概念について理解する。 2. 疫学的因果関係について理解する。 3. 疫学的研究法について理解する。 4. 疫学指標を算出できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回 ガイダンス・疫学の概念と歴史 第2回 疫学の専門用語 第3回 疫学指標 指標の比較・年齢調整 第4回 疫学的因果論① 因果関係の立証 第5回 疫学研究法① 記述疫学、横断研究、地域相関研究 第6回 疫学研究法② コホート研究 第7回 疫学研究法③ 症例対照研究 第8回 関連の指標① 相対危険・寄与危険 第9回 関連の指標② オッズ比 第10回 疫学的因果論② バイアス・交絡要因 第11回 疫学研究法④ 介入研究、臨床試験 第12回 疫学の実例① 臨床疫学 第13回 疫学の実例② 感染症の疫学、社会疫学 第14回 スクリーニング検査① 原理と方法 第15回 スクリーニング検査② 検査精度の評価

アクティブ ラーニング	WebClass を用いた授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
授業内の ICT 活用	授業資料や関連資料、演習問題の提供など
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし課題の提出状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	内容の解説を口頭や配布資料、WebClass への提示などによって行う。
指定図書	日本疫学会 はじめて学ぶやさしい疫学 改定第3版 南江堂
参考図書	中村好一 基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版 医学書院 2017 柳川 洋 疫学マニュアル 改訂7版 南山堂
事前・事後学修	公衆衛生学についての十分な学力を備えていることが受講の要件です。これについては各自復習(自己学習)してください。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講に当たって望されます。各回の授業に対する事前学修としては、学修内容について教科書・指定図書の該当ページに目を通して予習しておくこと。所用時間の目安は約 30 分です。 事後学修としては、授業時に提示する課題を中心とし、必要に応じて復習してください。事後学修時間の目安は約 60 分です。事前・事後学修では結果や方法を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オープンエ デュケーションの活用	なし
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	成人看護援助論Ⅱ
科目責任者	藤浪 千種
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	手術療法が対象にもたらす身体・心理・社会的影響を理解し、周術期にある対象の予防的な看護や回復を促進する看護を学修する。また、集中治療を受けるクリティカルな状態にある対象や救急処置を受ける患者への看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 手術療法が対象にもたらす身体・心理・社会的影響が説明できる。 周術期にある患者の生命維持、合併症予防、回復促進に必要な看護が説明できる。 周術期にある患者のセルフマネジメントを支援する看護、多職種との連携や地域の資源・システムを活用した継続看護が説明できる。 集中治療を受けるクリティカルな状態にある患者の看護、救急処置を受ける患者に必要な看護が説明できる。
授業計画	<p style="text-align: center;"><授業内容・テーマ等： 担当教員></p> <p>1 オリエンテーション : 藤浪千種 消化器系の手術を受ける患者の看護（大腸がん）：寺田康祐 2 消化器系の手術を受ける患者の看護（胃がん）：寺田康祐 3 消化器系の手術を受ける患者の看護（膵臓がん）：寺田康祐 4 運動器系の手術を受ける患者の看護（股関節・膝関節）： 氏原恵子 5 運動器系の手術を受ける患者の看護（脊椎）： 乾友紀 6 泌尿器系の手術を受ける患者の看護（前立腺がん・膀胱がん）：寺田康祐 7 呼吸器系の手術を受ける患者の看護（肺がん）： 氏原恵子 8 女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（子宮がん）：氏原恵子 9 女性生殖器系の手術を受ける患者の看護（乳がん）：藤浪千種 10 基礎疾患のある患者の周術期看護（循環器系疾患）：乾友紀 11 基礎疾患のある患者の周術期看護（糖尿病）： 氏原恵子 12 集中治療を受ける患者の看護： 桑原美香 13 救急処置を受ける患者の看護： 乾友紀 14 手術を受ける患者の看護 演習①： 藤浪・乾・氏原・寺田 15 手術を受ける患者の看護 演習②： 藤浪・乾・氏原・寺田</p>

アクティブ ラーニング	・本授業では、ICT 機器を用いて、授業内の質問への対応や学生・教員間の情報共有・意見交換を行います。
授業内の ICT 活用	・ICT 機器を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を実施します。
評価方法	以下 2 つの方法で評価しますが必要に応じてレポート課題を課すことがあります。 ①授業参加状況（リアクションペーパー）：15 点 ②定期試験：85 点
課題に対する フィード バック	授業に関する質問・意見には、授業内または Webclass で回答します。
指定図書	1. 末岡 浩 他『成人看護学9 女性生殖器』医学書院（購入済） 2. 矢永 勝彦 他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院（購入済） 3. 大東 貴志 他『成人看護学8 腎・泌尿器』医学書院（購入済） 4. 松田 明子 他『成人看護学5 消化器』医学書院（購入済） 5. 浅野 浩一郎 他『成人看護学2 呼吸器』医学書院（購入済） 6. 織田 弘美 他『成人看護学10 運動器』医学書院（購入済） 7. 黒江 ゆり子他『成人看護学6 内分泌・代謝』医学書院（購入済） 8. 鎌倉 やよい他『周術期の臨床判断を磨く』医学書院（※成人看護援助論演習の指定図書でもある）
参考図書	授業内で適時提示します。
事前・ 事後学修	【事前学修】 ・第 2 回～第 15 回講義の『事前学修課題』を Webclass に掲載します（各授業回 30 分程度）。事前課題に取り組み講義に参加してください。 ・成人看護学概論、成人看護援助論 I 、健康障害論 I ・ II との関連が強い科目です。これら授業の内容を再確認しておきましょう。 【事後学修】 ・授業でわからなかつた事や気になった事は各自で調べ再学修をしておきましょう。 ・配布資料の内容を再確認し理解が不十分な点を再学修してください（各授業回 30 分程度）。 ・各自の課題や興味関心に沿つた学修も主体的に行いましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・各授業の中で説明される看護の基本的知識の復習には、ナーシングスキル等を活用して下さい（ https://www.nursingskills.jp/ 、エルゼビアジャパン）。
オフィス アワー	担当者（藤浪・乾・氏原・寺田）に質問や相談等がある際は、事前に G-mail でアポイントをとってください。 ○藤浪千種 chigusa-f@seirei.ac.jp (1208 研究室) ○氏原恵子 keiko-u@seirei.ac.jp (1210 研究室) ○乾友紀 yuki-i@seirei.ac.jp (1217 研究室) ○寺田康祐 kousuke-t@seirei.ac.jp (1608 研究室)
実務経験に 関する記述	本科目は看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	・2 教室を使用し対面方式と遠隔方式を組み合わせ実施します（7 回がメディア授業となります）。 ・遠隔授業で受講する教室においては、本科目担当者が準教員のいずれかを補助教員として配置し、質疑応答に対応します。また、授業時間中（あるいは終了後）に教員が教室間を移動し、質疑応答に応じます。

科目名	成人看護援助論Ⅲ
科目責任者	兼子 夏奈子
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP2 専門
科目の 位置付	看護の基盤および看護専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得している。
科目概要	慢性疾患を有する人と家族が、セルフマネジメントを行なながらその人らしい生活を送るために援助の基盤となる理論・概念を活用した基本的な看護について学修する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患の症状や治療により起こる日常生活上の変化について理解できる。 ・慢性疾患を有する人と家族へのセルフマネジメントを促進する援助と教育的支援の基本的な考え方と方法について理解できる。 ・慢性疾患を有する人に関わる専門職とチーム医療の重要性について理解できる。
	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>
授業計画	第1回：慢性疾患を有する人と家族の身体、心理、社会的特徴、 看護の役割セルフマネジメント能力を高める看護の基本 兼子夏奈子
	第2回：<増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護> 呼吸器疾患を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際 河野貴大
	第3回：<増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護> 心・血管系障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際 兼子夏奈子
	第4回：<進行性の慢性疾患を有する人と家族への看護> 消化器系疾患を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際 山崎淑恵
	第5回：<増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護> 難病を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際 河野貴大
	第6回：<経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護> 脳血管疾患でリハビリテーションを必要とする人への自己効力感を高める支援 鈴木千佳代 (聖隸浜松病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)
	第7回：<経過の緩慢な慢性疾患を有する人と家族への看護> 内分泌機能障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際 土屋紘子 (聖隸三方原病院 慢性疾患看護専門看護師)
	第8回：<寛解を目指す慢性疾患を有する人と家族への看護> 造血器疾患を有する人と家族のセルフマネジメント支援の実際 山崎淑恵
	第9回：<ターミナル期に至る慢性疾患を有する人と家族への看護> 苦痛緩和が必要な患者と家族への支援の実際 福田かおり (聖隸三方原病院 緩和ケア認定看護師)
	第10回：慢性疾患を有する人への心理的ケアの基本 大山末美
	第11回：<増悪と寛解を繰り返す慢性疾患を有する人と家族への看護> 腎機能障害を有する人と家族へのセルフマネジメント支援の実際
	第12回～第15回の演習説明・学修方法などガイダンス 兼子夏奈子
	第12回～第15回：協働学修 (アクティブラーニング) 慢性看護学教員 課題レポート、ディスカッション
	* レポートは、実習前後の自身のポートフォリオとして活用する。

アクティブ ラーニング	本授業は、小グループでのディスカッション、協働学修および学修成果のプレゼンテーションを取り入れて行います。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> Web Class を利用し、提出物、出席管理をします。 <p>また、感染状況によっては学生同士のグループディスカッションおよびプレゼンテーションを Web 上で行う場合があります。</p>
評価方法	<p>評価方法と割合は、定期試験 70 %、協働学修 15%，課題レポート 10%，リアクションペーパー 5% の合計 100% となります。</p> <p>協働学修、レポートはループリックを用いて評価を行います。</p>
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの回答は Web Class を活用しフィードバックします。
指定図書	鈴木久美他：成人看護学 慢性期看護 南江堂 改定第3版（2年次成人看護援助論Iで購入済）
参考図書	<p>健康障害論 I・II での使用テキスト（購入済み）</p> <p>『成人看護学2 呼吸器』 『成人看護学3 循環器』 『成人看護学4 血液・造血器』 『成人看護学4 内分泌・代謝』 『成人看護学5 消化器』 『成人看護学7 脳・神経』 『成人看護学8 腎・泌尿器』 医学書院 ビジュランクラウド</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 本講義で理解が必要な病態生理などの学修内容を授業前・後に WEBCLASS に提示しますので、回答または提出して下さい。 <p>1講義につき事前事後学修 40 分以上必要です（第1回～第11回）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第12回～第15回目のグループ学修には、各自が決められた役割を果たし効果的に学修するために 60-100 分の学修時間が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により不在の可能性もあるため、事前に単元担当教員に E-mail でご連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 兼子夏奈子：看護学部 1216 研究室：kanako-s@seirei.ac.jp 大山未美： 看護学部 1213 研究室：suemi-o@seirei.ac.jp 河野貴大： 看護学部 1608 研究室：takahiro-k@seirei.ac.jp 山崎淑恵： 看護学部 1216 研究室：yoshie-ya@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	<ul style="list-style-type: none"> 2教室を利用し同時講義を行います。その際、いずれの教室にも教員を配置します。 第12～第15回目のグループ学修は、30名前後の学生に1名程度の教員を配置して実施します。

科目名	成人看護援助論演習
科目責任者	乾 友紀
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	専門基礎領域、看護専門領域における既習学修内容を活かし、看護過程演習を通して、健康障害をもつ成人に関する様々な情報を整理し、情報の解釈・分析・統合により看護上の問題を明確にし、看護問題の優先度を考えた看護計画の立案を学修する。 また、看護技術演習を通して、健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるために必要な看護援助を安全に実施する方法を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程、看護診断に関わる基本的知識を理解できる。 2. 紙上事例から系統的に情報を収集できる。 3. 情報を解釈・分析・統合し、看護上の問題を明確化できる。 4. 看護上の問題を解決するための個別的で具体的な看護計画を立案できる。 5. 健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるための看護技術を医療安全の観点から理解し、説明できる。
授業計画	<p>《紙上事例を用いた看護過程演習》</p> <p>第1回：オリエンテーション、看護過程とは、アセスメントとは（1） 乾友紀</p> <p>第2回：アセスメントとは（2） 乾友紀</p> <p>第3-4回：協働学修（系統的アセスメントと関連図） 成人看護学領域教員</p> <p>第5-6回：協働学修（重点アセスメントと看護問題の確定） 成人看護学領域教員</p> <p>第7回：看護計画の立案と評価 乾友紀</p> <p>第8-9回：協働学修（看護計画の立案） 成人看護学領域教員</p> <p>第10-11回：協働学修（第12回の発表準備） 成人看護学領域教員</p> <p>第12回：協働学修（事例患者における看護過程の教え合い） 成人看護学領域教員</p> <p>《看護技術演習》</p> <p>第13回：ME 機器における基礎と管理 山崎淑恵</p> <p>第14-15回：看護技術演習（ME 機器/与薬の管理） 河野貴大・山崎淑恵・兼子夏奈子・寺田康祐・氏原恵子・乾友紀</p> <p>※協働学修、看護技術演習はグループ別に進行するため、具体的なスケジュールは配布資料を確認して下さい。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第1～12回の紙上事例を用いた看護過程演習は、Inquiry-Based Learning (IBL)、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れて実施します。 ・本授業における協働学修は各自に与えられた課題を十分に学修したうえで参加する必要があります。自分の役割に責任を持って参加してください。
授業内の ICT 活用	協働学修では ICT 機器を利用して授業の発表や意見交換を行う双方向型授業を実施することがあります。具体的な方法は授業でお知らせします。
評価方法	<p>協働学修への参加 15%、ミニテスト 10%、看護過程演習レポート 65%、看護技術演習レポート 10%、計 100%</p> <p>※看護過程演習はループリックにより評価します。ループリックの内容は授業中に提示します。</p> <p>※原則的に全出席とします。遅刻・欠席の場合は講義開始前に乾まで連絡してください。</p>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程レポートは、担当教員が内容を確認し、提出物へのコメント等によりフィードバックします。 ・授業へ寄せられた質問は講義で解説を行うほか、適宜 Webclass やメールを用いて回答します。
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> 三上れつ：第2版実践に役立つ看護過程と看護診断、ヌーベルヒカリ 鎌倉やよい、深田順子：周術期の臨床判断を磨く、医学書院 矢永勝彦他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院（購入済） 南川雅子他：系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[5]消化器、医学書院（購入済） 浅野浩一郎他：系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[2]呼吸器、医学書院（購入済）
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術I 基礎看護学②、医学書院（購入済） 奈良信雄他：系統看護学講座 別巻 臨床検査、医学書院 鈴木久美他：看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 改訂第3版、南江堂（購入済） 阿部俊子、山本則子：改訂版 疾患別看護ケア関連図、中央法規出版 ビジュランクラウド（医学映像教育センター） ナーシングスキル（エルゼビアジャパン）
事前・ 事後学修	<p>臨地看護学実習に向けて非常に重要な科目です。これまでに学修してきた知識、技術が基盤となります。第1～12回の紙上事例を用いた看護過程演習では、事前学修課題を提示します。事例を理解するための知識の学修（4～5時間程度）や2年生で学修した看護過程の復習（2～3時間程度）を、講義の進捗に合わせて計画的に取り組んでください。</p> <p>その他必要な事前課題は適宜アナウンスします。</p> <p>※事前学修、課された課題が不十分な場合は、協働学修・演習に参加できないことがあります。</p> <p>※事後学修として、講義や協働学修で理解が不十分な点の再学修や課題の修正をしてください。</p> <p>※返却された課題レポートのコメントを確認し、自己の課題を明確にしたうえで秋セメスターからの実習に臨みましょう。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>実習で不在にしている場合が多いため、急用でなければメールで事前に連絡をください。グループワーク担当教員への連絡方法については、講義内でお知らせします。</p> <p>科目責任者：乾友紀（1217研究室）、メールアドレス：yuki-i@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	<p>状況に応じて、新型コロナウィルス対策の特例として、講義（1・2・7・13回）では1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業を行います。</p> <p>メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を1名配置し、教育の質を維持します。</p>

科目名	老年看護援助論Ⅱ																															
科目責任者	木村 暢男																															
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	DP4 専門																															
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。																															
科目概要	老年期に特徴的な疾患と、看護方法について学修する。看護過程の展開を通し、疾患や障害を有している高齢者の病態と生活機能の視点から高齢者に必要な看護について学修する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に特徴的な疾患に関する基本的知識が理解できる。 2. 老年期に特徴的な疾患を抱える高齢者とその家族を対象とした看護方法が理解できる。 3. 事例をもとに看護過程を展開し、老年期に必要な看護の特徴を表現できる。 																															
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <table> <tbody> <tr> <td>第 1 回：高齢者に特徴的な疾患 糖尿病</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：高齢者に特徴的な疾患 前立腺肥大、皮膚疾患</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：高齢者に特徴的な疾患 心疾患、肺炎、呼吸不全</td> <td>内藤智義</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：高齢者に特徴的な疾患 認知症、脳血管疾患</td> <td>内藤智義</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：高齢者に特徴的な疾患 骨折（骨粗鬆症を含む）</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護</td> <td>加藤貴子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護</td> <td>内藤智義</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：循環器疾患：心不全・骨折の看護</td> <td>山田紀代美</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護</td> <td>加藤貴子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：認知症の看護</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：認知症の看護</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）</td> <td>木村暢男</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：事例演習 (情報の整理)</td> <td>木村・山田・内藤・加藤</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：事例演習 (課題の明確化)</td> <td>木村・山田・内藤・加藤</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：事例演習 (課題の計画立案)</td> <td>木村・山田・内藤・加藤</td> </tr> </tbody> </table>		第 1 回：高齢者に特徴的な疾患 糖尿病	木村暢男	第 2 回：高齢者に特徴的な疾患 前立腺肥大、皮膚疾患	木村暢男	第 3 回：高齢者に特徴的な疾患 心疾患、肺炎、呼吸不全	内藤智義	第 4 回：高齢者に特徴的な疾患 認知症、脳血管疾患	内藤智義	第 5 回：高齢者に特徴的な疾患 骨折（骨粗鬆症を含む）	山田紀代美	第 6 回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護	加藤貴子	第 7 回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護	内藤智義	第 8 回：循環器疾患：心不全・骨折の看護	山田紀代美	第 9 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護	加藤貴子	第 10 回：認知症の看護	木村暢男	第 11 回：認知症の看護	木村暢男	第 12 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）	木村暢男	第 13 回：事例演習 (情報の整理)	木村・山田・内藤・加藤	第 14 回：事例演習 (課題の明確化)	木村・山田・内藤・加藤	第 15 回：事例演習 (課題の計画立案)	木村・山田・内藤・加藤
第 1 回：高齢者に特徴的な疾患 糖尿病	木村暢男																															
第 2 回：高齢者に特徴的な疾患 前立腺肥大、皮膚疾患	木村暢男																															
第 3 回：高齢者に特徴的な疾患 心疾患、肺炎、呼吸不全	内藤智義																															
第 4 回：高齢者に特徴的な疾患 認知症、脳血管疾患	内藤智義																															
第 5 回：高齢者に特徴的な疾患 骨折（骨粗鬆症を含む）	山田紀代美																															
第 6 回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護	加藤貴子																															
第 7 回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護	内藤智義																															
第 8 回：循環器疾患：心不全・骨折の看護	山田紀代美																															
第 9 回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護	加藤貴子																															
第 10 回：認知症の看護	木村暢男																															
第 11 回：認知症の看護	木村暢男																															
第 12 回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介）	木村暢男																															
第 13 回：事例演習 (情報の整理)	木村・山田・内藤・加藤																															
第 14 回：事例演習 (課題の明確化)	木村・山田・内藤・加藤																															
第 15 回：事例演習 (課題の計画立案)	木村・山田・内藤・加藤																															

アクティブ ラーニング	第13～15回の授業では、事例をもとに、老年看護学実習Ⅱで使用する実習記録を用いて老年看護過程を展開します。事例を通して、高齢者の生活機能をアセスメントし、目標志向型の看護を学生が主体的に考えられるよう教員が関わりながら看護を展開します。
授業内の ICT活用	なし
評価方法	提出物（老年看護過程）10% 定期試験結果90% ループリックでの評価はしない。
課題に対する フィード バック	老年看護過程の授業における演習では、老年看護学領域の教員が巡回しながら学生の主体的な看護計画の立案を確認し、質疑の対応および計画の検討に参加します。
指定図書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
参考図書	「生活機能からみた老年看護過程」医学書院 「ウエルネスの視点にもとづく老年看護過程」医歯薬出版
事前・ 事後学修	事前学修は、授業担当教員が原則授業開始1週間前に提示します。指示された事前学修の予習をしてきてください。(20分程度) 提出物は、授業中に提出してください。授業の内容は、要点をまとめ復習してください。(20分程度)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	オフィスアワーは初回授業で提示します
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	母性看護援助論Ⅱ	
科目責任者	黒野 智子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP4 専門	
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。	
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の母子の異常に陥るメカニズムとその母子および家族に対する看護について学修する。また、母子の正常からの逸脱を予防する具体的な看護の方法や母親および家族の意志決定を支える援助について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の異常と看護援助(正常からの逸脱を予防する援助を含む)について理解できる。 母子の健康が、母親とそのパートナーの『親になること』に与える影響を考察できる。 妊娠婦に関する看護師、助産師、保健師の役割および多職種との連携を含めた看護援助が理解できる。 母性看護援助を系統的に行うために、看護過程を用いた看護の展開方法を理解できる。 母性看護に特有な看護技術を習得し、対象にとって優しいケアとは何か、どのように実践に応用するかを考察できる。 災害時における母子に関する対策について考えることができる 	
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>◆第1回：母性看護援助論Ⅰの振り返りテストおよび母性看護援助論Ⅱオリエンテーション ハイリスク妊娠とは</p> <p>第2回：退院後の生活をイメージする～赤ちゃんのいる生活～（演習①）ゲストスピーカー</p> <p>第3回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護（1） ハイリスク妊娠～妊娠高血圧症候群と関連する合併症の看護～</p> <p>◆第4回：ハイリスク新生児?早産児の特徴? 第5回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護（2） ハイリスク妊娠～早産・多胎と関連する合併症の看護～</p> <p>第6回：分娩期におこる危険な出来事とその看護 第7回：帝王切開の看護</p> <p>第8回：ハイリスク新生児とその家族の看護（1） ～母乳育児支援、Developmental Care、Family centered Care～</p> <p>佳第9回：母子を取り巻く防災対策/実習に向けて ゲストスピーカー・村松美恵・黒野智子</p> <p>第10回：ハイリスク新生児とその家族の看護（2）～早産児の看護の特徴～</p> <p>◆第11回：周産期の異常 ◆第12回：産褥期の異常</p> <p>★第13回：母性看護の技 リラクゼーションの支援（演習②）</p> <p>★第14回：早産児への優しいケア（演習③）</p> <p>★第15回：褥婦のケア（演習④）</p> <p>※具体的な時間割は、第1回目の授業で配布する時間割表を参照して下さい。</p> <p>※◆の印のついている回（1, 4, 11, 12回）は教室間の遠隔授業で講義をします。</p> <p>★の印のついている回（13, 14, 15回）は、3クラスに分かれて、演習をおこないます。</p> <p>他の回（2, 3, 5, 6, 7, 8回）は、2クラスに分かれて講義・演習をおこないます。</p> <p>※講義・演習は状況により日程変更する場合があります。講義前に必ず WebClass で確認して下さい。母性看護援助論Ⅰで配布した“母性看護学 学修ノート”、“事前学習ワークブック”や資料を使用することができますので、忘れずを持参してください。</p>	

アクティブ ラーニング	事前学修を基にグループ・ワークやグループ・ディスカッション、ロールプレイ等を実施した後に、全体での発表等をおこないます。課題学修、演習（2, 13, 14, 15回）や講義では、妊産婦や早産児のケアを実践を通してグループワークをおこないます。
授業内の ICT 活用	第14回：早産児への優しいケアの演習では、早産児シミュレータや360度カメラ、電子黒板を使ってグループで考えた「優しいケア」をリアルタイムで映写し、クラスで共有します。また、教員が作成したDVD、NursingSkills、ビジュラン等を使用します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護援助論Ⅰの振り返りテストおよび定期試験 80% 振り返りテストは講義時間内に紙面にて実施します。 ・課題レポートおよび事前・事後学修（webclass含む） 20% ・不可の場合は1回の再試験をおこないます。 ・課題レポートは、ループリックを用いて評価をおこなうものもあります。
課題に対する フィードバック	事前学修に関しては、講義で説明します。 学生から質問があれば、次回の講義、またはWebClass やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には個別面談で対応します。
指定図書	『系統看護学講座 専門24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論と同じテキストを使用いたします。
参考図書	『病気がみえる vol. 10 産科 第4版』医療情報科学研究所、メディックメディア 『新生児学入門 第5版』仁志田博司、医学書院 自主学習として、下記の動画視聴を勧めます。 『系統看護学講座 専門25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 卷末動画一覧 ナーシング・スキル（日本版） https://www.nursingskills.jp/ ビジュラン https://seirei.visualearn.jp/p/ (使用日時を厳守のこと) その他、NHKハートネットテーマ別情報HP https://www.nhk.or.jp/heart-net/topics/ など ※その他の参考図書については、随時、講義にてお知らせいたします。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修は、WebClass または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。 ・事後学修は、授業の最後またはWebClass でその日の授業内容に関する課題等を出題します。（事前学修は60分程度、事後学修は30～40分程度の時間を要する） ・必ず決められた時刻までに、リアクションペーパーをWebClassに入力してください。 ・WebClassの利用や提出の際には、日時制限がありますので、各自で必ず確認するようにしてください。（WebClassへの掲載や入力は、決められた期間以外にはできません。） ※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護援助論Ⅱのお知らせはWebClassを活用しますので、各自で必ず確認するようしてください。（タイムラインの掲載事項、WebClassからのメールは必ず確認すること。）
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部 1709 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽にe-mail等で連絡ください。 黒野 智子（tomoko-k@seirei.ac.jp）、神崎江利子（eriko-k@seirei.ac.jp）、 村松 美恵（mie-t@seirei.ac.jp）、室加 千佳（chika-mu@seirei.ac.jp）
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	オリエンテーション、非常勤講師の講義、確認テストの実施日（授業計画で◆の印がついているコマ）は2教室遠隔授業を開催予定で、各部屋に教員を配置して質問に答る等行ないます。

科目名	小児看護援助論Ⅱ
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP4 専門
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	小児の発達段階と健康レベルをふまえ、健康障害および発達障害をもつ小児および家族への看護援助を理解し、基本的な技術と態度を学ぶ。小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰで学習した知識、技術を、事例展開や演習を活用して実践し、小児と家族へのより適切な援助や養護の重要性の理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期におこりやすい健康障害をもつ小児とその家族への看護の方法が理解できる。 2. 健康障害および発達障害が小児とその家族に及ぼす影響が理解できる。 3. 小児看護を実践するために、基本的な看護過程及び特有な看護技術が理解できる。 4. 他領域も含め学んできた知識を用いて、健康障害および発達障害をもつ小児とその家族の特性を考慮した看護援助について考察することができる。
授業計画	<p>第1回：腎臓に障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第2回：循環器に障害をもつ子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第3回：悪性新生物の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第4回：心身障害をもつ子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第5回：障害をもち在宅生活する子どもと家族の看護 宮谷 恵</p> <p>第6回：周手術期の子どもと家族の看護 小出扶美子</p> <p>第7回：検査・処置を受ける子どもの看護① 小出扶美子 (検査・処置を受ける子どもと家族の体験と援助)</p> <p>第8回：検査・処置を受ける子どもの看護② 小出扶美子 (採血、与薬、輸液方法等の検査・処置について)</p> <p>第9回：小児の看護過程①(看護過程の基本と看護診断) 市江和子</p> <p>第10回：小児の看護過程② 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：健康障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第11回：小児の看護過程③ 市江和子 (事例を用いた看護過程の展開の実際：障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第12回：子どものフィジカル・アセスメント① 山本智子 (総論、一般状態、頭部・頸部、胸部・背部、リンパ系、皮膚等)</p> <p>第13回：子どものフィジカル・アセスメント② 山本智子 (腹部、四肢、臀部等、心臓・血管系、筋・骨格系、神経系)</p> <p>第14回：小児看護技術演習①(オリエンテーション) 宮谷 恵</p> <p>第15回：小児看護技術演習②(実技演習) 宮谷 恵、市江和子、小出扶美子、山本智子</p>

アクティブラーニング	第15回目に小児モデル人形・バイタルサインシミュレーターを用いた実技演習を行う。また授業ごとにリアクションペーパーでの質問・意見には授業時や個別メール、WebClassで返答する。
授業内のICT活用	授業ごとのリアクションペーパーはWeb Classを活用する。
評価方法	筆記試験 95%、実技演習のループリック評価5%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	自己学修ノート(ワークシート)への回答は、授業時に提示する。
指定図書	市江和子編:『小児看護学』、オーム社、2017 奈良間美保編:『系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論』、医学書院(e-テキストの方を選択してもよい)
参考図書	必要時に提示する。
事前・事後学修	事前学習としては、その日の授業内容(テーマ)をあらかじめ確認し、小児看護学関連だけでなく他の授業科目の内容でも、すでに学習している関連事項について復習しておいて下さい。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、自己学修ノート(ワークシート)が提示される場合はそれを行い、学びを定着させて下さい。1コマあたりの時間の目安は事前学習20分、事後学習20分です。
オープンエデュケーションの活用	講義の理解に役立つ動画やインターネット上のサイトは講義時に紹介、またはWebClassに掲載します。
オフィスアワー	宮谷 恵:月曜日午後(1713研究室) megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子:月曜日午後(2713研究室) fumiko-k@seirei.ac.jp 市江和子:金曜日午前(1712研究室) kazuko-i@seirei.ac.jp 山本智子:月曜日午後(1218研究室) tomoko-y@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	新型コロナウィルス対策の特例として座席間隔を保つため2教室での授業を行う。 1教室で対面授業を行い、もう1教室は同時双方向型メディア授業を実施する。履修者を2グループに分けて、履修者は対面授業を7回、メディア授業7回受講することとなる。 メディア授業を受講する教室には、受講環境維持、質疑応答時の取次などのため、教職員を1名配置し、教育の質を維持する。

科目名	精神看護援助論Ⅱ																															
科目責任者	清水 隆裕																															
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	DP4 専門																															
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。																															
科目概要	ライフサイクル各期における精神保健の課題について精神保健上の意味を再検討し、さらに地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識と方法を学修する。さらに、精神看護の看護過程を展開する際に必要な知識と方法について整理し、理解を深める。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療の歴史および関連法規が説明でき、臨床の場での活用方法を学ぶ。 2. ライフサイクル各期における精神保健の課題が説明でき、対象の課題を理解できる。 3. 地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識を理解し、説明できる。 4. 精神疾患により入院治療中の対象者を理解し、看護過程の展開方法を説明できる。 																															
授業内容・テーマ等	<p><授業内容・テーマ等></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回：精神看護学概論・援助論Ⅰの振り返りと援助論Ⅱの位置づけ</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校）</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第3回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者）</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第4回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺、認知症）</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第5回：精神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第6回：精神看護における倫理と関連法規の復習（行動制限）</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第7回：精神看護の要点</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第8回：精神看護における看護診断と看護計画</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第9回：精神看護におけるアセスメント技法</td> <td><入江 拓></td> </tr> <tr> <td>第10回：精神看護における全人的理解のための試み</td> <td><入江 拓></td> </tr> <tr> <td>第11回：精神看護実習における情報の整理と活用</td> <td><松本有希></td> </tr> <tr> <td>第12回：薬物療法①（薬理作用等の復習）</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第13回：薬物療法②（精神看護と薬物療法）</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第14回：精神看護における地域精神保健活動と地域移行支援</td> <td><清水隆裕></td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td><清水隆裕></td> </tr> </tbody> </table>		第1回：精神看護学概論・援助論Ⅰの振り返りと援助論Ⅱの位置づけ	<清水隆裕>	第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校）	<清水隆裕>	第3回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者）	<清水隆裕>	第4回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺、認知症）	<清水隆裕>	第5回：精神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷	<清水隆裕>	第6回：精神看護における倫理と関連法規の復習（行動制限）	<清水隆裕>	第7回：精神看護の要点	<清水隆裕>	第8回：精神看護における看護診断と看護計画	<清水隆裕>	第9回：精神看護におけるアセスメント技法	<入江 拓>	第10回：精神看護における全人的理解のための試み	<入江 拓>	第11回：精神看護実習における情報の整理と活用	<松本有希>	第12回：薬物療法①（薬理作用等の復習）	<清水隆裕>	第13回：薬物療法②（精神看護と薬物療法）	<清水隆裕>	第14回：精神看護における地域精神保健活動と地域移行支援	<清水隆裕>	第15回：まとめ	<清水隆裕>
第1回：精神看護学概論・援助論Ⅰの振り返りと援助論Ⅱの位置づけ	<清水隆裕>																															
第2回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校）	<清水隆裕>																															
第3回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・中年・高齢者）	<清水隆裕>																															
第4回：ライフサイクルを通しての課題（依存、自殺、認知症）	<清水隆裕>																															
第5回：精神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷	<清水隆裕>																															
第6回：精神看護における倫理と関連法規の復習（行動制限）	<清水隆裕>																															
第7回：精神看護の要点	<清水隆裕>																															
第8回：精神看護における看護診断と看護計画	<清水隆裕>																															
第9回：精神看護におけるアセスメント技法	<入江 拓>																															
第10回：精神看護における全人的理解のための試み	<入江 拓>																															
第11回：精神看護実習における情報の整理と活用	<松本有希>																															
第12回：薬物療法①（薬理作用等の復習）	<清水隆裕>																															
第13回：薬物療法②（精神看護と薬物療法）	<清水隆裕>																															
第14回：精神看護における地域精神保健活動と地域移行支援	<清水隆裕>																															
第15回：まとめ	<清水隆裕>																															

アクティブ ラーニング	地域精神保健活動における課題、グループワークで課題をまとめ発表します。学生と質疑応答しながら講義を進めるため、事前学習・事後学習の課題を出します。
授業内の ICT 活用	地域精神保健活動における課題では ICT を使います。事前に必要な ICT を伝えます。
評価方法	定期試験 95%・小テスト 5%を基本としますが、授業時の演習への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価します。 ループリックは用いません。
課題に対する フィード バック	演習及び課題レポートについては、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	川野雅資編「精神看護学 I 精神保健学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 川野雅資編「精神看護学II 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 「精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために-」(改定第4版) 上島国利・立山萬里・三村將・南江堂 (2017)
参考図書	中井久夫・山口直彦 「看護のための精神医学」医学書院 第2版 (2004) 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版
事前・ 事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は40分程度です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	活用しません。
オフィス アワー	清水隆裕は看護学部の所属 (1214 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp) です。質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取り、おいでください。
実務経験に 関する記述	本科目は精神科看護師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	在宅看護援助論																															
科目責任者	小池 武嗣																															
単位数他	2 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	DP4 専門																															
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。																															
科目概要	在宅という生活の場において実践される在宅看護の特性を理解するために、在宅看護の知識および具体的な訪問看護技術を学び、事例演習を通して在宅看護過程の展開を理解する。在宅看護の対象である、療養者と家族のセルフケア機能が発揮される看護援助のあり方を学修する。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の展開方法を学び、生活の場ならではの視点を理解し、説明することができる。 2. 生活の場における看護実践の特性と、訪問看護技術を理解し、説明することができる。 3. 療養者・家族の健康段階に合わせた看護職の支援のあり方と役割について理解し説明できる。 4. 終末期にある療養者と看取る家族の体験を理解し、看護援助方法について説明できる。 5. 事例演習を通して、根拠に基づいた在宅看護過程の展開を理解し、その学びを説明できる。 																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回 在宅看護過程の展開①展開方法②ポイント③展開の時期別の特徴</td> <td>小池 武嗣</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 在宅におけるリスクマネジメント 感染管理・災害対策</td> <td>酒井 昌子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 慢性疾患を抱える在宅療養者と家族におけるセルフケア支援</td> <td>岩瀬 美保</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 地域で生活する高齢者と家族の看護 認知症高齢者</td> <td>小池 武嗣</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 生活を支える技術と医療的ケア 療養者と家族が管理するという視点</td> <td>小池 武嗣</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 在宅における小児看護の実際</td> <td>宮谷 恵</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 在宅におけるエンドオブライフケア</td> <td>酒井 昌子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 在宅における難病療養者と家族の看護</td> <td>山村 江美子</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 在宅療養移行に向けた継続看護としての退院支援</td> <td>聖隸三方原病院 大木純子</td> </tr> <tr> <td>第 10 回 在宅における終末期看護の実際 訪問看護師の役割</td> <td>訪問看護 ST 杉山 訪問看護師</td> </tr> <tr> <td>第 11 回 ◆事例演習オリエンテーション</td> <td>小池 武嗣</td> </tr> <tr> <td>第 12 回 ◆事例演習①</td> <td>小池・山村・岩瀬</td> </tr> <tr> <td>第 13 回 ◆事例演習②</td> <td>小池・山村・岩瀬</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 ◆事例演習③</td> <td>小池・山村・岩瀬</td> </tr> <tr> <td>第 15 回 事例演習講評 在宅看護過程展開のまとめ</td> <td>小池 武嗣</td> </tr> </table>		第 1 回 在宅看護過程の展開①展開方法②ポイント③展開の時期別の特徴	小池 武嗣	第 2 回 在宅におけるリスクマネジメント 感染管理・災害対策	酒井 昌子	第 3 回 慢性疾患を抱える在宅療養者と家族におけるセルフケア支援	岩瀬 美保	第 4 回 地域で生活する高齢者と家族の看護 認知症高齢者	小池 武嗣	第 5 回 生活を支える技術と医療的ケア 療養者と家族が管理するという視点	小池 武嗣	第 6 回 在宅における小児看護の実際	宮谷 恵	第 7 回 在宅におけるエンドオブライフケア	酒井 昌子	第 8 回 在宅における難病療養者と家族の看護	山村 江美子	第 9 回 在宅療養移行に向けた継続看護としての退院支援	聖隸三方原病院 大木純子	第 10 回 在宅における終末期看護の実際 訪問看護師の役割	訪問看護 ST 杉山 訪問看護師	第 11 回 ◆事例演習オリエンテーション	小池 武嗣	第 12 回 ◆事例演習①	小池・山村・岩瀬	第 13 回 ◆事例演習②	小池・山村・岩瀬	第 14 回 ◆事例演習③	小池・山村・岩瀬	第 15 回 事例演習講評 在宅看護過程展開のまとめ	小池 武嗣
第 1 回 在宅看護過程の展開①展開方法②ポイント③展開の時期別の特徴	小池 武嗣																															
第 2 回 在宅におけるリスクマネジメント 感染管理・災害対策	酒井 昌子																															
第 3 回 慢性疾患を抱える在宅療養者と家族におけるセルフケア支援	岩瀬 美保																															
第 4 回 地域で生活する高齢者と家族の看護 認知症高齢者	小池 武嗣																															
第 5 回 生活を支える技術と医療的ケア 療養者と家族が管理するという視点	小池 武嗣																															
第 6 回 在宅における小児看護の実際	宮谷 恵																															
第 7 回 在宅におけるエンドオブライフケア	酒井 昌子																															
第 8 回 在宅における難病療養者と家族の看護	山村 江美子																															
第 9 回 在宅療養移行に向けた継続看護としての退院支援	聖隸三方原病院 大木純子																															
第 10 回 在宅における終末期看護の実際 訪問看護師の役割	訪問看護 ST 杉山 訪問看護師																															
第 11 回 ◆事例演習オリエンテーション	小池 武嗣																															
第 12 回 ◆事例演習①	小池・山村・岩瀬																															
第 13 回 ◆事例演習②	小池・山村・岩瀬																															
第 14 回 ◆事例演習③	小池・山村・岩瀬																															
第 15 回 事例演習講評 在宅看護過程展開のまとめ	小池 武嗣																															

アクティブ ラーニング	第11回～第14回は、事例による看護過程の展開を行います。個人ワークを主体として実施しますが、ノートパソコンの持ち込みを許可し、事例において探索が必要なことは、その場で調べるという取り組みを行います。ジェノグラムの作成、事例のアセスメント、関連図作成、看護計画の作成を行いますが、内容について他学生とのディスカッションも実施します。
授業内の ICT 活用	リアクションペーパー、課題レポート、演習報告レポートの提出は、Web Class を使用して行います。講義終了後的小テストも、Web Class を使用します。事例演習では、ノートパソコン、スマートフォンを授業時間内に使用することを認めます。
評価方法	◆演習最終課題レポート 50% ◆演習時の報告レポート 20% ◆リアクションペーパー20% ◆小テスト 10% 事例演習のレポートの評価は、ループリックを用いて評価を行います。 ループリックの内容は、演習開始時提示します。
課題に対する フィード バック	事前事後学修およびリアクションペーパーにおいて、対応が必要な内容へのフィードバックについては、次回の講義の中で説明します。事例演習については、教員が学修を支援しますので、その場で質問をしてください。
指定図書	河原加代子著者代表 (2022). 系統看護学講座、専門分野、地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2、医学書院
参考図書	授業中に随時提示します。
事前・ 事後学修	講義後に webClass 内の事後学修（小テスト）に取り組んでください。 第12回～第14回は、WebClass 内の事前学修に取り組みましょう。 (事前・事後学修 40 分程度になります)。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	講義・事例演習終了後の休憩時間に研究室で待機します。その後は実習指導のため実習施設へ移動するが多くあります。メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 小池武嗣 (1607 研究室) : takeshi-k@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業を基本とします。遠隔授業で受講する教室においては、科目責任者が待機し、質疑応答等も対応します。授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑に応じます。

科目名	看護倫理
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP6 専門
科目の 位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	生命倫理、看護倫理の歴史と主要な概念を学習し、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。看護実践で直面する倫理的ジレンマに対する倫理意思決定の方法を学び、専門職としての倫理規定について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理および生命倫理について説明できる。 2. 看護実践に関わる倫理原則、概念を説明できる。 3. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。 4. 受精から終末期における看護に関わる倫理的課題を説明できる。 5. 実習での経験を振り返り自らの専門性における倫理的責務を説明できる。
授業計画	<p>第1回 看護倫理と倫理の基本原則 大石 ふみ子</p> <p>看護倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護と倫理 ・看護専門職と職業倫理 (日本看護協会倫理綱領) <p>生命倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理の研究領域 <p>倫理上の基本原則／看護における倫理的問題・ジレンマ</p> <p>第2回 倫理的意思決定のプロセス 大石 ふみ子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)倫理的判断のよりどころ 2)倫理的意思決定のプロセス 3)看護師の倫理的責務 <p>第3回 患者の権利と倫理に関する基本概念 (用語) 大石 ふみ子</p> <p><第4回～第8回 各論></p> <p>第4回 母性看護における倫理的課題 藤本 栄子</p> <p>第5回 小児看護における倫理的課題 市江 和子</p> <p>第6回 精神看護における倫理的課題 入江 拓</p> <p>第7回 在宅看護における倫理的課題 酒井 昌子</p> <p>第8回 成人看護における倫理的課題 大石 ふみ子</p>

アクティブラーニング	事例の活用、授業内での演習、webclass 等による事前学修課題の提示と授業内でのフィードバックを行い、専門職としての責務と実習での内省を促していく。
授業内のICT活用	課題提出に使用
評価方法	第4回～第8回のリアクションペーパーやレポート：50% 最終課題レポート：50%（第1～3回の内容を受けて作成） レポートで評価するが、ループリックは用いない。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーや毎回のレポートで対応が必要なコメントや質問については、webclass を用いて回答し、共有する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	授業前課題：webclass または前回授業の最後に、次回授業までの課題を提示する（事前学修40分 2～8回）。 授業後課題：各講義後に提示される課題に回答／レポート提出をする（各40分×5回） 最終学年の授業のため、領域別の各看護実習や統合実習などで体験した事例を事前に復習して参加する。また、授業終了時のレポートにおいて看護倫理について考えを深めて提出する。
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。オムニバスで講義を担当する教員については、講義後に質問の時間を設けることを基本とします。 大石ふみ子(1219研究室:fumiko-o@seirei.ac.jp)、水曜日 12:00～13:00 藤本 栄子(1714研究室:eiko-f@seirei.ac.jp) 入江 拓(3403研究室:taku-i@seirei.ac.jp) 市江 和子(1712研究室:kazuko-i@seirei.ac.jp) 酒井 昌子(3410研究室:tadashi-s@seirei.ac.jp)
実務経験に関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	2教室間での遠隔授業を基本とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員を配置し、質疑応答等に対応する。また、授業時間に教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	看護管理論 I
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP6 専門
科目の 位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	看護の対象となる人々に最も有効で良質な看護を提供するための「しくみ」について学び、その内容や方法についての理解を深める。組織における看護の機能と看護活動のあり方や、看護の質管理および改善への取り組みを学修し、自律し協働できる看護マネジメントスキルを備えた看護職者としての基礎を培うことを目的とする。看護管理学の知識体系である看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメント、看護組織と管理、人的資源管理における基礎的な知識や考え方を学修する。看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識を考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理学に含まれる要素についての概略を理解する。 2. 看護のマネジメントが必要とされる場について理解する。 3. 看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて理解する。 4. 看護業務の実践のために必要なマネジメントについて理解する。 5. 看護サービスのマネジメントの対象と範囲について、マネジメントサイクルと関連して理解する。 6. 看護組織と管理の基礎について理解する。 7. リーダーシップ・メンバーシップについて理解する 8. 人的資源管理の基礎について理解する。 9. 看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識について述べることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回： 看護管理を学ぶとは、看護とマネジメント</p> <p>第 2 回： 看護ケアのマネジメント、看護業務のマネジメント</p> <p>第 3 回： 看護組織と管理</p> <p>第 4 回： 看護サービスのマネジメント、看護管理プロセス</p> <p>第 5 回： リーダーシップ・メンバーシップ <権原理惠></p> <p>第 6 回： 人的資源管理</p> <p>第 7 回： アウトカムマネジメント、これからの時代の看護管理</p> <p>第 8 回： フォーラム 「看護サービスのマネジメントにおける看護学生の課題認識」</p> <p><担当教員名></p>

アクティブラーニング	グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に、リアクションペーパーとして、授業への質問・意見・感想をWebclassに登録する。
授業内のICT活用	Webclassによる小テストの実施、リアクションペーパーの登録、最終レポートの登録
評価方法	授業への取り組み24%、小テスト21%、最終レポート55%
課題に対するフィードバック	1. 最終レポートのコメントはwebclassに登録 2. リアクションペーパーのフィードバックは、次回の講義開始時に行う。
指定図書	手島恵、藤本幸三 編集：看護管理学 改訂第3版 南江堂, 2023. (2023年2月刊行予定)
参考図書	上泉和子他：系統看護学講座 専門 看護の統合と実践1 看護管理 第10版 医学書院 2018
事前・事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	鶴田恵子：看護学部、1617研究室（授業開講日の12:00から12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	看護管理論Ⅱ
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP6 専門
科目の 位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	看護管理学の科学的かつ実践的な知識を深め、看護単位の運営に関する諸原則を学び、質の高い看護実践を可能にするための看護サービス管理のしくみを構築する方策について学修する。臨地実習で体験した看護サービス管理上の現象について分析を行い、看護単位における看護管理プロセスの思考方法を枠組みとして改善策の立案について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護単位の運営に関する諸原則を理解する。 2. 質の高い看護の提供に関わる要因を理解する。 3. 看護サービス管理上の現象を分析する。 4. 看護単位における改善策を考案する。 5. 組織変革について理解する。
授業計画	<p>第 1 回 : 看護サービス管理の基礎</p> <p>第 2 回 : 看護管理プロセス</p> <p>第 3 回 : 看護の質マネジメント</p> <p>第 4 回 : 働きやすい職場環境づくり</p> <p>第 5 回 : 看護サービス管理における現象の分析 (グループワーク)</p> <p>第 6 回 : 看護単位における改善策の考案 (グループワーク)</p> <p>第 7 回 : 改善策の発表</p> <p>第 8 回 : 組織変革</p>

アクティブラーニング	グループワーク：授業中に10分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。 第5～7回はグループワークと発表、討議
授業内のICT活用	Webclassによるリアクションペーパーの登録、最終レポートの登録
評価方法	授業への取り組み24%、課題発表24%、課題レポート52%
課題に対するフィードバック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	手島恵、藤本幸三 編集：看護学テキストNICE 看護管理学 改訂第2版、南江堂、2022.
参考図書	上泉和子他：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 第10版 医学書院 2018
事前・事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オープンエデュケーションの活用	なし
オフィスアワー	鶴田恵子：看護学部、1617研究室（授業開講日の12:00～12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	災害看護論
科目責任者	大石 ふみ子
単位数他	1 単位 (15 時間) 必修 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP6 専門
科目の 位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	災害看護とは、災害が人々のいのち・健康と生活に及ぼす影響を可能な限り少なくする看護活動である。具体的には平常時の減災・予防活動、発災時の緊急対応、さらに発災後の復旧復興における中・長期活動等である。高齢化社会の今、各々の「時間軸」および「場」における看護活動は益々、期待されている。授業では看護活動の特性に焦点をあて、災害看護の基礎知識と技術および多職種との連携・協働について具体的に理解し学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の歴史的変遷および災害・災害看護の定義を理解し、災害の種類による健康問題の特性を理解できる。 2. 災害各期（準備期・発災時・発災後急性期・復旧復興・長期）における看護活動について理解できる。 3. 災害時における「場」における看護の特徴、避難所・救護所・仮設住宅等での看護活動や要配慮者に対する支援について理解できる。 4. 災害時における被災者および救援者の心身の反応を理解し、健康管理およびケアを深める。 5. 災害対応に関する法的側面および行政の役割について理解できる。 6. 災害時における地域の対応のシステム・要配慮者の理解と対応の実際を理解できる。
授業計画	<p>科目担当教員 大石ふみ子、小池武嗣、早川ゆかり、有村優範、臼井千津</p> <p>第1回：オリエンテーション・災害看護概論・災害の歴史的概観 大石 災害・災害看護の定義・災害看護の特性・災害の種類と健康問題・対応システム</p> <p>第2回：災害各期（準備期・発災時・急性期・慢性期・中・長期的）における活動 臼井</p> <p>第3回：災害時における「場」における看護の特徴：現場・救護所・病院・避難所・福祉避難所・施設他 臼井</p> <p>第4～5回：災害時の緊急支援活動／災害時に必要な基本的看護技術 一次救命措置 (BLS トリアージ等) 救護所開設機上訓練 (HUG) /減災・災害への備え 小池・早川・有村・大石 (臼井)</p> <p>第6回：災害医療に関する国の政策と法律・活動根拠・国・都道府県町村の取り組みと 大石 現行の課題</p> <p>第7回：災害時における看護職（保健師・看護師・助産師等）の取り組み 大石</p> <p>第8回：災害時における被災者および救援者の心身の反応の理解と健康管理の実際 大石 予防から以後のケア/災害看護 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	事前・事後学習及び授業の教材として、メディカ AR コンテンツの動画視聴をおこない、ディスカッションをおこなう。指定図書の学習を主体的に行う。動画視聴により、災害看護の実践場面をイメージし、テキストにある知識との繋がりを修得する。
授業内の ICT 活用	レポート課題の提出及び授業内容等に応じた確認テストはWebclass を用いて行う。 神奈川県の作成した「映像で災害を体験しよう（津波編、火山編、水害編）の視聴 https://www.pref.kanagawa.jp/docs/j8g/saigai_movie.html を行い、災害時における災害看護の役割や課題、自ら学ぶ意義を理解する。
評価方法	レポート課題：80% 確認テスト（Webclass を用いた CBT テスト）：20%で評価する ※事前・事後課題の未提出は総合点から減点します。
課題に対する フィード バック	事前学習課題については、課題提出週の授業内に解説する。
指定図書	酒井明子 長田恵子 三澤寿美(編) ,看護の統合と実践(3) 災害看護 第5版 メディカ出版 2022年
参考図書	授業時適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学習 授業内容と密接に関連する項目について、授業進度に応じて学習してきてください。 ①災害に関係する法律 ②災害サイクルとは ③CSCATTT について ④災害時要配慮者について ⑤救護所・避難所・福祉避難所について ⑥ASD・PTSD・サバイバーズギルトについて ⑦災害に関連する感染症について ⑧災害時の多職種連携について 事後学習 授業終了時に、授業内容に応じた確認用のチェック問題（Webclass 等）を提示する。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医学中央雑誌 Web
オフィス アワー	授業終了後、臼井講師は非常勤講師控室にて 30 分待機しています。可能な限り、あらかじめメールにて面談の予約をお願いします。（usui-kobe-1951@docomo.ne.jp） 大石：fumiko-o@seirei.ac.jp 小池：takeshi-k@seirei.ac.jp 早川：yukari-h@seirei.ac.jp 有村：masanori-a@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師及び看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	2 教室間での遠隔授業とする。遠隔授業で受講する教室においては、補助教員として科目担当教員（ICT 補助教員伊藤先生）を配置し、直接質疑応答に対応する。また、授業時間に科目担当教員が教室間を移動し、直接質疑応答に応じる。

科目名	看護研究 I																																		
科目責任者	樺原 理恵																																		
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター																																		
DP 番号と 科目領域	DP4 専門																																		
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。																																		
科目概要	必要な文献や情報を検索し、関心のあるテーマに関する看護研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を育成する。調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法を理解するとともに、研究過程の概要を理解する。また、看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方、自分の設定した研究に適した研究方法について学修する。																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法を理解する。 2. 文献整理の方法を理解する。 3. 研究過程の概要（研究課題の明確化、研究計画の立案、データの収集・分析）理解する。 4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を理解する。 5. 自分の設定した研究に適した研究方法を理解する。 																																		
授業計画	<p style="text-align: center;">担当：樺原理恵、佐久間佐織、清水隆裕</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: left; padding-bottom: 5px;"><授業内容・テーマ等></th> <th style="width: 50%; text-align: right; padding-bottom: 5px;"><担当教員名></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第1回：看護における研究</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第2回：リサーチクエスチョンから研究課題へ</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第3回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding-top: 5px;">課題：図書館を探検する *数グループに分かれる</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第4回：研究論文の読み方</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第5回：医学中央雑誌による文献検索</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center; padding-top: 5px;">研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第6回：看護研究における倫理</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">佐久間</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第7回：研究デザイン</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第8回：量的研究デザイン</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第9回：質的研究デザイン</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">清水</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第10回：文献の整理 —文献クリティイク</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第11回：テーマを決めて研究論文を探す グループワーク</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第12回：クリティイクした文献をまとめる グループワーク</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第13・14回：クリティイクした研究論文を発表する</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> <tr> <td style="padding-bottom: 2px;">第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法</td> <td style="text-align: right; padding-bottom: 2px;">樺原、佐久間、清水</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">*詳細は第1回目に伝えます</p>	<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>	第1回：看護における研究	樺原、佐久間、清水	第2回：リサーチクエスチョンから研究課題へ	樺原	第3回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方	樺原、佐久間、清水	課題：図書館を探検する *数グループに分かれる		第4回：研究論文の読み方	樺原	第5回：医学中央雑誌による文献検索	樺原、佐久間、清水	研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す		第6回：看護研究における倫理	佐久間	第7回：研究デザイン	樺原	第8回：量的研究デザイン	樺原	第9回：質的研究デザイン	清水	第10回：文献の整理 —文献クリティイク	樺原	第11回：テーマを決めて研究論文を探す グループワーク	樺原、佐久間、清水	第12回：クリティイクした文献をまとめる グループワーク	樺原、佐久間、清水	第13・14回：クリティイクした研究論文を発表する	樺原、佐久間、清水	第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法	樺原、佐久間、清水
<授業内容・テーマ等>	<担当教員名>																																		
第1回：看護における研究	樺原、佐久間、清水																																		
第2回：リサーチクエスチョンから研究課題へ	樺原																																		
第3回：学術誌に触れる 文献・情報の探し方	樺原、佐久間、清水																																		
課題：図書館を探検する *数グループに分かれる																																			
第4回：研究論文の読み方	樺原																																		
第5回：医学中央雑誌による文献検索	樺原、佐久間、清水																																		
研究課題（仮）：調べたいテーマを決めて文献を探す																																			
第6回：看護研究における倫理	佐久間																																		
第7回：研究デザイン	樺原																																		
第8回：量的研究デザイン	樺原																																		
第9回：質的研究デザイン	清水																																		
第10回：文献の整理 —文献クリティイク	樺原																																		
第11回：テーマを決めて研究論文を探す グループワーク	樺原、佐久間、清水																																		
第12回：クリティイクした文献をまとめる グループワーク	樺原、佐久間、清水																																		
第13・14回：クリティイクした研究論文を発表する	樺原、佐久間、清水																																		
第15回：研究計画書の書き方、研究成果の発表方法	樺原、佐久間、清水																																		

アクティブ ラーニング	図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う。自分のテーマに合致する文献についてグループワークを行い、グループで成果を発表する。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	グループワークの発表は ppt を使用します 授業内で医学中央雑誌 Web サイトを活用します
評価方法	授業中の提出物 40%、グループワークへの参加度 10%、課題レポート 50%、 提出物、課題レポートで評価するがループリックは用いない。
課題に対する フィード バック	授業中の提出物について、次回の授業中に全体へのフィードバックを行う。
指定図書	坂下 玲子／宮芝 智子／小野 博史 (2021). 系統看護学講座 別巻、看護研究、医学書院
参考図書	南裕子、野嶋佐由美編(2017). 看護における研究 第2版、日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでください。授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	医中誌 web
オフィス アワー	樫原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp 佐久間佐織：1618 研究室 saori-s@seirei.ac.jp 清水隆裕：1214 研究室 takahiro-sh@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	看護研究Ⅱ
科目責任者	
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7・8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP4 専門
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を用いて広い視野で議論し考察する能力を身につける。 ・選択した看護学領域において、これまでの学修のなかで関心をもった事象について、先行研究や関連文献を幅広く検討する中で研究課題を明確にし、現実的・具体的な研究計画書を作成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心を持った事象について、系統的に文献を探すことができる。 2. 関心を持った事象について、先行研究や関連文献を整理し、研究課題を明らかにすることができる。 3. 研究課題を明らかにするための研究計画書（部分的でも可）を作成できる。 4. 自ら関心を持った事象に関する主体的な学修（指導教員の研究活動や学会への参加など）ができる。
授業計画	<p>選択領域の指導教員とスケジュール調整しながら主体的に学修を進める。</p> <p>4~7 月 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員からのオリエンテーション（指導教員別の場所・方法・時間で行う） ・これまで学習した看護学のなかで関心をもった事柄について、研究課題を明確化する。 ・必要時、関心のある対象やフィールドに関する情報収集、および研究課題に関する基礎的な学習を行う。 <p>7~11 月 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関連した先行研究や関連文献を幅広く検索して文献検討を行い、研究課題の明確化のプロセスや研究の意義を記述することができる。 <p>11 月 6 日（月）:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書（またはそれに準ずるレポート）の提出 ※提出先は担当教員、締め切りは 17 時とする。 <p>その他 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の研究活動や学会、研究会への参加などを適時行う。

アクティブ ラーニング	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索等の研究関連活動を行い、担当教員やゼミメンバー、専門家とディスカッションすることで学修を深める。
授業内の ICT 活用	文献検索、文献学習では大学図書館 HP を活用し、データベース検索、電子ジャーナル、学術情報リポジトリなどを活用する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究への取り組み 20% ・文献学習 40% ・課題レポート 40%
課題に対する フィード バック	・各領域で、ゼミ等により研究課題の進捗状況に合わせ指導教員からフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	・看護の学修で関心を持った内容に関し、文献を探しましたもの等をもとに、教員と学修を進めていく。そのため、事前・事後学修については担当教員と話し合いの上で行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	*テキスト、ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の動画視聴など
オフィス アワー	科目責任者：田口実里 研究室：1619 研究室 メールアドレス： misato-t@seirei.ac.jp 時間：随時※事前にメールにてアポイントを取っていただくと調整ができます
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	看護統合セミナー
科目責任者	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 7・8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP4 専門
科目の 位置付	看護専門分野や諸学の学識を用いて課題を探求し、多面的に考察することができる。
科目概要	看護専門職を目指す自己の課題を明確にして、保健・医療・福祉 の現状にあわせて看護実践を発展していくための能力を養う。
到達目標	<p>1. 統合実習で必要となる学修内容について、主体的に自分の課題解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>2. 理論的知識や先行研究、統合実習の学修成果等を活用し、急性期看護学に関連する自身の興味・関心があるトピックに関する学修ができる。</p> <p>3. 看護統合セミナー・統合実習の学修を通して、看護専門職としての自己の目標や課題を明確にできる。</p>
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <p>第 1 回 : オリエンテーション (4 月)</p> <p>第 2~10 回 : 統合実習にむけての事前学修・演習 (4~7 月 統合実習前)</p> <p>第 11~15 回 : グループワーク、関連する文献等を用いた課題レポート作成 (7~11 月 統合実習後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、統合実習と連動しながら学修を展開する習領域で履修する。 ・統合実習の場・対象者の特性などを踏まえて、統合実習前に実習に必要な知識・技術について、主体的に自らの課題解決に向けた学修に取り組む。 ・統合実習後に、統合実習での経験を振り返り、多角的な見方や論理的な考え方を深めて、テーマについて関連する文献等を用いた課題レポートを作成する。 ・統合実習での経験をもとに、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢の変化にあわせて、地域包括ケアにむけて必要な看護実践をさらに発展させるための方策について、演習・グループ ワーク等を通して考えを深める。

アクティブラーニング	・グループワーク等の演習科目です。グループメンバーと担当教員とディスカッションすることで学修を深めていきます。
授業内のICT活用	・演習、課題レポートの作成に関する面談や相談などにICT機器を利用した双方向型授業を適時取り入れます。
評価方法	・事前学習記録 20%、課題レポート 40%、グループワーク・演習における提出物 40% とします。 ・詳細は第1回オリエンテーションで説明します。
課題に対するフィードバック	・授業に関する質問・意見には、授業内あるいは個人面談等で回答します。
指定図書	これまで購入済みの図書を活用します。
参考図書	授業内で適時提示します。
事前・事後学修	【事前課題】 ・第2～10回：オリエンテーション時に提示されます。担当教員と連絡を取りながら期日までに取り組んでください。 ・第11～15回では、学修に統合実習の記録を使用します。記録に関連する知識の整理をしておいてください。また、統合実習の体験に基づく課題レポートを文献を活用しながら作成しますので必要な文献を適時収集してください。 【事後課題】 ・授業でわからなかつた事や気になることは各自で調べ再学習をしておきましょう。 ・授業で関心を持ったことを探求する学修を主体的に行いましょう。
オープンエデュケーションの活用	・文献検索等で文献検索エンジン（医学中央雑誌Web版）などを活用します。
オフィスアワー	担当者（藤浪・乾・氏原・寺田）に質問や相談がある際は、事前にG-mailでアポイントを取ってください。 ○藤浪千種（1208研究室）：chigusa-f@seirei.ac.jp ○乾友紀（1217研究室）：yuki-i@seirei.ac.jp ○氏原恵子（1210研究室）：keiko-u@seirei.ac.jp ○寺田康祐（1608研究室）：kousuke-t@seirei.ac.jp
実務経験に関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	・コロナ感染の影響などにより、グループ学習が困難な場合は適時遠隔授業を取り入れることがあります。 ・課題レポートの作成や文献検索等の個人的サポートに遠隔授業を取り入れることがあります。

科目名	国際看護実習
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	2 単位 (90 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP7 専門
科目の 位置付	地域および国際社会のニーズを捉え、看護専門職として自己研鑽することができる。
科目概要	日本での事前学習やシンガポールのリハビリテーション病院を中心とした保健医療施設での看護実習を通して、日本とシンガポールにおける社会文化的背景、健康のニーズ、保健・医療・看護の相違について学び、国際社会における看護専門職の役割と、専門職として貢献するための研鑽のしかた・将来の活動の方向性について考察する。
到達目標	<p>1. 日本とシンガポールの生活習慣、文化、健康課題、保健・医療システム、看護教育制度の相違点について説明できる。</p> <p>2. 臨地におけるシャドーイングを通して、シンガポールの健康課題と看護専門職の役割、看護実践、人々の健康を支援するための健康教育等のアプローチについて理解できる。</p> <p>1) 看護専門職として倫理的行動をとることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 患者のプライバシーを尊重し、得られた情報を守秘する。 ② 意欲的に学習に取り組み、謙虚に学ぶことができる。 ③ 問題解決のために積極的に行動し、報告・連絡
授業計画	<p><担当教員名> 小出扶美子、引率担当教員 <対象学生> 看護学部4年次生 2名</p> <p>【実習前課題学修】 4～8月</p> <p>1. 日本とシンガポールにおける生活習慣、文化、主な健康課題、保健・医療システム、看護教育制度についての文献学習・レポート作成</p> <p>2. 関心のある保健・医療・看護に関するテーマについて学ぶための実習計画書の作成</p> <p>3. 上記2で取り上げたテーマに関する英語によるプレゼンテーション資料の作成</p> <p>4. 語学学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 国際交流センター主催の英語講習への参加（1回/月） ② TOEIC受験：Listening & Reading Test（実習までに1回受験） <p>【臨地実習（2週間）】 9月（シンガポール ナンヤン理工学院・保健医療施設等）</p> <p>1. ナンヤン理工学院看護教員による保健・医療・看護に関する講義の受講 1日</p> <p>2. 【事前課題】 3で作成した資料を用いた英語によるプレゼンテーション</p> <p>3. shadowing 実習（例）</p> <p>① TTSN Ang-Mo Kio-Thye Hua Kwan Hospital（リハビリテーション病院）：4日間</p> <p>② Tan Tock Seng Hospital（タントクセン病院） Dover Park Hospice(ホスピス) Health Promotion Board（シンガポール健康省管轄 健康増進協会） 5日間 Home Nursing Foundation（訪問看護）、Polyclinic等</p> <p>※上記の施設で慢性看護、急性期看護、在宅看護、公衆衛生看護等の実習を行う。</p> <p>学生の実習目標によっては、実習施設は変更になることもあります。</p> <p>【実習後課題学修】 9-1 1月</p> <p>1. 学びの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実習前・実習中の学修内容をもとに、関心のあるテーマをとりあげ、シンガポール看護実習における学びについて、考察を加えてレポートにまとめる。 ② 國際的な観点から看護専門職の役割を考え、その役割を担うために、専門性を深め主体的・継続的な研鑽の計画を具体的にまとめる。 <p>2. 国際看護実習報告会で、実習の学びについてのプレゼンテーションを行う。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	シンガポールの医療保障制度、健康指標データを調べる、現地でのプレゼンテーションの資料を作成するために ICT を活用する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（事前文献学習レポート、英語によるプレゼンテーション資料、振り返りレポート、報告会プレゼンテーション資料を含む）40% ・臨地実習の目標達成度 40% ・事前・事後課題学修及び臨地実習に対する取り組み 20% 計 100% <p>※実習・レポートで評価するが、ループリックは用いません。</p>
課題に対する フィード バック	実習前・後の課題学修では、個人または履修学生全体に対し、課題レポートへのコメントの記載やディスカッションでの意見・助言を通して、課題とその成果に対するフィードバックを行います。 臨地実習では、1週目の3日間、担当教員1名が実習をサポートしながら、課題とその成果に対するフィードバックを行います。またナンヤン理工学院看護教員による実習評価の内容について、担当教員がフィードバックを行います。
指定図書	なし
参考図書	<p>知って考えて実践する国際看護（第2版），近藤麻理著，医学書院，2018</p> <p>『目で見る国際看護 vol. 1 国際看護の現状／vol. 2 グローバルヘルス』西川まり子監修、医学映像教育センター，2012。</p> <p>その他、実習前の文献学習や語学学習に役立つ文献・情報源について授業で随時紹介します。</p>
事前・ 事後学修	<p>【実習前課題学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習前の4～8月に、提示された課題について、各自、自己学習を行ってください。また語学学習①～③への参加・受講を必須とします。レポート作成等、時期により課題の量が異なりますが、週平均1～2時間の自己学習が必要です。そのほか、毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。 <p>【臨地実習中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習の内容の振り返りをまとめること。実習目標をふまえ、実習で学習したいことや質問したいことなどを英語で準備する。毎日、1～2時間程度です。 <p>【実習後課題学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習後の10～11月に、提示された課題について、各自、レポートを作成してください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省、統計情報・白書、2020年海外情勢報告より 第2章 東及び東南アジア地域にみる社会保障施策の概要と最近の動向、第3節 シンガポール共和国 (Republic of Singapore) https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/ https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/22/d1/c4-07.pdf ・世界保健機機構、Global Health Observatory (GHO) data Singapore. https://www.who.int/singapore/
オフィス アワー	科目責任者：小出扶美子（看護学部）2713研究室 メールアドレス：fumiko-k@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に月曜日午後としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールで連絡してください。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	急性期看護学実習
科目責任者	氏原 恵子
単位数他	3 単位 (135 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	急性期（周術期）にある人とその家族の全体像を理解し、必要な看護実践を行うための知識・技術・態度を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 周術期にある患者とその家族に关心を寄せ、適切な援助関係を築くことができる。 周術期にある患者とその家族の特徴を理解し、看護過程を展開できる。 周術期にある患者とその家族に対し、根拠に基づいた看護を実践できる。 看護学生として責任ある態度で実習できる。(健康管理、礼儀、報告・連絡・相談、約束を守る)
授業計画	<p><担当教員名> 大石ふみ子、藤浪千種、乾友紀、氏原恵子、寺田康祐 ほか</p> <p>【実習期間】 3 週間</p> <p>【実習施設】 聖隸三方原病院、聖隸浜松病院の成人外科系病棟、学内等</p> <p>【実習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床における受け持ち患者（家族）への看護実践 ・患者事例を用いた看護過程の展開 ・術前・術後看護のシミュレーション演習 ・臨床自習指導者とのカンファレンス（病棟指導者、手術室看護師） ・周術期看護の必要な看護技術演習 等 <p>詳細は『急性期看護学実習要項』『臨地看護学実習の手引き』をもとに、実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	WebClass を使用して、一部の提出物、課題、出欠管理を行います。
評価方法	・ループリックで評価します。 看護実践：80% 実習記録：15% 課題レポート：5%
課題に対する フィード バック	事前学習ワークブックは実習初日に担当教員が確認をします。 実習記録に関しては担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンスなどを含めて個人・グループに対して成果や課題などをフィードバックします。
指定図書	林直子他「成人看護学概論」南江堂、矢永勝彦他『臨床外科看護総論』医学書院 「成人看護学概論、成人看護援助論 I・II・III、成人看護援助論演習」で使用した教科書（「成人看護学2～10」「臨床検査」医学書院など）
参考図書	・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2019. ・任和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2019. *その他：実習病棟ごとに随時提示します。
事前・ 事後学修	周術期患者の看護には、解剖学、生理学、健康障害論をはじめ成人看護学の授業で学んだすべての内容（知識）を活用する必要があります。1年次からの学修の振り返りと事前学習ワークブックで知識の確認（復習）をするとともに、患者ケアに必要な看護技術を再確認してください。周術期患者の状態変化は非常に早いので事前準備の内容が実習成果に大きく影響します。日々の実習では、経過記録と振り返り・まとめ、自身の課題の確認＜約60分＞、知識、技術の再確認、看護過程の展開、翌日の行動計画立案＜約120分＞など少なくとも毎日の約180分の自己学修を習慣にしてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	以下の教材を活用し、看護技術や看護過程・疾患について学修してください。 エルゼビアジャパン：「ナーシングスキル日本語版(Elsevier)」 https://www.nursingskills.jp/ 医学映像センター：「VISUALEARN CLOUD」
オフィス アワー	質問や相談などは事前にGmailでアポイントを取ってください。 科目責任者：氏原恵子 1210研究室 keiko-u@seirei.ac.jp 各実習担当者への連絡方法は、初日のオリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	遠隔会議システム（ZOOM）を使用してカンファレンス等を行う場合があります。

目名	慢性看護学実習
科目責任者	河野 貴大
単位数他	3 単位 (135 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	慢性疾患を有する対象と家族を総合的に理解し、病をもって生活することに対する看護実践に必要な知識・技術・態度を演習、実習を行うことで学びます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患が有する対象と家族の生活に与える影響を、身体的、心理的、及び社会的側面から総合的に捉えることができる。 慢性疾患の特徴を理解し、長期的視点で必要な看護を理解できる。 病気をもって生活する対象と家族の療養上の問題を抽出し、看護過程を展開できる。 病気をもって生活する対象と家族が、自立した生活を送るための支援を理解し、看護を実践できる。 慢性疾患を有する対象への看護の看護実践を通して、病気をもって生活することに対する看護者としての考え方を深める。
	<p><担当教員名> : 河野貴大、大山未美、兼子夏奈子、山崎淑恵 他</p> <p>【実習期間】 3 週間</p> <p>【実習施設】 聖隸浜松病院、聖隸三方原病院の成人内科系病棟</p> <p>【実習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習目標を達成するために、本科目では、演習→実習→演習を行い学修します。 病棟実習では、慢性疾患を有する対象を受け持ち、対象と家族に対する看護を実践します。 実習における注意点、実習施設の所在地は「臨地看護実習の手引き」を、学修進度、詳細な実習方法、事前学修に関しては「慢性看護学実習要項」を熟読してください。 具体的な学修方法・内容・進度などは実習初日の学内オリエンテーションで説明します。
授業計画	

アクティブ ラーニング	実習科目です。 (授業に関する情報は、Web Class の慢性看護学実習に掲載しています)
授業内の ICT 活用	Web Class を使用し、一部の提出物、課題、出欠管理を行います。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ループリックで評価します。 <p>対象理解：20%，看護問題の抽出と実践（倫理観含む）70%，学内演習課題 10%</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習中盤、最終日にループリックを用いて学生個人と教員で形成的評価、総括的評価を面談を通して行います。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修課題については、実習ガイダンス（全体）時に提示します。WebClass にも掲載します。 実習中の記録は担当教員が毎日確認し、看護実践場面、カンファレンス等も含めて、個人・グループに対して成果や課題をフィードバックします。 演習に関しては、メンバーとディスカッションすることで学びの共有を行うとともに、教員からフィードバックを行います。
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> 成人看護学 慢性期看護 南江堂 成人看護学①『成人看護学概論／成人保健』メジカルフレンド社 成人看護学 2～8 医学書院 (「成人看護学概論、成人看護援助論 I・II・III、成人看護援助論演習」「健康障害論」で購入済み)
参考図書	対象に応じ学修に必要となるものを提示します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 提示された事前学修課題を実習・演習前に取り組み、既習の知識を整理する。看護技術については安全で安楽な援助（フィジカルアセスメント含む）が提供できると確信できるまでセルフトレーニングを実施してください。 実習中の事前・事後学修は、その日の看護の振り返り、翌日のケアに対する目的、安全性・根拠に基づいた計画、指導者・教員から提示された学修、ケアを提供するためのアセスメントなどを行うため、180 分/日程度の学修が必要です。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ナーシングスキルを活用し安全で安楽な看護技術が実施できるようにセルフトレーニングを行ってください。
オフィス アワー	科目責任者：河野貴大（看護学部）1608 研究室 : takahiro-k@seirei.ac.jp 各実習担当教員への連絡方法は、実習オリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は、「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	感染予防対策などの必要性がある場合、遠隔で実施することもあります。 その際、実習目標に到達するために、病棟単位の小集団でのシミュレーション演習を行います。

科目名	老年看護学実習Ⅱ
科目責任者	加藤 貴子
単位数他	3 単位 (135 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	高齢者施設で生活する高齢者の援助の実践を通して、高齢者看護に必要な基本的知識・技術・態度を身につけることを目的とする。
到達目標	<p>1. 高齢者に关心を持ち、適切なコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる。</p> <p>2. 老化による身体的・心理的变化及び社会的役割の変化を理解することができる。</p> <p>3. 疾病や障害を持つ自立を目指しながら生きる高齢者についての理解を深められる。</p> <p>4. 高齢者の身体的・精神的・心理的・社会的な特徴をふまえ、健康上・生活上の課題のアセスメントができる。</p> <p>5. 入居者（患者）を 1 名担当し、個別性の考慮・自立を目指した高齢者の生活支援を計画することができ、根拠に基づく適切な技術の実践及び評価ができる。</p> <p>6. 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムの現状を知り、看護の役割が理解できる。</p>
授業計画	<p>【担当教員名】 加藤 貴子 山田紀代美 木村暢男</p> <p>【実習期間】 臨地実習 3 週間 (実習前学内演習含む)</p> <p>【実習施設】 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 介護付き有料老人ホーム</p> <p>【実習方法】 実習初日：学内でのオリエンテーション 施設オリエンテーション 受け持ち対象者の決定 臨地実習 1～5 日間：高齢者 1 名を受け持ち、看護過程を展開し、実践・評価をする。 Shadow Nursing (半日) 学内演習 (高齢者疑似体験) 文献/視覚教材からの学習 *日程は祭日などで変更することがあります</p> <p>【記録・課題レポート】 実習前の事前学習レポート 実習中の看護実践・記録 (看護過程・日々の学びと振り返り) 実習後のレポート (老年看護学実習を通しての学びと課題)</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です 施設ごとに毎日カンファレンスを行い、実習最終日は各施設での学びの内容を発表し全体で意見交換を行います
授業内の ICT 活用	高齢者の疾患の特徴や看護について又はカンファレンスのテーマに関する必要な知識について、インターネットを利用して調べます。
評価方法	1. 目標達成度 90% 老年看護学実習Ⅱの実習評価参照（実習記録・実習態度含む） 2. 実習前学習 10% （事前学習課題レポート・演習及び演習レポート） 3. 実習のレポートに関してはループリックを用いない
課題に対する フィード バック	・実習記録へのコメントの記載、カンファレンスでの指導・助言、個別面談を行います ・実習終了後（記録提出時）に個別で面談しフィードバックを行います
指定図書	
参考図書	
事前・ 事後学修	事前課題は別紙配布し、実習オリエンテーションで説明します。 (約 320 分) 実習前学内演習は、高齢者体験装具を着用し疑似体験しその学びをレポートにまとめます。 (約 120 分)
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	加藤貴子：看護学部 研究室：1707 研究室 e-mail:takako-k@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があるため、領域の初回オリエンテーション時に提示します
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	実習科目です 施設ごとに毎日カンファレンスを行い、実習最終日は各施設での学びの内容を発表し全体で意見交換を行います

科目名	母性看護学実習
科目責任者	村松 美恵
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	母性看護援助論 I 、母性看護援助論 II で習得した知識や技術を活用し、妊産婦、新生児（胎児）、夫（パートナー）、家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護過程を用いて、親となり（あるいは新たな役割を引き受けて）新たな家族形成を必要とする人々に対する看護を学修する。また、ハイリスク新生児に接してその特徴を知り、児とその家族に対する看護を学修する。リプロダクティブ・ヘルス／ライフに関する知識の普及など生涯にわたる女性の健康の保持と増進について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦と新生児の特徴を理解し、看護の対象に積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもと五感を用いて対象のニーズの特定、看護過程の展開ができる。 2. 妊産婦と家族の権利を擁護し、看護者としての倫理を実践できる。 3. 対象のタイミング考えて、母性看護に特有な看護技術を実践できる。 4. 妊産婦と家族に必要な関係職種の専門性を生かした連携・協働、看護職に期待されている役割が理解できる。 5. 妊産婦との関わりを通して生命の尊厳について考えることができる。 6. リプロダクティブ・ヘルス／ライフに関する知識の普及など生涯にわたる女性の健康の保持と増進について考えることができる。 7. 緊急時（災害も含む）の看護職の果たす役割を理解できる。 8. 自ら進んで、労を厭わず多面的な経験をし、看護の概念の理解を深めることができる。 9. 学生間でメンバー・リーダーの役割を担うだけでなく、保健・医療・福祉チームの一員としての役割と責任が自覚できる。 10. 自己の健康管理を行い、看護専門職となるため自己を律して責任ある実習態度をとることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 村松美恵、藤本栄子、黒野智子、神崎江利子、室加千佳</p> <p>実習実習：聖隸三方原病院、聖隸浜松病院の 2 施設と地域での子育て支援ひろば等である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥・新生児看護実習：1組の母子を 1~2 名の学生で、継続して受け持つ。 2. 産婦看護実習：選択実習とし、選択者は事前に課題レポートを提出する。WebClass で、選択希望調査および課題内容の提示する。帝王切開分娩を受け持つこともある。 3. 妊婦看護実習・子育て（育児）支援実習：助産外来、出産準備クラス（母親学級など）、母乳外来、地域の子育て支援事業等に参加し、妊娠中や退院後の母児（およびその家族）の理解につなげると共に看護者と関連職種との連携についても学修する。 4. ハイリスク新生児看護実習：聖隸三方原病院 NICU、聖隸浜松病院 NICU・GCU にて、シャドウイング実習をする。 5. ハイリスク妊産婦実習：聖隸浜松病院 MFICU にて、シャドウイング実習や褥婦を継続して受け持つ実習を行う。聖隸三方原病院 C2 病棟にて妊婦を継続して受け持つこともある。 6. 妊産婦の日常生活を考え、保健指導案を作成する。 7. 緊急時（災害も含む）における妊産婦への支援について考える。 8. 地域の男女共同参画の現状や課題について考える。 <p>※実習スケジュールの詳細は、WebClass に掲載する。また、実習に関する様々な情報は、WebClass または g-mail で配信するため必ず確認すること。</p>

アクティブ ラーニング	自ら進んで労を厭わず多面的な経験をし学ぶ実習科目である。
授業内の ICT 活用	ICT 機器を利用してカンファレンスや実習内での理解度確認を行う双方向型実習を実施する。グループ発表のプレゼンテーションは、電子黒板を利用して行う。教員が作成した視聴覚教材を使用する。
評価方法	実習姿勢・実習記録・レポートをもとに実習目標達成度についてループリック（自己評価表に記載された項目参照）を用いて評価する（100%）
課題に対する フィード バック	学生の疑問に対しては、日々のカンファレンスや実習のまとめ、個別面談にてフィードバックする。
指定図書	母性看護学概論、母性看護援助論 I、母性看護援助論 II（2・3年次）で使用した教科書
参考図書	母性看護学概論、母性看護援助論 I、母性看護援助論 II（2・3年次）で提示した書籍、その他、実習中に随時紹介します。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 「母性看護学 学修ノート」、「母性看護実習 事前学修ワークブック」の設問は実習までに全て取り組むこと。講義時の配布資料も活用すること。 母性看護実習室（母性領域側）の沐浴槽は、学生が自主的に練習できるように準備してあるため、使用希望時間を予約表に記載し、実習前までに必ず練習すること。沐浴槽の予約方法、使用方法等は、WebClass に掲示している。 実習の手引きを WebClass に掲示しているため、事前に確認しておくこと。 自主学習として、以下の URL 講座の視聴を勧める。 NursingSkill www.nursingskills.jp MNN-009 産褥の退院指導 看護 roo https://www.kango-roo.com/mv/ 母性看護技術 VISUALEARN クラウド https://seirei.visualearn.jp/p/php/login.php
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	看護学部、2711 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示する。 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「助産師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	同時双方向型メディア授業を 1,2 日間行う。実習生は、WebClass に掲載する指定期間内に事例検討を行い、各自で検討した内容をもとに、同時双方向メディア実習を行い、学びを共有する。

科目名	小児看護学実習
科目責任者	山本 智子
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 6 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	健康な乳幼児の保育活動に参加し、子どもとの関わり方や成長・発達に適した日常生活の援助の方法を学修する。病院や医療型障害児入所施設で健康を障害した子どもや発達に障害をもつ子どもを受け持ち、生命の尊厳と隣人愛を基盤として、看護過程を展開しながら子どもとその家族を総合的に理解し、子どもとその家族への看護を学修する。
到達目標	<p>1. こども園実習 I</p> <p>1) 小児の成長・発達の特徴を理解するための観察の仕方を学ぶことができる。</p> <p>2) 子どもとの関わり方を学ぶことができる。</p> <p>2. こども園実習 II (保育園含む)</p> <p>1) 小児の成長・発達の特徴が理解できる。</p> <p>2) 家庭・地域社会など小児を取り巻く状況が理解できる。</p> <p>3) 小児に適した生活援助を実践することができる。</p> <p>3. 病院実習</p> <p>1) 小児の成長・発達の特徴が理解できる。</p> <p>2) 小児の現在の健康障害および健康レベルが理解できる。</p> <p>3) 健康障害・発達障害や入院・受診が小児と家族に及ぼす影響を理解できる。</p> <p>4) 小児と家族の理解に基づき看護過程が展開できる。</p> <p>5) 小児と家族の状況に応じた看護援助が実践できる。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 山本智子、小出扶美子、宮谷 恵、市江和子 他</p> <p>1. 実習場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こども園実習（保育園含む）は、聖隸クリストファー大学付属クリストファーこども園、聖隸こども園わかば、聖隸こども園桜ヶ丘、聖隸こども園ひかりの子、和光こども園、なごみこども園、聖隸浜松病院ひばり保育園、学内など。 ・ 病院実習は、聖隸浜松病院の小児病棟、聖隸三方原病院の小児病棟（病棟の状況によって小児科外来または PICU の見学を含む）、聖隸浜松病院小児科外来、聖隸おおぞら療育センター（医療型障害児入所施設）のうち、いずれか一ヶ所で行う。 <p>2. 実習期間：臨地実習は 2 週間行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内実習日（実習オリエンテーション、記録の整理等）2 日間 ・ こども園実習 I 1 日 ・ こども園実習 II 2 日間 ・ 病院実習 5 日間 <p>3. 実習計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こども園実習 I は導入実習であり、こども園実習 II に先行して行う。 ・ こども園実習と病院実習の実習計画は、事前に配布する小児看護学実習配置表に記載している。 ・ 状況に応じてオンラインを活用して実習する。 <p>4. 実習内容</p> <p>それぞれの実習の内容についての詳細は、実習オリエンテーションで説明をする。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目である。
授業内の ICT 活用	インターネットから必要な情報を検索して、実習記録 E-2（自己学習）、E-3（受け持ち患児の観察項目・内容）を学修する。 また、WebClass を使用する。
評価方法	実習記録や実習に取り組む姿勢から各実習目標の達成度を実習評価表の評価基準にそって評価をする。こども園実習Ⅱはループリックを用いて評価を行う。
課題に対する フィード バック	事前学習課題および実習中の課題はその都度確認し、個々にフィードバックを行う。
指定図書	小児看護学概論、小児看護援助論 I・II で使用した教科書。
参考図書	実習中に隨時提示する。
事前・ 事後学修	WebClass 内にある小児看護学実習のこども園実習 I・II 事前学習課題と小児看護学実習事前学習課題を行い、小児の成長・発達や小児看護実践に必要な知識と看護技術について事前学習をする。 実習中の学修は教員の指示に沿って、実習記録を進めていく。 実習用事前学習課題は 4 時間程度、実習中の日々の事前学習 1 時間、事後学習（実習の振り返り、看護過程の展開）は 1～2 時間程度とする。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし。
オフィス アワー	山本 智子：月曜日午後（1218 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp 小出 扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室）megumi-m@seirei.ac.jp 市江 和子：金曜日午前（1712 研究室）kazuko-i@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	精神看護学実習
科目責任者	清水 隆裕
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	精神医学的問題を抱える、または精神看護的アプローチを必要とする患者・クライエント（以下対象者とする）への看護を実践を通じて学ぶ。それは対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象者の全人的理解ができる。記録類の活用および対象者との対応等を通じ、対象者を身体/生物学的側面・精神/心理学的側面・文化/社会学的側面・実存/人間学的側面から説明ができる。 精神看護診断を行うことができる。精神看護診断の手続きを実行、表記することができる。 看護計画を立てることができる。インフォームド・コンセントに留意しながら、個々の対象に対応した援助計画が立てることができる。可能な限り対象者の同意を得た看護計画とする。 計画に基づいた日常生活の援助ができる。精神力動に留意しながら看護計画に基づいた日常生活の援助を実施することができる。 得られた結果から看護の評価、修正を行うことができる。ISOAP で看護過程を記載することにより、柔軟に情報の補充・修正、看護計画の修正を行うことができる。 治療的環境としての自己活用ができる。ペプロウの理論を参照しながら、出会いから別れまでを丁寧に営み、治療的な対人関係の基本を体験学習するとともに治療的環境としての看護師のあり方を下記を通じ学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> 1) 自己の内面にある偏見や価値観との葛藤を、学生のカンファレンスや教員との面接で言語化することができる。 2) 必要時、プロセスレコードを利用し治療的態度や距離を吟味しながら、対象者へ看護を行うことができる。 記録の記述、整理および活用ができる。 対象者の体験、語りを尊重した対人理解ができる。
授業計画	<p>担当教員／清水隆裕、入江拓、小平朋江、松本有希</p> <p>実習場所は聖隸三方原病院精神科急性期閉鎖病棟(C6 病棟)、 精神科身体合併症閉鎖病棟(C5 病棟) 朝山病院一般病床閉鎖病棟(3 病棟)、 精神一般病床準開放病棟(4 病棟) 精神一般病床閉鎖病棟(5 病棟)の5箇所のうち1箇所にて2週間おこなう。 詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習態度 40% (言葉遣い、スタッフ・患者への挨拶、積極性など) 実習内容 40% (対象者に対するかかわり、コミュニケーション、看護ケア) 実習記録 20% (提出期限や内容)
課題に対する フィード バック	日々の記録物や自己学習課題へのコメント、実習の内容を振り返る面接セッション
指定図書	精神看護学概論・精神看護援助論 I・精神看護援助論 IIで使用した教科書。
参考図書	実習の進行状況に合わせて、随時連絡します。
事前・ 事後学修	授業内容を復習して、実習に臨むこと。事後学修は適宜教員から示された課題を含め、記録や知識の整理等、毎日 120 分程度の自己学習を習慣づけてください。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	清水隆裕：看護学部 1214 研究室 e-mail : takahiro-sh@seirei.ac.jp 時間や各実習担当教員への連絡方法については、実習オリエンテーション時にお知らせします。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	在宅看護学実習
科目責任者	小池 武嗣
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	在宅看護の対象である療養者と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特性と看護過程を理解し、生活の場における看護技術の専門性を考察する実習を行う。在宅療養者の生活の質の向上に向けた法や制度の活用を理解し、地域包括ケアシステムの重要性、多職種の連携・協働を学ぶ実習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者と家族を総合的に捉え理解する。 2. 療養者・家族の療養生活のアセスメントを行い、課題解決に向けての援助方法を理解する。 3. 訪問看護の実際を学び、療養者と家族の生活に応じた援助方法を理解する。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護の継続性や多職種の連携の実際を学び、療養者・家族を支える社会資源の活用について理解する。 5. 看護学生としての礼節を重んじ専門職種としての態度・姿勢・行動を行うことができる。
	<p>担当教員名： 酒井昌子 山村江美子 小池武嗣 岩瀬美保</p> <p>実習期間：2 週間</p> <p>実習施設：訪問看護ステーション住吉、住吉第2、浅田、貴布祢、高丘、細江、三方原 富丘、三ヶ日、坂の上訪問看護ステーションあづきもち 聖隸ケアプランセンター和、浜松、いなさ、いなさ南部、浜北、細江、三方原 坂の上在宅医療支援医院</p> <p>実習方法：実習時間は 8:30～16:45 である。 現地実習 6 日間（1 日約 2 件 スタッフとともに同行訪問を行う）</p> <p>学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例に基づき、1 時間の訪問看護実践計画を作成する。 ・訪問場面のロールプレイを通して、訪問看護の実際を体験する。療養者・家族の思いを体験し対象の理解を深め、看護実践の援助内容を考察する。 ・訪問宅 1 件を選択し関連図の作成、在宅看護計画の立案 <p>カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニカンファレンス毎日 16:15～16:45（現地にて学生間） ・最終カンファレンス（現地指導担当者、学生、教員） ・学内のまとめ（最終日 9:00～12:00 学びの共有） <p>課題レポート 2 週間の実習を通し、2 点について論じる（1200 文字以上 A4 用紙 2 枚まで）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護の対象である療養者とその家族に対する理解 ②「生活の場」における看護実践の特性と看護師の専門性

アクティブ ラーニング	実習科目です
授業内の ICT 活用	必要時、遠隔会議システムなどを活用したオンライン実習となります。
評価方法	実習目標の達成度 20%　日々の記録・看護過程展開（関連図、看護計画）・課題レポート 60% 実習に取り組む姿勢や態度、記録物提出の状況 20%
課題に対する フィード バック	「毎日の記録」2枚は、担当教員に提出しフィードバックを受けた後、同行訪問スタッフに提出しコメント欄の記載によってフィードバックを受ける。関連図・看護計画の作成過程において、担当教員の個人指導によりフィードバックを受けて提出用に完成をさせる。
指定図書	河原加代子（著者代表、2022）：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I・II 医学書院
参考図書	なし
事前・ 事後学修	学年全体実習オリエンテーション時に、実習を履修するにあたっての事前課題を提示します。実習記録の「学習記録用紙」に事前課題をまとめ、実習中に資料として活用します。毎日毎回異なるご利用者宅に同行訪問をするため、同行訪問後の事後学修が必要となります。疾患や内服薬の学修、利用している社会サービスなどです。毎日の事後学修も、「学習記録用紙」に記述します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	科目責任者：小池武嗣（1607研究室）：takeshi-k@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事していることが多いため、メールでの連絡をお願い致します。 酒井昌子（3410研究室）：masako-s@seirei.ac.jp 山村江美子（3412研究室）：emiko-y@seirei.ac.jp 岩瀬美保（3413研究室）miho-i@seirei.ac.jp
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師・保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	実習科目です

科目名	統合実習
科目責任者	藤浪 千種
単位数他	2 単位 (90 時間) 必修 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	これまでの学内での学修および領域別看護学実習の経験を踏まえ、病院というシステムの中で、看護師をはじめとするチームで患者に提供されている医療と看護の現状を体験しながら、医療チームの一員としての看護実践のありかた、考え方、行動を主体的に学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多職種で提供されている医療や看護の流れの中での自分の役割を理解し医療チームの一員として行動できる。 2. 担当する複数の患者に対して患者の情報に基づき優先順位を考慮した行動計画を立てることができる。 3. 患者および周囲の状況を考慮して行動計画に必要な修正を加えながら複数患者へのケア提供、複数業務の遂行ができる。 4. 必要に応じて他の看護師や職種に支援を求める連携をはかることができる。 5. 看護を包括的・継続的観点で捉え、看護師としての役割を具体的に考えることができる。 6. 医療チームの一員として、医療安全について具体的に考えることができる。
授業計画	<p><授業内容・テーマ等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 病棟（単位）に 2~3 人の学生を配置して 2 週間の実習を行う。 ・病棟・施設の状況に応じて、複数患者を受け持ち看護チームのメンバーとしての業務等も行う。また、多職種カンファレンス・リーダーのシャドーイングなどにも参加する。

アクティブ ラーニング	・実習科目です。
授業内の ICT 活用	・事前事後の面談、課題レポートの作成に関する面談や相談などに ICT 機器を利用した双方型の方法を適時取り入れます。
評価方法	・評価は、目標達成度 80% (実践、カンファレンス、実習記録、実習態度) と課題レポート 20% で行います。 ・詳細は第 1 回オリエンテーションで説明します。
課題に対する フィード バック	・授業に関する意見・質問には授業内あるいは個人面談で回答します。
指定図書	これまで購入済みの図書を活用します。
参考図書	実習内で適時提示します。
事前・ 事後学修	<p>【事前課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護統合セミナーにおける学修内容を再確認しておきましょう。 ・実習配置が決定したら、実習病棟の診療科に関連する疾患・治療・看護等の学修を進めておきましょう。 <p>【事後課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習の振り返りをし、翌日の実習に備えましょう。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	・ビジュランクラウド等を活用します。
オフィス アワー	<p>担当者（藤浪・乾・氏原・寺田）に質問や相談がある際は、事前に G-mail でアポイントを取ってください。</p> <p>○藤浪千種（1208 研究室）: chigusa-f@seirei.ac.jp ○乾友紀（1217 研究室）: yuki-i@seirei.ac.jp ○氏原恵子（1210 研究室）: keiko-u@seirei.ac.jp ○寺田康祐（1608 研究室）: kousuke-t@seirei.ac.jp</p>
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染の影響などにより、臨地での学修が困難な場合は適時 ICT 機器を活用した遠隔講義・演習・カンファレンスなどを行います。 ・課題、個人面談などに ICT 機器を活用することがあります。

科目名	公衆衛生看護活動論 (2021年度入学生)																														
科目責任者	江口 晶子																														
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター																														
DP 番号と 科目領域	DP5 専門																														
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。																														
科目概要	公衆衛生看護が働きかける対象である全ての地域住民への支援において、最大限の効果を發揮するための発展的・総合的な活動のあり方を論点とする。各ライフステージ、あらゆる健康レベル、脆弱性・リスクを持った個人とその家族のみならず、集団・組織・地域・ケアシステムをアセスメントする力の形成に重点を置き、特に、複雑化する健康課題に戦略的に対応するため、多職種連携、市民協働、政策形成参画による包括的アプローチの意義と方法論を学修する。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 各ライフステージおよび特定の健康課題に応じた保健活動にかかる法制度や施策を、その動向を踏まえて理解できる。 各ライフステージおよび特定の健康課題に応じた保健活動の展開方法および保健師の役割や支援の特徴を理解できる。 各ライフステージおよび特定の健康課題をもつ人々の健康課題に対応するための、地域ケアシステムの構築を始めとする包括的アプローチの実際を理解できる。 																														
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、三輪眞知子、池永理恵子、若杉早苗、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回：母子保健① 母子保健活動の動向と法制度</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第2回：母子保健② 母子保健における健康課題と支援の実際</td> <td>長山ひかる</td> </tr> <tr> <td>第3回：成人保健 成人保健における健康課題と支援の実際</td> <td>ゲストスピーカー：静岡県保健師</td> </tr> <tr> <td>第4回：高齢者保健① 高齢者保健活動の動向と法制度</td> <td>若杉早苗</td> </tr> <tr> <td>第5回：高齢者保健② 高齢者保健における健康課題と支援の実際</td> <td>若杉早苗</td> </tr> <tr> <td>第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第10回：感染症対策② / 結核対策に関する法制度と支援の実際</td> <td>江口晶子</td> </tr> <tr> <td>第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向</td> <td>ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師</td> </tr> <tr> <td>第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際</td> <td>ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師</td> </tr> <tr> <td>第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>江口晶子</td> </tr> </tbody> </table>	第1回：母子保健① 母子保健活動の動向と法制度	江口晶子	第2回：母子保健② 母子保健における健康課題と支援の実際	長山ひかる	第3回：成人保健 成人保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：静岡県保健師	第4回：高齢者保健① 高齢者保健活動の動向と法制度	若杉早苗	第5回：高齢者保健② 高齢者保健における健康課題と支援の実際	若杉早苗	第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第10回：感染症対策② / 結核対策に関する法制度と支援の実際	江口晶子	第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師	第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師	第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向	池永理恵子	第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際	池永理恵子	第15回：まとめ	江口晶子
第1回：母子保健① 母子保健活動の動向と法制度	江口晶子																														
第2回：母子保健② 母子保健における健康課題と支援の実際	長山ひかる																														
第3回：成人保健 成人保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：静岡県保健師																														
第4回：高齢者保健① 高齢者保健活動の動向と法制度	若杉早苗																														
第5回：高齢者保健② 高齢者保健における健康課題と支援の実際	若杉早苗																														
第6回：障害児(者)保健 障害者(児)保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第7回：精神保健 精神保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第8回：難病保健 難病保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第9回：感染症対策① 感染症保健活動に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第10回：感染症対策② / 結核対策に関する法制度と支援の実際	江口晶子																														
第11回：産業保健① / 産業保健の基礎知識、法制度と活動の動向	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師																														
第12回：産業保健② / 産業保健における健康課題と支援の実際	ゲストスピーカー：聖隸福祉事業団保健師																														
第13回：学校保健① / 学校保健の基本的知識、法制度と活動の動向	池永理恵子																														
第14回：学校保健② / 学校保健における健康課題と支援の実際	池永理恵子																														
第15回：まとめ	江口晶子																														

アクティブ ラーニング	授業内で提示するテーマに関するバズセッションやグループワークを行う。
授業内の ICT 活用	Web Class や Google Forms を利用して、授業の理解度や授業内容に関する質問等への回答を求め、全体で共有する。
評価方法	定期試験：70%、小テスト：25%、課題提出物（ミニレポート）：15% ※再試験は実施しない。
課題に対する フィード バック	授業の中で課題のフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動論 医学書院 公衆衛生がみえる 2022-2023 メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
参考図書	井伊久美子他 編：保健師業務要覧 第4版 2023年版 日本看護協会出版会 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会 編：乳幼児健診マニュアル 第6版 医学書院 古川亮子、市江和子 編著：母性・小児看護ぜんぶガイド 第2版、照林社 その他、授業の中で随時提示する。
事前・事後学修	授業時及びWeb class を用いて、次回授業の事前課題や予習内容を提示する。 知識の定着状況を確認するため、第2回、第5回、第7回、第8回、第10回が終了後、Web class を用いた小テストを行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	ビジュランクラウド
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール (akiko-e@seirei.ac.jp) でアポイントをとっていただけないと確実です。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護活動論演習
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 6 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	本演習では、公衆衛生看護学実習を行う市町を対象に、地域特性や住民の健康、生活に関する情報を、既存資料や地区視診等により収集・整理、分析し、健康課題を検討するプロセスを通して、公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断の技術の修得をめざす。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 対象地域の地域特性や住民の健康状態、生活実態に関する情報を、コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域のアセスメントの視点を参考に収集・整理、分析することができる。 対象地域の統計データを、年次推移や全国・県のデータとの比較等から分析し、現状および今後予測される傾向を記述することができる。 対象地域の地区視診を実施し、とらえた情報を整理、記述することができる。 得られた情報や分析結果を統合し、対象地域の地域特性の概要および、住民の健康状態と生活実態の概要を説明することができる。 対象地域の地域特性、住民の健康状態、生活実態との関連の検討をもとに、健康課題を予測することができる。 健康課題の背景にある地域特性、住民の健康と生活の実態、関連する社会資源等の検討を行い、健康課題の構造図を記述することができる。
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、長山ひかる、遠山大成、三輪眞知子</p> <p><授業内容></p> <p>本授業は、「地域診断ノート」を用いた個人ワーク、公衆衛生看護学実習と連動した小グループによるグループワークと地区視診を組み合わせて行う。</p> <p>※ 詳細は「公衆衛生看護活動論演習要項」に示す。</p>

アクティブラーニング	本授業は、公衆衛生看護学実習と連動した小グループによるグループワークの他、フィールドワーク（地区視診）を取り入れて実施する。
授業内のICT活用	Web class のループリック機能を利用する。
評価方法	参加態度（グループワーク）：15%、記録物（個人）：60%、グループ作成の成果物、発表内容：25% ※成果発表の内容はループリックを用いて評価を行う。
課題に対するフィードバック	個人ワーク、グループワークの内容について、授業の中およびWeb class 等を利用して、随時、コメントやフィードバックを行う。 成果の発表会ではコメントカードを使用して教員および学生相互にフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動論 医学書院 公衆衛生がみえる 2022-2023 メディックメディア 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
参考図書	佐伯和子 編著：地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版、医歯薬出版株式会社
事前・事後学修	初回オリエンテーション時に提示する。
オープンエデュケーションの活用	初回オリエンテーション時に提示する。
オフィスアワー	オフィスアワーの時間は、初回オリエンテーション時に提示する。 江口晶子 (1207研究室: akiko-e@seirei.ac.jp) 遠山大成 (1680研究室: taisei-t@seirei.ac.jp) 長山ひかる
実務経験に関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア授業の実施について	なし

科目名	公衆衛生看護総合演習
科目責任者	江口 晶子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP5 専門
科目の 位置付	専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、対象の特性を踏まえた看護の実践力を身につけている。
科目概要	公衆衛生看護活動展開論演習と公衆衛生看護学実習で行った地域の健康課題抽出、活動計画立案の過程より、地域の健康課題とその課題を解決するための施策を検討するための思考過程を整理する。整理された施策の内容から、対策を1つ絞って事業案を作成し、事業化のプロセスを学ぶ。その事業案を、実習市町に提案し、地域の健康課題解決に貢献することを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> これまでの公衆衛生看護活動展開論演習や公衆衛生看護学実習において、公衆衛生看護活動は、PDCAサイクルによって展開されていることを再認識できる。 今までの演習や実習で取り組んだ内容を、情報収集、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として再度整理できる。 2で整理した過程から健康課題を明確化し、施策を検討できる。 施策を実現するための事業化案の作成により、施策と事業の位置づけを理解できる。 事業化のプロセスを述べることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 江口晶子、長山ひかる、遠山大成、三輪眞知子</p> <p>◇演習オリエンテーション 第1回：事業化・事業の評価の視点（講義）</p> <p>◇情報の統合と分析 第2、3回：公衆衛生看護学実習で収集した健康問題関連情報を整理し、統合して分析する。3年次の演習・4年次の実習で得た情報を統合し、分析する。 第4回：今まで出ていた地域の健康課題を再度検討し、根拠を明らかにする。課題解決のための既存事業の改善や社会資源の開発なども検討する。 第5回：これまでの内容を、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として整理する。 第6、7回：地域の健康課題解決のための事業案を作成する。 事業案は、事業の目的、裏付けとなる根拠、内容、評価、予算について提案する。新規事業だけではなく、既存の事業の修正なども含み、提案する。</p> <p>◇事業案のプレゼンテーションとディスカッション 第8、9回：プレゼンテーション準備 事業企画書作成、パワーポイント作成（根拠となるデータや社会資源等）。 第10、11回：事業案をグループ毎に発表し、市町単位で情報を共有する。 第12-14回：成果報告会として、地域の健康課題解決のための事業案を発表する。市町・保健所の実習指導者より助言を受ける。</p> <p>◇演習まとめ 第15回：これまでの事業化プロセスを、個人・グループで振り返る。教員から演習全体を通じたフィードバックを受ける。</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・学生主導のグループ発表 / ディスカッション ・協働学習 / 問題解決型学習
授業内の ICT 活用	Webclass を利用して授業内での理解度確認を行う双方向型授業を行う。 Zoom を利用してオンライン上でのディスカッションを行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習への取り組み (20%) ・演習記録・プレゼンテーション資料 等 (40%) ・当日のプレゼンテーション内容 (20%) ・演習の振り返りレポート (20%) <p>※当日のプレゼンテーション評価は、ループリックを用いて行う。評価項目は、オリエンテーション時に示す。</p>
課題に対する フィード バック	学生は各回ごとに指定の課題様式を担当教員提出し、進捗状況及び目標達成状況についての確認を受け、以降の進め方について個別に指導を受ける。
指定図書	標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」医学書院：(購入済み) 標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術論」医学書院：(購入済み) 標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動論」医学書院：(購入済み) 保健師のためのデータ活用ブック、中板育美、東京図書（株）, 2018
参考図書	「公衆衛生がみえる」メディックメディア
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護展開論演習、公衆衛生看護学実習で収集した地域アセスメントに関する情報を整理する。(第1回) ・今まで授業で学んだ地域アセスメント、公衆衛生看護活動の計画・実践・評価のプロセスをテキストや授業配布資料等を使い復習する。文献を収集する。(第2?7回) ・事後学修は、各回ごとに教員の助言を受け、不足する部分の内容を補う。 <p>いずれも所要時間は 40 分である。</p>
オープンエ デュケーシ ョンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Stat (政府統計ポータルサイト)
オフィス アワー	各教員のオフィスアワーの時間が異なるため、授業初日に提示する。 江口 晶子 (1207 研究室: akiko-e@seirei.ac.jp) 長山ひかる (2711 研究室) 遠山 大成 (1680 研究室: taisei-t@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	新型コロナウイルス対策の特例として、履修人数が 80 名を超えた場合は、2 教室間での遠隔授業を基本とする。

科目名	公衆衛生看護管理論																
科目責任者	三輪 真知子																
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 8 セメスター																
DP 番号と 科目領域	DP6 専門																
科目の 位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。																
科目概要	公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、だれもが暮らしやすい地域になるように働きかけることであり、保健師の専門性そのものである。 この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理がなぜ必要か、理解することができる。 2. 保健師活動における看護管理の特徴、機能を理解することができる。 3. 保健師活動の中で、公衆衛生看護管理の機能を見出すことができる。 4. 健康危機管理の視点で、公衆衛生看護活動が理解できる。 																
授業計画	<p><担当教員名> 三輪真知子、土屋厚子、江口晶子、長山ひかる、遠山大成</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <table> <tbody> <tr> <td>第1回：科目ガイダンス 公衆衛生看護管理の目的と機能</td> <td>三輪真知子</td> </tr> <tr> <td>第2回：公衆衛生看護における管理機能：地区管理/事例管理/事業管理/保健師の専門性</td> <td>土屋厚子</td> </tr> <tr> <td>第3回：公衆衛生看護における管理機能：組織運営・管理/予算管理/人事管理/人材育成、情報管理①</td> <td>土屋厚子</td> </tr> <tr> <td>第4回：行政における公衆衛生看護管理：組織運営・管理/予算管理/人事管理/人材育成、情報管理②</td> <td>土屋厚子</td> </tr> <tr> <td>第5回：健康危機管理（災害）</td> <td>土屋厚子</td> </tr> <tr> <td>第6回：健康危機管理（感染症）</td> <td>土屋厚子</td> </tr> <tr> <td>第7回：公衆衛生看護における継続教育</td> <td>土屋厚子</td> </tr> <tr> <td>第8回：まとめ（専門的自律、質保証としての研究）</td> <td>三輪真知子</td> </tr> </tbody> </table>	第1回：科目ガイダンス 公衆衛生看護管理の目的と機能	三輪真知子	第2回：公衆衛生看護における管理機能：地区管理/事例管理/事業管理/保健師の専門性	土屋厚子	第3回：公衆衛生看護における管理機能：組織運営・管理/予算管理/人事管理/人材育成、情報管理①	土屋厚子	第4回：行政における公衆衛生看護管理：組織運営・管理/予算管理/人事管理/人材育成、情報管理②	土屋厚子	第5回：健康危機管理（災害）	土屋厚子	第6回：健康危機管理（感染症）	土屋厚子	第7回：公衆衛生看護における継続教育	土屋厚子	第8回：まとめ（専門的自律、質保証としての研究）	三輪真知子
第1回：科目ガイダンス 公衆衛生看護管理の目的と機能	三輪真知子																
第2回：公衆衛生看護における管理機能：地区管理/事例管理/事業管理/保健師の専門性	土屋厚子																
第3回：公衆衛生看護における管理機能：組織運営・管理/予算管理/人事管理/人材育成、情報管理①	土屋厚子																
第4回：行政における公衆衛生看護管理：組織運営・管理/予算管理/人事管理/人材育成、情報管理②	土屋厚子																
第5回：健康危機管理（災害）	土屋厚子																
第6回：健康危機管理（感染症）	土屋厚子																
第7回：公衆衛生看護における継続教育	土屋厚子																
第8回：まとめ（専門的自律、質保証としての研究）	三輪真知子																

アクティブ ラーニング	毎回、短時間のグループディスカッションを取り入れる。
授業内の ICT 活用	WebClass を活用して、学生が、自身の意見を述べたり、他者の意見を閲覧したりする。
評価方法	課題提出物とディスカッションやグループワークの参加状況:10%、小テスト 3 回:1 回目 10/12 (木)・2 回目 10/19 (木)・3 回目 10/24 (火) : 90%
課題に対する フィード バック	授業の中で行う。
指定図書	標準保健師講座 I 「公衆衛生看護学概論」 医学書院（購入済み） 標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術論」 医学書院（購入済み） 標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動論」 医学書院（購入済み） 最新 保健学講座 5 公衆衛生看護管理 メディカルフレンド社
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書のページを指定する、または、課題を提示するので、その部分を読む、課題に取り組む等、40 分以上の予習をして授業に臨むこと。 事後学修：授業の内容をもとに復習の要点、各自が調べる内容を提示するので、各自その課題に取り組む。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	科目内で学習した P-P スライドおよび事例検討におけるグループワークの意見を Webclass で閲覧できるように掲載していく。
オフィス アワー	水曜日の昼休みとする。実習等で不在の場合もあるため事前にメール（machiko-m@seirei.ac.jp）でアポイントをとっていただけないと確実です。講師の土屋厚子先生への質問は、科目責任者に連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	本科目は「保健師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目である。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	公衆衛生看護学実習
科目責任者	長山 ひかる
単位数他	4 単位 (180 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	DP6 専門
科目の 位置付	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
科目概要	都道府県及び政令指定都市や市町の行政責任において実施されている公衆衛生看護活動の実際を理解し、地域で生活している全ての人々を対象とした予防的意義の高い保健活動の実際を学ぶ。さらに、地域で生活している人々が安心して暮らせるための地域ケアシステム構築のための公衆衛生活動（地区活動）のあり方を考察する。
到達目標	看護専門職としての専門性とその責務を自覚し、主体的に多職種と連携・協働することができる。 1. 地域診断を行い地域の健康課題を明らかにし、その解決策を検討することができる。 2. 事業の体系として施策が理解でき、施策の策定における地域ケアシステムの機能と運営について考えることができる。 3. 個人・家族・集団に対して健康課題解決のための公衆衛生看護技術の実践ができる。 4. 地域の住民や関係機関と連携して活動する意義が理解できる。
授業計画	<担当教員名> 長山ひかる、遠山大成、江口晶子、三輪眞知子 第 1 日目：公衆衛生看護学実習についてのオリエンテーション 実習のプロセス：家庭訪問（主体的実践）、健康教育、地域診断の 3 つの軸で実習をおこなう 第 2～20 日目 1. 家庭訪問：選定した対象者の主体的な保健指導実践 1) 家庭訪問事例の選定 2) 保健師の家庭訪問に同行・見学 3) 選定事例のアセスメント及び訪問計画・保健指導計画作成 4) 主体的訪問の実践（実施）及び評価 2. 健康教育：健康課題を解決するための教育計画の作成 1) 公衆衛生看護活動展開演習で抽出した健康問題に対する教育計画の作成 2) 健康教育対象者の選定 3) 保健師がおこなう健康教育の見学 4) 健康教育の準備（リハーサル） 5) 健康教育の実施及び評価 3. 地域診断：収集した健康問題の分析報告と関連する保健事業体系図の作成 1) 公衆衛生看護活動展開論演習で抽出した健康問題に関連する情報と収集する方法を検討し、地域診断計画を作成する 2) 地域診断計画に沿って質的・量的情報収集をおこなう 3) 収集した情報を分析し、健康問題を明確化する 4) 地域診断により抽出された健康問題に対し行われている保健事業、対策を把握する 4. 地域の予防活動に関連した地区組織や自主組織活動、地域レベルでの連絡会議等に参加し、活動の意義や地域の健康ニーズに対しどのように有効に機能しているか理解する <実習時の体験項目> 1. 保健師技術習得：家庭訪問及び健康教育の実践 2. 地域診断：地域課題の調査及び分析 3. 保健行政システムの理解：対象者を支援する地域ケアシステムを整理する 4. 健康危機管理における公衆衛生看護活動の理解：集団感染発生時の活動の聞き取り

アクティブ ラーニング	実習科目です。
授業内の ICT 活用	実習場で健康教育の教育企画を行うにあたり、インターネットから得た情報を参考に活用しながら企画をおこなう。そのため、遠隔地において学生が共有できるパソコンの支給及びインターネット環境を確保する。ICT 機器を使用して実習成果（健康教育、地域診断）の達成度確認をおこなう双方向授業をおこなう。 公衆衛生看護学実習に関する様式等を、Webclass に掲載し活用を促す。
評価方法	○実習記録 70% 個別評価：家庭訪問計画 10%、健康危機管理 10%、支援困難事例 10%、保健所実習記録 10% グループ評価：健康教育 15%、地域診断 15% ○実習後レポート 20%（個別） ○実習に取り組む姿勢や態度 10%（個別）
課題に対する フィード バック	日々の実習日誌及び日々のミニカンファレンスでフィードバックをおこないます。
指定図書	『乳幼児健診マニュアル 第 5 版』（医学書院）：購入済み 『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』：医学書院：購入済み 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』：医学書院：購入済み 『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』：医学書院：購入済み 『国民衛生の動向』：（厚生労働統計協会編）： 購入済み 『国民の福祉と介護の動向』：（厚生労働統計協会編）： 購入済み
参考図書	公衆衛生がみえる 2020–2021 : MEDICMEDIA : 購入済み この他については、随時紹介します
事前・事後学修	公衆衛生看護に関わる法律を基本としたワーク (2022–2023 年度 公衆衛生看護実習要項参照) 実習で参加する事業に関係する事前・事後課題は随時、担当教員より紹介します。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	自主学習として下記のサイトを紹介する。 内閣府、経済産業省 地域診断分析システム RESAS https://resas.go.jp/#/13/13101 厚生労働省 HP 厚生白書、働く女性の実状 等 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 学術機関ジポリトリ https://irdb.nii.ac.jp/ J-Stage https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
オフィス アワー	面談・指導等が必要な場合は、事前に実習指導担当教員にメールでアポイントメントをお願いします。
実務経験に 関する記述	本科目は保健師の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	健康相談活動																															
科目責任者	池永 理恵子																															
単位数他	2 単位 (30 時間)	選択 5 セメスター																														
DP 番号と 科目領域	教 DP (2) 教職																															
科目の 位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。																															
科目概要	<p>教科書及びその他の資料を活用しながら、学校現場で起こっている児童生徒の心身の健康問題を明らかにし、養護教諭としての健康相談活動の在り方について理解を深める。</p> <p>健康相談活動の基本的な考え方とその進め方、支援体制づくりについて事例を通して学ぶ。</p> <p>養護教諭の健康相談に生かせる理論や方法をグループ演習等で実践的に学び、具体的な養護活動の展開について考察する。</p>																															
到達目標	<p>養護教諭の職務の一つである健康相談について、身体的・心理学的・社会的な側面からアプローチする方法を学び、学校教育活動全体における健康相談の位置づけや重要性について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康課題が多様化している現状を踏まえ、養護教諭が行う健康相談活動・健康相談の変遷や理論、意義及び役割について理解することができる。 養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かし、児童生徒に生じた心身の健康課題に則した健康相談活動のプロセスを理解して行動することができる。 あらゆる養護活動の実践を通して、心身の健康課題の発見・分析・判断し、健康問題の改善及び解決へと導く実践力を身に付けることができる。 関係者が連携して心身の健康問題の解決を図り、あらゆる機会を捉え、教育活動につなげることができる。 																															
授業計画	<table> <tr> <td>第1回 オリエンテーション、健康相談の法的根拠</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第2回 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第3回 養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした健康相談 ゲストスピーカー 三木とみ子先生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回 健康相談を支える諸理論、多職種連携</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第5回 健康相談におけるアセスメントの方法①</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第6回 健康相談活動におけるアセスメントの方法②</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第7回 健康相談の進め方（基本的な流れとプロセス）</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第8回 健康相談における社会資源の活用と連携 課題発表</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第9回 健康相談における守秘義務と情報管理</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第10回 健康相談・健康相談活動の記録の方法と活用</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第11回 保健室における健康相談の実際：基本的対応：演習 1</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第12回 保健室における康相談の実際：連携が必要な対応：演習 2 (不登校・いじめ等の事例を通して考える)</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第13回 保健室における康相談の実際：対応困難な事例：演習 3</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第14回 子どもの心身症、小児精神科領域の疾患理解 課題発表</td> <td>池永理恵子</td> </tr> <tr> <td>第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題</td> <td>池永理恵子</td> </tr> </table>		第1回 オリエンテーション、健康相談の法的根拠	池永理恵子	第2回 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景	池永理恵子	第3回 養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした健康相談 ゲストスピーカー 三木とみ子先生		第4回 健康相談を支える諸理論、多職種連携	池永理恵子	第5回 健康相談におけるアセスメントの方法①	池永理恵子	第6回 健康相談活動におけるアセスメントの方法②	池永理恵子	第7回 健康相談の進め方（基本的な流れとプロセス）	池永理恵子	第8回 健康相談における社会資源の活用と連携 課題発表	池永理恵子	第9回 健康相談における守秘義務と情報管理	池永理恵子	第10回 健康相談・健康相談活動の記録の方法と活用	池永理恵子	第11回 保健室における健康相談の実際：基本的対応：演習 1	池永理恵子	第12回 保健室における康相談の実際：連携が必要な対応：演習 2 (不登校・いじめ等の事例を通して考える)	池永理恵子	第13回 保健室における康相談の実際：対応困難な事例：演習 3	池永理恵子	第14回 子どもの心身症、小児精神科領域の疾患理解 課題発表	池永理恵子	第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題	池永理恵子
第1回 オリエンテーション、健康相談の法的根拠	池永理恵子																															
第2回 児童生徒の心身の健康課題の現状と背景	池永理恵子																															
第3回 養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした健康相談 ゲストスピーカー 三木とみ子先生																																
第4回 健康相談を支える諸理論、多職種連携	池永理恵子																															
第5回 健康相談におけるアセスメントの方法①	池永理恵子																															
第6回 健康相談活動におけるアセスメントの方法②	池永理恵子																															
第7回 健康相談の進め方（基本的な流れとプロセス）	池永理恵子																															
第8回 健康相談における社会資源の活用と連携 課題発表	池永理恵子																															
第9回 健康相談における守秘義務と情報管理	池永理恵子																															
第10回 健康相談・健康相談活動の記録の方法と活用	池永理恵子																															
第11回 保健室における健康相談の実際：基本的対応：演習 1	池永理恵子																															
第12回 保健室における康相談の実際：連携が必要な対応：演習 2 (不登校・いじめ等の事例を通して考える)	池永理恵子																															
第13回 保健室における康相談の実際：対応困難な事例：演習 3	池永理恵子																															
第14回 子どもの心身症、小児精神科領域の疾患理解 課題発表	池永理恵子																															
第15回 まとめ、養護教諭に求められる専門性と今日的課題	池永理恵子																															

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、毎回、グループワーク、ディスカッションを取り入れて実施する。 ・第8回、第14回では課題発表、第11回～13回ではロールプレイングを行う。
授業内のICT活用	・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。
評価方法	<p>リアクションペーパー・課題提出物 20%</p> <p>グループワーク・演習・ロールプレイングへの参加度 (演習の到達目標は、自己チェック項目を提示し、評価視点を示す。) 20%</p> <p>筆記試験 60% 計 100%</p>
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題については、コメントを添えて返却する。 ・リアクションペーパーは、授業内容を振り返りながら、授業の感想や学んだことの羅列ではなく、新たな気付き、理解を深めたことを書く。なお、記載内容で重要なものは、次回の授業で回答したり紹介する。
指定図書	編著者:大谷尚子・鈴木美智子・森田光子/養護教諭必携シリーズNo.2 新版 養護教諭の行う健康相談/東山書房/ISBN : 978-4-8278-1546-7
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・三木とみ子・徳山美智子編集『養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際』(ぎょうせい) ・日本学校保健会「養護教諭が行う健康相談活動の進め方」 ・日本学校保健会「子どものメンタルヘルスの理解とその対応」 <p>※その他、必要時応じて随時紹介する。</p>
事前・事後学修	<p>1 コマあたりの事前・事後学修時間は原則40分とする。学修方法については、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容やテーマについて、事前に指示する指定図書（テキスト）の箇所を読んでから講義に臨むこと。 ・授業で使う資料を授業中あるいは事前に配付するので、事前・事後学修に活用する。 ・授業後に、小テストまたはワークシート記入を実施すること（1～14回目）。 <p>授業範囲の中から簡単な小テストを実施するので、理解度の評価に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について疑問や詳しく知りたいことがある場合は、各授業において紹介した図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。
オープンエデュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照してください。</p> <p>1 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm ・学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm <p>2 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/</p>
オフィスアワー	<p>科目責任者：池永理恵子（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします）</p> <p>オフィスアワーは、原則、講義日の講義終了後から18時までとします。</p> <p>講義日以外でも対応できますが、会議等で研究室を不在にする場合もありますので、事前にメールで予約を入れていただくと、確実に時間をとって対応できます。</p> <p>メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし

科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間																															
科目責任者	梅澤 収																															
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 5 セメスター																															
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職																															
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけていく。																															
科目概要	<p>(担当 : 米原 優)</p> <p>①道徳教育の意義、②日本における道徳教育の歴史、③『学習指導要領』における道徳教育の位置づけ、④道徳教育の基盤となる諸理論について概説する。また、いじめという現代社会において道徳教育が取り組むべき問題についても論じる。</p> <p>(担当 : 梅澤 収)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等について概説したうえで、指導計画の作成の考え方を養護教諭の立場から実践的に考察する。 ・特別活動の意義・目標や内容、そして主要な論点等を概説したうえで、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。 																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育における道徳（の時間）の意義や主要な論点などを理解し、児童・生徒の発達に即した道徳教育の実践について考察する。 2. 総合的な学習の時間の意義・原理と主要な論点等を理解するとともに、養護教諭の立場から指導計画の作成の考え方を実践的に考察する。 3. 特別活動の意義・目標や内容を理解するとともに、養護教諭の立場から、特別活動の実践と課題について考察する。 																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回 : 道徳とは何か</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 2 回 : 道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 3 回 : 道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 4 回 : 道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 5 回 : 道徳教育の理論① コールバーグの理論</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 6 回 : 道徳教育の理論② リップマンの理論</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 7 回 : 道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 8 回 : 道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育</td> <td>米原 優</td> </tr> <tr> <td>第 9 回 : 総合的な学習の時間とは? (成り立ちと学習指導要領の位置)</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第 10 回 : 総合的な学習の時間の理論</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第 11 回 : 総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第 12 回 : 総合的な学習における養護教諭の役割と可能性</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第 13 回 : 特別活動とは? (成り立ちと学習指導要領の位置)</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第 14 回 : 特別活動の理論と実践</td> <td>梅澤 収</td> </tr> <tr> <td>第 15 回 : 特別活動における養護教諭の役割と可能性</td> <td>梅澤 収</td> </tr> </table>		第 1 回 : 道徳とは何か	米原 優	第 2 回 : 道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点	米原 優	第 3 回 : 道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材	米原 優	第 4 回 : 道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容	米原 優	第 5 回 : 道徳教育の理論① コールバーグの理論	米原 優	第 6 回 : 道徳教育の理論② リップマンの理論	米原 優	第 7 回 : 道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育	米原 優	第 8 回 : 道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育	米原 優	第 9 回 : 総合的な学習の時間とは? (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収	第 10 回 : 総合的な学習の時間の理論	梅澤 収	第 11 回 : 総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題	梅澤 収	第 12 回 : 総合的な学習における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収	第 13 回 : 特別活動とは? (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収	第 14 回 : 特別活動の理論と実践	梅澤 収	第 15 回 : 特別活動における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収
第 1 回 : 道徳とは何か	米原 優																															
第 2 回 : 道徳教育の歴史① 戦前の道徳教育とその問題点	米原 優																															
第 3 回 : 道徳教育の歴史② 戦後の道徳教育とその教材	米原 優																															
第 4 回 : 道徳教育の現状 『学習指導要領』における道徳教育の目標と内容	米原 優																															
第 5 回 : 道徳教育の理論① コールバーグの理論	米原 優																															
第 6 回 : 道徳教育の理論② リップマンの理論	米原 優																															
第 7 回 : 道徳教育の新たな視点① いじめ問題と道徳教育	米原 優																															
第 8 回 : 道徳教育の新たな視点② ネットいじめと道徳教育	米原 優																															
第 9 回 : 総合的な学習の時間とは? (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収																															
第 10 回 : 総合的な学習の時間の理論	梅澤 収																															
第 11 回 : 総合的な学習の指導計画の作成の考え方とその課題	梅澤 収																															
第 12 回 : 総合的な学習における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収																															
第 13 回 : 特別活動とは? (成り立ちと学習指導要領の位置)	梅澤 収																															
第 14 回 : 特別活動の理論と実践	梅澤 収																															
第 15 回 : 特別活動における養護教諭の役割と可能性	梅澤 収																															

アクティブ ラーニング	○ディスカッション、○グループワーク、○プレゼンテーション
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	(担当：梅澤 収) 最終試験 (80%)、授業への参加度等(20%) (担当：米原 優) 授業の中間および最終レポート(計 80%)、授業への参加度等(20%)
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	授業開始時に提示する。
事前・ 事後学修	なし
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	生徒指導の理論と方法
科目責任者	太田 正義
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	多様化する児童生徒の状況、家庭の状況、社会の状況に対する理解を深め、生徒指導の理論を理解するとともに、具体的な事例を通して生徒指導の実践力を身につける。そのために生徒指導についての理論的な理解に加え、演習を行い、実践的な技術の習得を目指す。また、事例とともに校内の生徒指導体制の整備や他機関との連携の実際について学ぶことで実践力の涵養を目指す。
到達目標	①生徒指導の意義や原理を理解する。 ②すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 ③児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。
授業計画	<p>第 1 回：学校教育における生徒指導の役割—生徒指導提要を読み解く</p> <p>第 2 回：子どもの発達と生徒指導—生徒指導と発達課題</p> <p>第 3 回：学級経営、学校行事と生徒指導</p> <p>第 4 回：養護教育と生徒指導</p> <p>第 5 回：問題行動と生徒指導 1 (いじめ・暴力など)</p> <p>第 6 回：問題行動と生徒指導 2 (不登校・自傷行為など)</p> <p>第 7 回：校則と生徒指導</p> <p>第 8 回：「チームとしての学校」と生徒指導</p>

アクティブ ラーニング	なし
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	講義中のミニレポート 20%, 講義中の取り組みの姿勢 20%, 定期試験 60%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	なし
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護実習事前事後指導
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(1) 教職
科目の 位置付	教育に関する基礎的な教養・技能を身につけている。
科目概要	事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。
到達目標	<p>1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。</p> <p>2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。</p> <p>3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p>◎養護実習 I (4月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・健康診断の各検査・計測についての注意事項・実施方法の講義(練習) ・学校保健管理ソフトの使い方の演習(ゲストスピーカー：ソフト開発会社職員) <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返りによる学びの共有(グループ単位で発表会) <p>◎養護実習 II (9月実施)について</p> <p><実習前></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育現場の現状について(ゲストスピーカー：飯田真也先生) ・学校保健の概要、応急処置シミュレーション ・指導案の書き方についての指導 ・発達障害児童生徒の理解 (ゲストスピーカー：深澤裕子先生) ・実習記録の書き方 <p><実習後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り(個人面接) ・実習のまとめ (発表会) <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習 I の事前指導において、学校保健管理ソフトの使い方について、ソフト開発者による指導のもと、実際にパソコンを使って演習する。 ・実習の振り返りの発表会では、プロジェクトを利用してプレゼンテーションを行う予定。
評価方法	授業への取り組み態度 50 %、振り返りのレポート 50 %
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかりと行うこと。少なくとも 40 分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) (研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします) 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護実習Ⅰ
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1 単位(45時間) 選択 7セメスター
DP番号と 科目領域	教DP(2)教職
科目の 位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校での健康診断の補助または生徒や教職員との関わりを通して、学校保健活動や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<p>1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。</p> <p>2. 学校における教育計画やその運営、養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、生徒の健康や生活実態を、実際の健康診断の補助を行うことを通して理解する。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><実習時期・期間・場所></p> <p>4年次4月(1週間) 聖隸クリストファー中・高等学校</p> <p>※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	なし
評価方法	実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりとおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導につなげる。少なくとも 40 分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) (研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします) 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	養護実習Ⅱ
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	3 単位 (135 時間) 選択 7 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(2) 教職
科目の 位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<p>1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。</p> <p>2. 学校における教育計画やその運営（学校の組織、教育目標、教育課程）、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。</p> <p>3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、池永理恵子、太田知実</p> <p><実習時期・期間・場所></p> <p>4年次 9月 (3週間) 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
授業内の ICT 活用	なし。
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことを毎回しっかりとおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも 40 分以上は行う。
オープンエ デュケーシ ョンの活用	なし
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 池永理恵子(看護学部) (研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします) 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。
実務経験に 関する記述	なし
メディア 授業の実施 について	なし

科目名	教職実践演習（養護教諭）
科目責任者	池永 理恵子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 8 セメスター
DP 番号と 科目領域	教 DP(2) 教職
科目の 位置付	養護教諭として必要な専門的知識・技能を身につけている。
科目概要	養護実習で学び体験したことを総合的に学習しながら、児童生徒の健康ニーズに対応できる養護教諭に必要な基礎的な実践力を身に付ける。
到達目標	<p>1. 養護教諭としての使命感や責任感に基づいた確かな実践力を身に付ける。</p> <p>2. 養護実習での体験を振り返りながら、養護教諭として必要な基本的な資質（教員として使命感・責任感・教育的愛情、対人関係能力、児童生徒への理解・支援、学校保健活動、保健室経営、保健教育など）に関する自らの課題を自覚する。</p> <p>3. 養護教諭に求められる多職種連携についての基本的連携技術を対応困難事例を通して習得する。</p>
授業内容	<p><授業内容></p> <p><担当教員名> 池永理恵子、長峰伸治、太田知実</p> <p>第1回 ガイダンス、教員に求められる資質能力</p> <p>第2回 保健だより及び掲示物の発表・フィードバック</p> <p>第3回 チーム学校における養護教諭の役割と連携①</p> <p>第4回 チーム学校における養護教諭の役割と連携②</p> <p>第5回 チーム学校における養護教諭の役割と連携③</p> <p>第6回 チーム学校における養護教諭の役割と連携④</p> <p>第7回 保健室での対応(主に救急処置について) 1 : 実践</p> <p>第8回 保健室での対応(主に健康相談活動について) 2 : 実践、フィードバック</p> <p>第9回 模擬授業の実施 (受講生全員一人ずつ行う)</p> <p>第10回 模擬授業に対するフィードバック (グループに分かれて)</p> <p>第11回 発達障害児童生徒の問題行動への支援について ゲストスピーカー：深澤裕子先生</p> <p>第12回 スクールソーシャルワーカーによるレクチャー ゲストスピーカー：夏目由起子先生</p> <p>第13回 特別支援教育と性教育について ゲストスピーカー：津田聰子先生</p> <p>第14回 学校現場体験（静岡県立西部特別支援学校）1 : 参観</p> <p>第15回 学校現場体験（静岡県立西部特別支援学校）2 : 校長・養護教諭講話</p>

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第2、7、8回はグループワーク、第3～6回は事例をもとにロールプレイを行う。 ・第9回は模擬授業の発表を行い、第10回にはディスカッションを実施する。 ・第14～15回はフィールドワークを行う。
授業内のICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業においては、プレゼンテーション時にプロジェクターを使用する。 ・第9回模擬授業発表時にプロジェクターを使用して行う場合がある。
評価方法	授業への取り組み態度（授業中の態度だけでなく、本科目前後に実施するループリックによる自己評価とそれを用いた面談も評価対象になる） 50% 事前・事後の課題(レポートなど) 50%
課題に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後に出される課題について授業中に全体の場でフィードバックする。 ・履修カルテ（ループリック評価）を用いて面談を行い、これまでの学修の振り返りを行う。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・養護実習の振り返りをしながら事前課題にしっかりと取り組む。 ・事後においては本授業行ったことを養護実習での自らの課題に照らし合わせ、履修カルテに基づいて自分なりの総括を行う。少なくとも40分以上は行う。
オープンエデュケーションの活用	<p>講義内容の参考資料として、次のホームページを参照する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 文部科学省ホームページの「教育カテゴリー」 <ul style="list-style-type: none"> 教育に関する基本的な法律・計画など https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm 学校保健、学校安全、食育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_k.htm 小学校、中学校、高等学校 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm 特別支援教育 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm など 日本学校保健会ホームページの学校保健ポータルサイト https://www.gakkohoken.jp/ 学校現場体験先ホームページ http://www.edu.pref.shizuoka.jp/seibu-sh/home.nsf/
オフィスアワー	<p>池永理恵子（看護学部）（研究室、メールアドレスは、授業の中でお知らせします） 長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 太田知実(看護学部) 1210 研究室 tomomi-ot@seirei.ac.jp 対応できる時間については初回授業時に提示します。 必ず事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けています。</p>
実務経験に関する記述	本科目は「養護教諭」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。
メディア授業の実施について	なし